

科目名	言語表現論		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

*参加型のアクティブラーニングで授業を進めます。

社会で求められているコミュニケーション能力とは何かを理解し

必要なスキルを実践的に学び、「書く」「考える」「伝える」「理解する」力の基礎を身に付ける。

グループワークで、アウトプット、フィードバックの訓練をおこないます。

自分の考えを言語化し、見える状態にすることから始めます。

マインドマップを基本ツールとしてマスターしてもらいます。

内容

- 1 この授業の意味と評価の方法。
- 2 コミュニケーション能力とは何か。
- 3 マインドマップというツール
- 4 メディア力を高める
- 5 考える、書く、実行する方法 1
- 6 考える、書く、実行する方法 2
- 7 相手理解と伝える行為 1
- 8 相手理解と伝える行為 2
- 9 伝わる・揺さぶる 1
- 10 伝わる・揺さぶる 2
- 11 アウトプットとフィードバック
- 12 社会が求める言語運用能力とのギャップ
- 13 続けるコツと助け合い
- 14 継続的マップ化
- 15 振り返り

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 (三省堂)

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業中に書く文章および授業の取り組みで総合評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Se If-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂）

* 前期必修の「言語表現」と同じテキストです。

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂）

科目名	文章表現コミュニケーション		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂）

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年次前期音声表現コミュニケーション(基礎)で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年次前期音声表現コミュニケーションで、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年次前期音声表現コミュニケーションで、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年次前期音声表現コミュニケーションで、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは (4クラス共通)
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法 (4クラス共通)
10. 課題：<立論/反対尋問シートの提出>
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成(1)
13. フローシート作成(2)
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しくみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められます。

自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に的確に届けられる話し手になるために、また相手の立場に立って話をしっかり聴ける人間になるためにどうしたらよいのかを考えます。

さらに、さまざまな人間関係とコミュニケーションについても考察し、敬語のポイントも学びます。

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞き、文章を読んだりスピーチをしたりします。

それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを押さえます。さらに、インタビューやパワーポイントを用いた発表なども行います。

評価

授業内での演習の成績(40%)、口頭発表(30%)、レポート(20%)、授業への貢献度(10%)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】話しことばの花束(好本恵、リヨン社)

【推薦書】【参考図書】については、最初の授業で指示や説明があります。

科目名	ビジネス文書演習		
担当教員名	福田 弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

文章表現を通じてのコミュニケーション能力向上の一環として、本科目ではビジネスの分野で使用される文書、文章表現に焦点をあてその能力の向上を図る。

科目概要は内容欄で詳述するがビジネス文書作成に必要な基礎知識を講義形式で学び、さらに課題文の作成を通じビジネス文書とは何かまたその作成をどう行うかを学ぶ。

講義では、なるべくわかりやすい表現を用いるが、内容が内容だけに受講者にとって耳慣れない言葉や表現が出てくると思われる。わからないことをそのままにせず積極的に質問をし不明点をただし理解することが望まれる。

課題文の演習では12の文書を作成するが、すぐれた文書を作成するには学生が自ら創造(想像)力を働かせる必要がある。作成中に積極的に質問し疑問点を解消し文書を作成することが望まれる。また悪い例文の修正も課題として行う(6例)

。

提出され文書は添削して返却されるので添削内容を理解し次回以降に生かして欲しい。学生諸氏の文章を題材として反省の講評も行う。

内容

下記スケジュールを基本とするが状況により多少前後する。受講者が作成した文書は添削し原則として次週に返却する。

1	コースの紹介
2	講義ービジネス文書の概要
3	講義ービジネス文書作成の基本
4	演習ービジネス文書作成 3件
5	演習ービジネス文書作成 2件
6	演習ービジネス文書作成 1件
7	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし講評、例文修正(3件)及び復習QUIZ
8	講義ー会社の組織と意思決定
9	講義ー社外文書作成の基本的ポイント
10	演習ー社外文書作成 3件
11	演習ー社外文書作成 2件
12	演習ー社外文書作成 1件
13	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし講評及び例文修正(3件)
14	講義ー契約関係文書
15	講義ービジネス文書作成術まとめ及び復習QUIZ

評価

課題60% 復習QUIZ20% 授業時のパフォーマンス20%

60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

菊池康人・敬語・講談社学術文庫

永崎一則・正しい敬語の使い方・PHP文庫

科目名	ビジネス文書演習		
担当教員名	福田 弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

文章表現を通じてのコミュニケーション能力向上の一環として、本科目ではビジネスの分野で使用される文書、文章表現に焦点をあてその能力の向上を図る。

科目概要は内容欄で詳述するがビジネス文書作成に必要な基礎知識を講義形式で学び、さらに課題文の作成を通じビジネス文書とは何かまたその作成をどう行うかを学ぶ。

講義では、なるべくわかりやすい表現を用いるが、内容が内容だけに受講者にとって耳慣れない言葉や表現が出てくると思われる。わからないことをそのままにせず積極的に質問をし不明点をただし理解することが望まれる。

課題文の演習では12の文書を作成するが、すぐれた文書を作成するには学生が自ら創造(想像)力を働かせる必要がある。作成中に積極的に質問し疑問点を解消し文書を作成することが望まれる。また悪い例文の修正も課題として行う(6例)

提出され文書は添削して返却されるので添削内容を理解し次回以降に生かして欲しい。学生諸氏の文章を題材として反省の講評も行う。

内容

下記スケジュールを基本とするが状況により多少前後する。受講者が作成した文書は添削し原則として次週に返却する。

1	コースの紹介
2	講義ービジネス文書の概要
3	講義ービジネス文書作成の基本
4	演習ービジネス文書作成 3件
5	演習ービジネス文書作成 2件
6	演習ービジネス文書作成 1件
7	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし講評、例文修正(3件)及び復習QUIZ
8	講義ー会社の組織と意思決定
9	講義ー社外文書作成の基本的ポイント
10	演習ー社外文書作成 3件
11	演習ー社外文書作成 2件
12	演習ー社外文書作成 1件
13	復習ー前3週の受講者作成の文書を題材とし講評及び例文修正(3件)
14	講義ー契約関係文書
15	講義ービジネス文書作成術まとめ及び復習QUIZ

評価

課題60% 復習QUIZ20% 授業時のパフォーマンス20%

60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

菊池康人・敬語・講談社学術文庫

永崎一則・正しい敬語の使い方・PHP文庫

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これは3、4年生の選択必修科目です。

履修上の注意として、2011年度後期に佐藤担当の「文章表現コミュニケーション」を受講した学生は原則、履修を認めません。基礎的な分野で内容が一部重なる可能性のあること、さらに他のクラスを選択することによって多様な観点からの表現技法に触れることが望ましいと考えるからです。

前期の と後期の は、連続して履修することを前提にして内容が組み立てられていますから、注意してください。

書く力を養うことによって、<自分>を発信していく力を高めます。

私たちは何かを考えようとするとき、頭脳のなかで物事を文章化して整理しています。

つまり<考えること=書くこと>なのです。ふたつの力を切り離すことはできません。

こうした捉え方に立って授業では、「書く」「考える」を軸に、その材料をインプットする「読む」を加えて、以下のように多角的な演習を通じて実践的にそれぞれの能力の向上をめざします。

内容

この「文章表現ワークショップ」では、分かりやすい文章を書くための基本的な知識と技法を取り上げ、演習を通じて習得します。同時に、基礎的な語彙力についてワークシートなどで向上を図ります。

なお、後期の「文章表現ワークショップ」では、 の応用に重点を置き、論理的な文章から実用的な文章まで、社会人基礎力につながる実践的な「書く力」の習熟をめざします。課題の文章を指定の時間内に指定の文字数でまとめあげることが目標に、フィードバックにもとづく反復練習に主眼を置きます。

1回：何のために書くのか。

2～10回：分かりやすい文章表現技法10か条

提示された「悪文例」について、その書き換えを自分で試み、提出します。この作業によって「分かりにくさを生む」ポイントに気づき、必要な知識と技法を身につけていくことができます。最後に「添削例」を書き写すことで、分かりやすい文章のリズムから修辞まで、自ずと習得されます。また、併行して語彙ドリルを解きます。このような流れの演習をほぼ毎回繰り返します。

11～14回：課題のテーマで一定の時間内に文章を書きます。次回の授業で、全体へのコメントと個々への添削という形でフィードバックします。

15回：まとめ

毎回、B4版の原稿用紙(400字詰め、縦書き用)を持参すること。これ以外の形式の用紙は認めません。

評価

演習課題の文章やレポートが60点、期末テストが40点の計100点。60点以上を合格とします。
4回以上の欠席は受講放棄とみなします。課題の不提出は2回で欠席1回相当とみなします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

配布プリントのほか、参考文献などは適宜紹介します。

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

自分のメディア力を高める!

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。

考える道具としての文章表現、説得するための文章表現、楽しむための文章表現、それぞれの能力を演習を通して向上させることを目的とします。Webやブログ、雑誌の中の効果的な表現を分析的に見ていきます。また、ここから学んだTipsを用い実践的な演習を積み、表現能力の向上を目指します。授業はグループワークセッションを基本に進めます。ワークの中ではMind-mapを用いたOut putの訓練も併せておこないます。

講義の性質上、授業内の演習だけでなく、たくさんの課題を課すこととなりますが、学生諸君の積極的な参加を希望します。

内容

- 第1回 何のための文章表現?
- 第2回 Mind-mapと文章作成
- 第3回 表現とフィードバック
- 第4回 身近なメディアを使った文章表現
- 第5回 ゲスト
- 第6回 分かりやすさ分かりにくさの分析
- 第7回 Web・ブログでの文章表現分析
- 第8回 課題プレゼン1
- 第9回 コンテンツを探す
- 第10回 情報の編集とOut put
- 第11回 グループセッション1
- 第12回 グループセッション2
- 第13回~第15回 まとめOut put 1~3

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80

A < 90 S (4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

自分の考えや思いを文章に表現して人に伝える。そのためには実際に文章を書き、推敲し、また他人の文章を読んで表現を磨くという作業が必要です。この科目の性格は、各自が実践的に文章を学び、自己を表現する楽しみを得ることと考えます。授業では世界中で最も有名な日本の古典である『源氏物語』を扱います。『源氏物語』は長い時代にわたって多様な人々に受け入れられ、現代まで伝えられてきた価値ある文学作品です。受験勉強で苦しんだ古文の文法は大幅にカットして、まずは『源氏物語』原文を音読してみましょう。そして、受講生各自の感性によって現代語で翻訳を試みましょう。古典を読み、内容を把握して翻訳するという作業を何度も繰り返し実践することによって、自分で探り当てた情報を正確に自己発信する能力が得られます。最後に、作者が何を書きたかったのか、その内実に迫り、古代と現代の女性の生き方について考えることが最終的な目標です。

内容

最初に『源氏物語』全体について知り、原文の描写を踏まえたくうえで、いくつかの名場面を味わいます。次に現代語での翻訳を試みます。翻訳といっても文法に忠実な現代語訳ではなく、思い切った意識を目指します。最後にそれぞれが翻訳した文章をいくつか選んで小冊子を作りたいと思います。

1	ガイダンス
2	『源氏物語』の作者について・時代背景について
3	『源氏物語』という作品について
4	物語の始まり～光源氏誕生～
5	若き源氏の恋～空蝉・夕顔・若紫～
6	名場面を翻訳してみよう
7	生霊になった女性～六条御息所～
8	名場面を翻訳してみよう
9	第二部の始まり～女三宮降嫁～
10	紫の上の死～萩の上の露～
11	名場面を翻訳してみよう
12	第三部の始まり～宇治の姫君～
13	最後の女性～浮舟～
14	名場面を翻訳してみよう
15	物語の結末～続きを創作してみよう・小冊子の作成

評価

授業中の課題への取り組みなどの平常点が40点、各時間と最終的に提出するレポート内容が60点で、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】ビギナーズクラシックス『源氏物語』角川書店

『源氏物語』の参考書はたくさんありますので、授業の中で適宜紹介していきます。

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これは3、4年生の選択必修科目です。

履修上の注意として、2011年度後期に佐藤担当の「文章表現コミュニケーション」を受講した学生は原則、履修を認めません。基礎的な分野で内容が一部重なる可能性のあること、さらに他のクラスを選択することによって多様な観点からの表現技法に触れることが望ましいと考えるからです。

この は、前期の と連続して履修することを前提にして内容が組み立てられていますから、注意してください。

書く力を養うことによって、<自分>を発信していく力を高めます。

私たちは何かを考えようとするとき、頭脳のなかで物事を文章化して整理しています。

つまり<考えること=書くこと>なのです。ふたつの力を切り離すことはできません。

こうした捉え方に立って授業では、「書く」「考える」を軸に、その材料をインプットする「読む」を加えて、以下のように多角的な演習を通じて実践的にそれぞれの能力の向上をめざします。

内容

この「文章表現ワークショップ」は、前期の応用に重点を置き、論理的な文章から実用的な文章まで、社会人基礎力につながる実際の「書く力」の習熟をめざします。課題の文章を指定の時間内に指定の文字数でまとめあげることが目標に、フィードバックにもとづく反復練習に主眼を置きます。

なお、前期の では、分かりやすい文章を書くための基本的な知識と技法を取り上げ、演習を通じて習得します。同時に、基礎的な語彙力についてワークシートなどで向上を図ります。

1～6回：論理的な文章の効果的な書き方

発想、材料、展開、構成、語彙、修辞など説得力ある文章を組み立てるために必要な知識と技法を習得します。

7～8回：敬意表現の基本

苦手な尊敬語、謙譲語を克服できるようにワークシートを使って実践的に学びます。

9～10回：手紙やメールのマナーなど実用文の作法

11～12回：間違いやすい熟語、慣用句

ワークシートを使います。

13～14回：課題の文章作成

15回：まとめ

毎回、B4版の原稿用紙（400字詰め、縦書き用）を持参すること。これ以外の形式の用紙は認めません。

評価

演習課題の文章やレポートが60点、期末テストが40点の計100点。60点以上を合格とします。
4回以上の欠席は受講放棄とみなします。課題の不提出は2回で欠席1回相当とみなします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

配布プリントのほか、参考文献などは適宜紹介します。

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目では社会で広く求められることばによるコミュニケーション能力の向上を目的とします。ことばで他者との意思疎通を図るのに重要な文章表現の基礎づくりに重点をおきます。社会で求められることばによる表現は、他者の要求を正確に受けとめ、最も適切な方法で伝えることにあります。そのために必要な文章の基礎を学び、内容に見合う情報収集・整理の仕方を知り、自分の考えを効果的に文章で伝える技術を修得します。これらをふまえて課題だけでなく、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。

科目の概要

様々なタイプの文章を読み、媒体ごとの対象、内容、構成の違い、文章表現の技術面(2, 3, 4)、必要な情報収集・整理法(5, 6, 7)、社会で応用可能な文章表現の構成(8, 9, 10)を学び、演習による文章表現の向上(11, 12, 13, 14)を目指します。

学修目標

授業では随時課題を提示し、添削 - 返却 - 解説を基本形態とします。

多様な文章の形態を学習し、課題を通じて実践に役立つ「表現する力」を養います。

社会で求められる情報の整理と伝達がスムーズに行える文章表現能力の向上を図ります。

内容

1	ガイダンス	ことばによるコミュニケーション
2	自己紹介文	自分の思考パターンを知る
3	随筆	表記の基礎
4	手紙	対象に相応しい文言
5	説明文	主題に対する情報収集
6	説明文	情報の整理
7	新聞・雑誌記事	主題に対する広範な情報収集と整理法
8	コンセプトの決定	情報の活用
9	アウトラインの決定	材料の組み立て方
10	レポート・論説文	主題の選択とコンセプト・アウトラインの構成
11	自分の考えを文章にする	創作について
12	創作の構成	
13	演習	
14	解説	
15	まとめ	

評価

各回の課題作成、提出と授業への取り組みなどで40点、演習と期末の試験で60点による評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜紹介していきます。

科目名	文章表現ワークショップ		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目では社会で広く求められることばによるコミュニケーション能力の向上を目的とします。ことばで他者との意思疎通を図るのに重要な文章表現の基礎づくりに重点をおきます。社会で求められることばによる表現は、他者の要求を正確に受けとめ、最も適切な方法で伝えることにあります。そのために必要な文章の基礎を学び、内容に見合う情報収集・整理の仕方を知り、自分の考えを効果的に文章で伝える技術を修得します。これらをふまえて課題だけでなく、自分の考えを発信する方法の文章表現として、創作に必要な主題・構成についても学びます。

科目の概要

様々なタイプの文章を読み、媒体ごとの対象、内容、構成の違い、文章表現の技術面(2, 3, 4)、必要な情報収集・整理法(5, 6, 7)、社会で応用可能な文章表現の構成(8, 9, 10)を学び、演習による文章表現の向上(11, 12, 13, 14)を目指します。

学修目標

授業では随時課題を提示し、添削 - 返却 - 解説を基本形態とします。

多様な文章の形態を学習し、課題を通じて実践に役立つ「表現する力」を養います。

社会で求められる情報の整理と伝達がスムーズに行える文章表現能力の向上を図ります。

内容

1	ガイダンス	ことばによるコミュニケーション
2	自己紹介文	自分の思考パターンを知る
3	随筆	表記の基礎
4	手紙	対象に相応しい文言
5	説明文	主題に対する情報収集
6	説明文	情報の整理
7	新聞・雑誌記事	主題に対する広範な情報収集と整理法
8	コンセプトの決定	情報の活用
9	アウトラインの決定	材料の組み立て方
10	レポート・論説文	主題の選択とコンセプト・アウトラインの構成
11	自分の考えを文章にする	創作について
12	創作の構成	
13	演習	
14	解説	
15	まとめ	

評価

各回の課題作成、提出と授業への取り組みなどで40点、演習と期末の試験で60点による評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜紹介していきます。

科目名	音声表現ワークショップ		
担当教員名	大西 勝也		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーションの基本である文書と会話(書きことばと話しことば)のうち、公的な場面で使う「話しことば」を中心に、論理的でわかりやすい伝え方をみにつけます。

科目の概要

変化を続ける日本語は、世代による違い、所属する社会、多言語社会への対応も含め、伝統的なことばの規範性をもとに、さまざまな場面での話し方を体験します。

学修目標

豊かな表現を身につけるための考え方、正確で分かりやすい話し方を基本に、効果的な表現法を学びます。具体的には、課題の作成、スピーチの実習、意見発表等を実践します。

内容

「音声表現コミュニケーション」で学んだ内容を深め、実践的な課題に取り組む実習を中心に、次のようなテーマで授業を進めます。レポート作成・実習には、積極的に取り組んでください。

授業内容

1回	ガイダンス	話しことばの特性
2回	日本語の特徴	話しことばの基礎である日本語の特徴
3回	話しことばの文章	正確に、分かりやすく伝える文章構成
4回	話し方の実習	発声・発音・姿勢・体力作り(自己紹介)
5回	話し方の実習	短いことばの威力
6回	話し方の実習	敬意(敬語)表現について
7回	話し方の実習	一般社会の敬意表現(発表)
8回	話し方の実習	映像を使ったプレゼンテーション
9回	話し方の実習	「事実と意見」の違い
10回	話し方の実習	「事実と意見」の表現法
11回	ことばの多様化	専門用語の外来語化
12回	高度な音声表現	情報を読んで伝える
13回	高度な音声表現	文学作品を読んで伝える
14回	現代の日本語	これからの時代の日本語、伝えるべきものはなにか
15回	前期・授業のまとめ	

評価

話し方実習（30%）、課題作成（20%）、期末試験（50%）、60%以上を合格とします。
合格点に満たない場合は再試験、またはレポート提出とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

外山滋比古『思考の整理学』（ちくま文庫）、木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

山口弘明『プレゼンテーションの進め方』（日経文庫）

このほか、授業中にも随時紹介します。

科目名	音声表現ワークショップ		
担当教員名	大西 勝也		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーションの基本である文書と会話(書きことばと話しことば)のうち、公的な場面で使う話しことばを中心に、論理的でわかりやすい伝え方を身につけます。

科目の概要

前期「音声表現ワークショップ」の内容をさらに深めながら、受講者各自が相互に音声表現力を高め合い、実践的な課題の作成、スピーチの実習向上等を体得します。

学修目標

ふだん使っている日本語の点検を行う。また、日常見聞きする日本語のうち規範的な表現はなにかを考えます。そこから社会人としての話し方、表現方法を習得します。

内容

この授業は、「音声表現ワークショップ」の内容をさらに深めて、受講者が自主性を発揮して行う日本語の検証や取材活動の報告、意見の発表を中心に進行します。また、授業への積極的な参加によって、お互いに学び高め合って、実社会の活動に生かせる方法を体得するのがねらいです。

授業内容

1回	ガイダンス	公的な場面で話す(パブリック・スピーキング)
2回	日本語の特徴	日本語の“ゆれ”と規範性
3回	話し方の実習	場面に応じて話す準備をする
4回	話し方の実習	話す材料を組み立てる
5回	話し方の実習	話す材料(情報)を収集(取材)する
6回	話し方の実習	問う力、伝える力(目的、目標を明確にする)
7回	話し方の実習	話す速さ、間合い(ポーズ)を生かす
8回	話し方の実習	「敬意表現の使い方が正確か」を点検
9回	話し方の実習	「事実と意見の違い」を点検
10回	話し方の実習	映像・図式を使ったプレゼンテーション
11回	高度な実践	日本語の語彙(ゴイ)を見直し、専門用語を分析する
12回	高度な実践	明るく、新鮮な素材を収集し、説明する
13回	音声で伝える	感動した文章を読んで伝える
14回	現代の日本語	説得力・交渉力のある話し方
15回	後期・授業のまとめ	

評価

話し方実習（30%）、課題作成（20%）、期末試験（50%）、60%以上を合格とします。
合格点に達しない場合は再試験またはレポート提出とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

菅谷明子『メディア・リテラシー～世界の現場から～』（岩波新書）

ロジャー・フィシャー&ダニエル・シャピロ著『新ハーバード流交際術』（印南一路訳 講談社）

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書けそう、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

授業中に書く文章および授業の取り組みで総合評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

る作文はもとより、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書ける、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文章表現コミュニケーション(基礎)の学修をもとに、作文はもとより、論理的文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書けそうだ、という自信がつくようにしたい。

内容

文章によって相手に自分の考え方や気持ちを的確に伝えることができるようになるため、時事的な内容を含めたさまざまなテーマについて、読み手の理解と評価を得る文章を多く書いてもらい、添削指導を行います。

添削指導における眼目を、 語彙 基礎知識 分かりやすさ 洞察力 世界観 歴史観 エピソード 見出し リード 狙い に置き、これらを総合的に伸ばします。

「作文 添削 講評と指導」のプロセスを積み重ねることで、受講者の心に文章を書くことの楽しさと自信が次第に芽生え、コミュニケーションの力が増すようにします。

いざ実社会に出た時、「どのような言葉、文章で自分を表現したら、組織・周囲に信頼される人材として認められるか」を意識し、今後の就職活動にもプラスになるように努めます。

評価

課題提出を含む授業への取り組み70点、テスト30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

文章表現コミュニケーション の学修をもとに、論理的な文章等を含め、読み手に書き手の意思・感動が伝わる文章の表現力を身に付ける。

科目の概要

時事を含むさまざまなテーマを取り上げ、文章作成、添削・講評を重ね完成度を高める。

学修目標

広範囲なテーマを与えられても、自分の考えをきちんと伝える文章が書けそうだ、という自信がつくようにしたい。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂）

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂） ？

科目名	文章表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

学科基礎科目として、位置づけられ、大学で学ぶための基礎的な力を身につけるための授業です。

科目の概要

学術的な考え方や文章について楽しく学べるよう、トレーニングシートを使用しながら練習を積みみます。

学修目標

アカデミックライティングのスキルを実践的に学び、適切な日本語表現ができるようになることを目指します。また、大学の授業で求められるレポートや論理的な文章を書くための基礎を身につけることを目標とします。

内容

- 1回 アカデミックワードと日常語
- 2回 曖昧な文章
- 3回 わかりやすい語順
- 4回 長い文をわかる
- 5回 文のねじれ
- 6回 接続表現の使い方
- 7回 結論を先に述べる
- 8回 事実か意見か
- 9回 データの解釈
- 10回 レポートの内容と執筆スケジュール
- 11回 文献の検索
- 12回 調査課題の設定
- 13回 レポートの構成
- 14回 注の書き方、参考文献の書き方・引用の仕方
- 15回 まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Se If-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名） 教科書

大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編 （三省堂）

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

2年次前期音声表現コミュニケーション（基礎）で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは（4クラス共通）
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法（4クラス共通）
10. 課題：＜立論／反対尋問シートの提出＞
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成（1）
13. フローシート作成（2）
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

2年次前期音声表現コミュニケーション（基礎）で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは（4クラス共通）
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法（4クラス共通）
10. 課題：＜立論／反対尋問シートの提出＞
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成（1）
13. フローシート作成（2）
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

2年次前期音声表現コミュニケーション（基礎）で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは（4クラス共通）
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法（4クラス共通）
10. 課題：＜立論／反対尋問シートの提出＞
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成（1）
13. フローシート作成（2）
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション（基礎）		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

2年次前期音声表現コミュニケーション（基礎）で、ディベートを学ぶ。ディベートといってもこれは、相手を論破することが目的ではなく、主張を分かりやすく表現し、相手の主張を理解し、論旨や問題点を点検していくといった、コミュニケーションの基礎の習得を目指している。特に、協力して一つの目的に向かって問題点を検証し、論旨を組み立てていく過程で、知的な共同作業の重要性や分かち合うことの大切さを理解して欲しい。

最終的に目指しているのは、相手と向き合い、知的刺激を共有し、思考を深め合うことで新しい地の地平を互いに見出していこうとするものである。これこそ「コミュニケーション」の最も大切な部分であり、質に関わる部分である。

内容

授業は、4クラス同時進行し、適宜4クラス合同1教室で行うこともある。

1. 導入：デーベートとは（4クラス共通）
2. ディベートのしくみ
3. ディベートの流れ
4. ディベートの目的と立論
5. 課題：データカードの提出
6. 論題の内容理解
7. 論題の検討と分析
8. 反論の準備
9. 評価の方法（4クラス共通）
10. 課題：＜立論／反対尋問シートの提出＞
11. 課題による立論強化
12. フローシート作成（1）
13. フローシート作成（2）
14. 課題 クラス代表選抜ディベート
15. クラス対抗ディベート

評価

3回の課題とディベート実践

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

西部直樹著 『はじめてのディベート 聴く・話す・考える力を身につける しゅみから試合の練習まで』 あさ出版

科目名	音声表現コミュニケーション（発展）		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

現代は、どの社会にあっても高いコミュニケーション能力が求められます。

自分のことばで自分の考えをまとめ、相手の心に的確に届けられる話し手になるために、また相手の立場に立って話をしっかり聴ける人間になるためにどうしたらよいのかを考えます。

さらに、さまざまな人間関係とコミュニケーションについても考察し、敬語のポイントも学びます。

内容

コミュニケーション力は、日常の実践をとおして養われます。この授業では毎回、人の話を聞き、文章を読んだりスピーチをしたりします。

それを互いに批評しあって、聞くことと話すことのポイントを押さえます。さらに、インタビューやパワーポイントを使っ
ての発表なども行います。

評価

授業内での演習の成績(40%)、口頭発表(30%)、レポート(20%)、授業への貢献度(10%)
により評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】話しことばの花束（好本恵、リヨン社）

【推薦書】【参考図書】については、最初の授業で指示や説明があります。

科目名	文章表現ワークショップ（基礎）		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

これは3、4年生の選択必修科目です。

履修上の注意として、2011年度後期に佐藤担当の「文章表現コミュニケーション」を受講した学生は原則、履修を認めません。基礎的な分野で内容が一部重なる可能性のあること、さらに他のクラスを選択することによって多様な観点からの表現技法に触れることが望ましいと考えるからです。

前期の（基礎）と後期の（発展）は、連続して履修することを前提にして内容が組み立てられていますから、注意してください。

書く力を養うことによって、＜自分＞を発信していく力を高めます。

私たちは何かを考えようとするとき、頭脳のなかで物事を文章化して整理しています。

つまり＜考えること＝書くこと＞なのです。ふたつの力を切り離すことはできません。

こうした捉え方に立って授業では、「書く」「考える」を軸に、その材料をインプットする「読む」を加えて、以下のように多角的な演習を通じて実践的にそれぞれの能力の向上をめざします。

内容

この「文章表現ワークショップ（基礎）」では、分かりやすい文章を書くための基本的な知識と技法を取り上げ、演習を通じて習得します。同時に、基礎的な語彙力についてワークシートなどで向上を図ります。

なお、後期の「文章表現ワークショップ（発展）」では、（基礎）の応用に重点を置き、論理的な文章から実用的な文章まで、社会人基礎力につながる実際的な「書く力」の習熟をめざします。課題の文章を指定の時間内に指定の文字数でまとめあげることが目標に、フィードバックにもとづく反復練習に主眼を置きます。

1回：何のために書くのか。

2～10回：分かりやすい文章表現技法10か条

提示された「悪文例」について、その書き換えを自分で試み、提出します。この作業によって「分かりにくさを生む」ポイントに気づき、必要な知識と技法を身につけていくことができます。最後に「添削例」を書き写すことで、分かりやすい文章のリズムから修辞まで、自ずと習得されます。また、併行して語彙ドリルを解きます。このような流れの演習をほぼ毎回繰り返します。

11～14回：課題のテーマで一定の時間内に文章を書きます。次回の授業で、全体へのコメントと個々への添削という形でフィードバックします。

15回：まとめ

毎回、B4版の原稿用紙（400字詰め、縦書き用）を持参すること。これ以外の形式の用紙は認めません。

評価

演習課題の文章やレポートが60点、期末テストが40点の計100点。60点以上を合格とします。
4回以上の欠席は受講放棄とみなします。課題の不提出は2回で欠席1回相当とみなします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

配布プリントのほか、参考文献などは適宜紹介します。

科目名	文章表現ワークショップ（基礎）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

自分のメディア力を高める！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

考える道具としての文章表現、説得するための文章表現、楽しむための文章表現、それぞれの能力を演習を通して向上させることを目的とします。Webやブログ、雑誌の中の効果的な表現を分析的に見ていきます。また、ここから学んだTipsを用い実践的な演習を積み、表現能力の向上を目指します。授業はグループワークセッションを基本に進めます。ワークの中ではMind-mapを用いたOut putの訓練も併せておこないます。

講義の性質上、授業内の演習だけでなく、たくさんの課題を課すこととなりますが、学生諸君の積極的な参加を希望します。

内容

- 第1回 何のための文章表現？
- 第2回 Mind-mapと文章作成
- 第3回 表現とフィードバック
- 第4回 身近なメディアを使った文章表現
- 第5回 ゲスト
- 第6回 分かりやすさ分かりにくさの分析
- 第7回 Web・ブログでの文章表現分析
- 第8回 課題プレゼン1
- 第9回 コンテンツを探す
- 第10回 情報の編集とOut put
- 第11回 グループセッション1
- 第12回 グループセッション2
- 第13回～第15回 まとめOut put 1～3

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問えを含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1～7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1～3ポイント、Self-evaluation1～3ポイント） レポート・課題・・・3～8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5～10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	文章表現ワークショップ（基礎）		
担当教員名	赤間 恵都子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

自分の考えや思いを文章に表現して人に伝える。そのためには実際に文章を書き、推敲し、また他人の文章を読んで表現を磨くという作業が必要です。この科目の性格は、各自が実践的に文章を学び、自己を表現する楽しみを得ることと考えます。授業では世界中で最も有名な日本の古典である『源氏物語』を扱います。『源氏物語』は長い時代にわたって多様な人々に受け入れられ、現代まで伝えられてきた価値ある文学作品です。受験勉強で苦しんだ古文の文法は大幅にカットして、まずは『源氏物語』原文を音読してみましょう。そして、受講生各自の感性によって現代語で翻訳を試みましょう。古典を読み、内容を把握して翻訳するという作業を何度も繰り返し実践することによって、自分で探り当てた情報を正確に自己発信する能力が得られます。最後に、作者が何を書きたかったのか、その内実に迫り、古代と現代の女性の生き方について考えることが最終的な目標です。

内容

最初に『源氏物語』全体について知り、原文の描写を踏まえたくうえで、いくつかの名場面を味わいます。次に現代語での翻訳を試みます。翻訳といっても文法に忠実な現代語訳ではなく、思い切った意識を目指します。最後にそれぞれが翻訳した文章をいくつか選んで小冊子を作りたいと思います。

1	ガイダンス
2	『源氏物語』の作者について・時代背景について
3	『源氏物語』という作品について
4	物語の始まり～光源氏誕生～
5	若き源氏の恋～空蝉・夕顔・若紫～
6	名場面を翻訳してみよう
7	生霊になった女性～六条御息所～
8	名場面を翻訳してみよう
9	第二部の始まり～女三宮降嫁～
10	紫の上の死～萩の上の露～
11	名場面を翻訳してみよう
12	第三部の始まり～宇治の姫君～
13	最後の女性～浮舟～
14	名場面を翻訳してみよう
15	物語の結末～続きを創作してみよう・小冊子の作成

評価

授業中の課題への取り組みなどの平常点が40点、各時間と最終的に提出するレポート内容が60点で、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】ビギナーズクラシックス『源氏物語』角川書店

『源氏物語』の参考書はたくさんありますので、授業の中で適宜紹介していきます。

科目名	文章表現ワークショップ（発展）		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

これは3、4年生の選択必修科目です。

履修上の注意として、2011年度後期に佐藤担当の「文章表現コミュニケーション」を受講した学生は原則、履修を認めません。基礎的な分野で内容が一部重なる可能性のあること、さらに他のクラスを選択することによって多様な観点からの表現技法に触れることが望ましいと考えるからです。

この（発展）は、前期の（基礎）と連続して履修することを前提にして内容が組み立てられていますから、注意してください。

書く力を養うことによって、＜自分＞を発信していく力を高めます。

私たちは何かを考えようとするとき、頭脳のなかで物事を文章化して整理しています。

つまり＜考えること＝書くこと＞なのです。ふたつの力を切り離すことはできません。

こうした捉え方に立って授業では、「書く」「考える」を軸に、その材料をインプットする「読む」を加えて、以下のように多角的な演習を通じて実践的にそれぞれの能力の向上をめざします。

内容

この「文章表現ワークショップ（発展）」は、前期（基礎）の応用に重点を置き、論理的な文章から実用的な文章まで、社会人基礎力につながる実践的な「書く力」の習熟をめざします。課題の文章を指定の時間内に指定の文字数でまとめあげることを目標に、フィードバックにもとづく反復練習に主眼を置きます。

なお、前期の（基礎）では、分かりやすい文章を書くための基本的な知識と技法を取り上げ、演習を通じて習得します。同時に、基礎的な語彙力についてワークシートなどで向上を図ります。

1～6回：論理的な文章の効果的な書き方

発想、材料、展開、構成、語彙、修辞など説得力ある文章を組み立てるために必要な知識と技法を習得します。

7～8回：敬意表現の基本

苦手な尊敬語、謙譲語を克服できるようにワークシートを使って実践的に学びます。

9～10回：手紙やメールのマナーなど実用文の作法

11～12回：間違いやすい熟語、慣用句

ワークシートを使います。

13～14回：課題の文章作成

15回：まとめ

毎回、B4版の原稿用紙（400字詰め、縦書き用）を持参すること。これ以外の形式の用紙は認めません。

評価

演習課題の文章やレポートが60点、期末テストが40点の計100点。60点以上を合格とします。
4回以上の欠席は受講放棄とみなします。課題の不提出は2回で欠席1回相当とみなします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

配布プリントのほか、参考文献などは適宜紹介します。

科目名	文章表現ワークショップ（発展）		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「文章表現ワークショップ（発展）」の授業では、「文章表現ワークショップ」の授業をふまえて、より実践に基づいた文章の書き方の修得を目的とします。社会生活で求められる文章表現として、他者の要求=課題を正確につかむため、多様な文章（随筆、手紙、新聞・雑誌記事、説明文、書評、小説など）に触れ、文章表現のパターンを知ります。そこから「何を書くか=内容」「誰に書くか=対象」「どのように書くか=表現・方法」を見極め、最も適切な方法を選択する技術の向上を目指します。応用・発展として自分の考えを基本とした自由な発想のもとに文章力を磨くことも目的とします。

科目の概要

様々なタイプの文章を読み、媒体ごとの対象、内容、構成の違い、文章表現の技術面（2, 3, 4）、必要な情報収集・整理法（5, 6, 7）、社会で応用可能な文章表現の構成（8, 9, 10）を学び、演習による文章表現の向上（11, 12, 13, 14）を目指します。

学修目標

授業では随時課題を提示し、添削 - 返却 - 解説を基本形態とします。

多様な文章の形態を学習し、課題を通じて実践に役立つ「表現する力」を養います。

社会で求められる情報の整理と伝達がスムーズに行える文章表現能力の向上を図ります。

内容

1	ガイダンス	ことばによるコミュニケーション
2	自己紹介文	自分の思考パターンを知る
3	随筆	表記の基礎
4	手紙	対象に相応しい文言
5	説明文	主題に対する情報収集
6	説明文	情報の整理
7	新聞・雑誌記事	主題に対する広範な情報収集と整理法
8	コンセプトの決定	情報の活用
9	アウトラインの決定	材料の組み立て方
10	レポート・論説文	主題の選択とコンセプト・アウトラインの構成
11	自分の考えを文章にする	創作について
12	創作の構成	
13	演習	
14	解説	
15	まとめ	

評価

各回の課題作成、提出と授業への取り組みなどで40点、演習と期末の試験で60点による評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜紹介していきます。

科目名	文章表現ワークショップ（発展）		
担当教員名	玉井 朋		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「文章表現ワークショップ（発展）」の授業では、「文章表現ワークショップ」の授業をふまえて、より実践に基づいた文章の書き方の修得を目的とします。社会生活で求められる文章表現として、他者の要求=課題を正確につかむため、多様な文章（随筆、手紙、新聞・雑誌記事、説明文、書評、小説など）に触れ、文章表現のパターンを知ります。そこから「何を書くか=内容」「誰に書くか=対象」「どのように書くか=表現・方法」を見極め、最も適切な方法を選択する技術の向上を目指します。応用・発展として自分の考えを基本とした自由な発想のもとに文章力を磨くことも目的とします。

科目の概要

様々なタイプの文章を読み、媒体ごとの対象、内容、構成の違い、文章表現の技術面（2, 3, 4）、必要な情報収集・整理法（5, 6, 7）、社会で応用可能な文章表現の構成（8, 9, 10）を学び、演習による文章表現の向上（11, 12, 13, 14）を目指します。

学修目標

授業では随時課題を提示し、添削 - 返却 - 解説を基本形態とします。

多様な文章の形態を学習し、課題を通じて実践に役立つ「表現する力」を養います。

社会で求められる情報の整理と伝達がスムーズに行える文章表現能力の向上を図ります。

内容

1	ガイダンス	ことばによるコミュニケーション
2	自己紹介文	自分の思考パターンを知る
3	随筆	表記の基礎
4	手紙	対象に相応しい文言
5	説明文	主題に対する情報収集
6	説明文	情報の整理
7	新聞・雑誌記事	主題に対する広範な情報収集と整理法
8	コンセプトの決定	情報の活用
9	アウトラインの決定	材料の組み立て方
10	レポート・論説文	主題の選択とコンセプト・アウトラインの構成
11	自分の考えを文章にする	創作について
12	創作の構成	
13	演習	
14	解説	
15	まとめ	

評価

各回の課題作成、提出と授業への取り組みなどで40点、演習と期末の試験で60点による評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に適宜紹介していきます。

科目名	音声表現ワークショップ（基礎）		
担当教員名	大西 勝也		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

コミュニケーションの基本である文書と会話(書きことばと話しことば)のうち、公的な場面で使う「話しことば」を中心に、論理的でわかりやすい伝え方をみにつけます。

科目の概要

変化を続ける日本語は、世代による違い、所属する社会、多言語社会への対応も含め、伝統的なことばの規範性をもとに、さまざまな場面での話し方を体験します。

学修目標

豊かな表現を身につけるための考え方、正確で分かりやすい話し方を基本に、効果的な表現法を学びます。具体的には、課題の作成、スピーチの実習、意見発表等を実践します。

内容

「音声表現コミュニケーション」で学んだ内容を深め、実践的な課題に取り組む実習を中心に、次のようなテーマで授業を進めます。レポート作成・実習には、積極的に取り組んでください。

授業内容

1回	ガイダンス	話しことばの特性
2回	日本語の特徴	話しことばの基礎である日本語の特徴
3回	話しことばの文章	正確に、分かりやすく伝える文章構成
4回	話し方の実習	発声・発音・姿勢・体力作り(自己紹介)
5回	話し方の実習	短いことばの威力
6回	話し方の実習	敬意(敬語)表現について
7回	話し方の実習	一般社会の敬意表現(発表)
8回	話し方の実習	映像を使ったプレゼンテーション
9回	話し方の実習	「事実と意見」の違い
10回	話し方の実習	「事実と意見」の表現法
11回	ことばの多様化	専門用語の外来語化
12回	高度な音声表現	情報を読んで伝える
13回	高度な音声表現	文学作品を読んで伝える
14回	現代の日本語	これからの時代の日本語、伝えるべきものはなにか
15回	前期・授業のまとめ	

評価

話し方実習（30%）、課題作成（20%）、期末試験（50%）、60%以上を合格とします。
合格点に満たない場合は再試験、またはレポート提出とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

外山滋比古『思考の整理学』（ちくま文庫）、木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

山口弘明『プレゼンテーションの進め方』（日経文庫）

このほか、授業中にも随時紹介します。

科目名	音声表現ワークショップ（発展）		
担当教員名	大西 勝也		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

コミュニケーションの基本である文書と会話(書きことばと話しことば)のうち、公的な場面で使う話しことばを中心に、論理的でわかりやすい伝え方を身につけます。

科目の概要

前期「音声表現ワークショップ」の内容をさらに深めながら、受講者各自が相互に音声表現力を高め合い、実践的な課題の作成、スピーチの実習向上等を体得します。

学修目標

ふだん使っている日本語の点検を行う。また、日常見聞きする日本語のうち規範的な表現はなにかを考えます。そこから社会人としての話し方、表現方法を習得します。

内容

この授業は、「音声表現ワークショップ」の内容をさらに深めて、受講者が自主性を発揮して行う日本語の検証や取材活動の報告、意見の発表を中心に進行します。また、授業への積極的な参加によって、お互いに学び高め合って、実社会の活動に生かせる方法を体得するのがねらいです。

授業内容

1回	ガイダンス	公的な場面で話す(パブリック・スピーキング)
2回	日本語の特徴	日本語の“ゆれ”と規範性
3回	話し方の実習	場面に応じて話す準備をする
4回	話し方の実習	話す材料を組み立てる
5回	話し方の実習	話す材料(情報)を収集(取材)する
6回	話し方の実習	問う力、伝える力(目的、目標を明確にする)
7回	話し方の実習	話す速さ、間合い(ポーズ)を生かす
8回	話し方の実習	「敬意表現の使い方が正確か」を点検
9回	話し方の実習	「事実と意見の違い」を点検
10回	話し方の実習	映像・図式を使ったプレゼンテーション
11回	高度な実践	日本語の語彙(ゴイ)を見直し、専門用語を分析する
12回	高度な実践	明るく、新鮮な素材を収集し、説明する
13回	音声で伝える	感動した文章を読んで伝える
14回	現代の日本語	説得力・交渉力のある話し方
15回	後期・授業のまとめ	

評価

話し方実習（30%）、課題作成（20%）、期末試験（50%）、60%以上を合格とします。
合格点に達しない場合は再試験またはレポート提出とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

木下是雄『理科系の作文技術』（中公新書）

菅谷明子『メディア・リテラシー～世界の現場から～』（岩波新書）

ロジャー・フィシャー&ダニエル・シャピロ著『新ハーバード流交際術』（印南一路訳 講談社）

科目名	トレンド・ウォッチ		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、既存の社会学や政治学や文化論を批判することによって一九七〇年代以降イギリスで発展してきた「カルチュラル・スタディーズ」の理論と分析の基礎を学びながら、現代文化としてのサブカルチャーについて検討していく。対象とするのは、ヒップホップやR & Bなど(音楽)、ファッション、ライトノベルやウェブ小説など(文学)、お笑いや韓流ドラマなど(テレビ番組)、W杯やオリンピックなど(スポーツ)、携帯電話やSNSなど(インターネット)といったさまざまなサブカルチャー領域であり、これらの具体的な現象を丹念に調査・観察することを通じて、現代社会における文化の機能と役割、私たちの生活において文化が持っている意義などを探っていく。前半は理論について講義と文献輪読をし、後半は、グループに分かれてフィールドワークを行います。

内容

1. サブカルチャー論とはなにか?
2. サブカルチャーを分析するための理論(1)世界のサブカルチャー
3. サブカルチャーを分析するための理論(2)日本のサブカルチャー
4. サブカルチャーを分析するための理論(3)スタイルと実践
5. サブカルチャーを分析するための理論(4)プリコラージュとDIY精神
6. サブカルチャーを分析するための理論(5)人種とジェンダー
7. サブカルチャー調査のための計画を立てる(1)
8. サブカルチャー調査のための計画を立てる(2)
9. サブカルチャーの調査と観察(1)
10. サブカルチャーの調査と観察(2)
11. サブカルチャーの調査と観察(3)
12. サブカルチャーの調査と観察(4)
13. サブカルチャーの調査と観察(5)
14. 合同研究発表会
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

佐藤郁哉・フィールドワーク〔増補版〕・新曜社

その他、必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

科目名	トレンド・ウォッチ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

時折り見受けられる首都圏在住者の錯覚は、いわゆる全国紙、いわゆるテレビのキー局がメディアの総称と考えがちな点であり、実際の世論形成は、全国にあっては、その地域の有力地方紙、地域民放などの影響力が強く、県民・市民の評価を受けていることが多い。本講義では、この実態を踏まえて、特に、県のメディア企業(埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたま、共同通信社さいたま支局、NTTドコモ埼玉支店)等の具体的な活動、ビジネスからメディアを見つめ、地域メディアの意義、メジャーマスコミとの違いなどを学ぶ。

内容

1	ガイダンス
2	地元新聞の展開に見るメディア論 1
3	地元新聞の展開に見るメディア論 2
4	地元テレビ局の展開に見るメディア論 1
5	地元テレビ局の展開に見るメディア論 2
6	地元ラジオ局の展開に見るメディア論 1
7	地元ラジオ局の展開に見るメディア論 2
8	地元のニューメディア論 1
9	地元のニューメディア論 2
10	地元のニューメディア論 3
11	活字文化と地域 1
12	活字文化と地域 2
13	地域にメディアは何をもたらしているか(メジャーマスコミと地域)
14	メディアが見つめる地域(メジャーマスコミと地域)
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は、「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度指示。

科目名	時事解説		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科専門科目「メディア社会論」と同時開講

情報を伝える「メディア」の発展が、私たち人間の「社会」をどう変えてきたかを考えます。例えば、今や女子大生なら持っていない人がいないであろう、ケータイ。この新たな情報伝達手段の登場で、「待ち合わせ」とか「約束の時間」という行為や考え方が変化してきたのは、皆さん自身が最もよく知ることでしょう。このように、新たな情報伝達手段の登場が私たちの行動パターンやひいては社会のあり方にまで影響を与えてきたことを歴史的に学んでいくことで、未来の社会の姿のヒントを得ることが狙いです。

内容

1	イントロダクション
2	「メディア・社会・論」って何？
3	「ことば」の誕生 「文字」の発明1
4	「ことば」の誕生 「文字」の発明2
5	「大量印刷」法の発達1
6	「大量印刷」法の発達2
7	「電気通信・電氣的記録機器」の発明1
8	「電気通信・電氣的記録機器」の発明2
9	「コンピュータ」の登場1
10	「コンピュータ」の登場2
11	インターネットの時代1
12	インターネットの時代2
13	現代の社会とメディアの課題
14	現代の社会とメディアの課題
15	まとめ

評価

逐次、小レポートを書いてもらいます(60%)。最後にテストをします(40%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書『メディア用語基本事典』(世界思想社)

科目名	時事解説		
担当教員名	大西 正行、川口 英俊、岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、ニュースを通してメディアへの理解や時事問題の見方を学ぶ。様々なメディアを理解しながらメディアの特質・影響力を学び、ニュースの見方を学びながら時事問題への理解を深める。同時にその時々々のニュースを取り上げ解説する。

現代のますます複雑化するマスメディアが報道する多量のニュースの中から現代社会で生活する上で真に必要な情報の取捨選択を行い得るメディア・リテラシーを身に付けることを目標とする。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起る様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

岡本卓ーテレビのニュース・報道番組と社会

マスメディアと私たち(マスメディアと世論、マスメディアの影響力etc)

テレビとインターネット(あなたはテレビ派? ネット派?、尖閣諸島沖衝突事件と映像のネット流出etc)

テレビと政治(報道の自由と政治(家)の介入、政治家はテレビよりネットが好き? etc)

テレビと戦争(ベトナム戦争の前と後の戦争報道、“ロボット戦争”とテレビ、テレビは戦争を防げるか/止められるか etc)

まとめ

大西正行 ? 新聞とニュース-

新聞と一般読者(トップニュースは、どうして決まるか。「社会の監視」「特ダネ」「地域主義」の価値感は今...)

行政組織と新聞(捜査機関等を含む役所の側の論理、取材の現場と記者クラブ)

企業行動と新聞(資本の側の論理)

新聞と政治家の間(第4権力の核としての新聞と政治権力)

新聞の論調と社会の流れ(戦前との比較も交えた、社説やコラムの世界観)

川口英俊 ? インターネット・新しいメディアとニュース-

メディア・リテラシー(ニュースの読み方・考え方、インターネットによるニュースの読み方)

インターネットとニュース(インターネットがニュースに与えた影響 インターネットとテレビ・新聞の「衰退」、政治とニュースとインターネット)

インターネットによる情報発信(インターネットによる情報発信の可能性と問題点)

新しいメディアとニュース(新しいコミュニケーションツール-ブログ・ツイッター、you tube・携帯・メール)

まとめ

評価

担当者3名がレポート等によりそれぞれ評価をつけ、それを総合して（小テスト3.3割、レポート3.3割、授業を踏まえての提出物3.3割）成績を出す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮文庫

谷岡一郎「社会調査の『ウソ』」文春新書

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これはマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で身につけた知識をもとに、日本と世界が直面するさまざまな課題について、自分の問題意識を出発点に協働学習のなかで事実を深く調べ、分析し、議論し、自分の意見を作り上げていく。併せて、それを発表、発信する能力を養う。言い換えると、高度情報社会においてよく生きる力の源となる、自立した判断力と問題解決能力を習得するのが目的である。

内容

ここで取り上げる時事問題というのは、たんに世間の耳目を集めるような表層的な出来事を意味するものではない。この先の時代を担う若い受講生自身が、時間的・空間的な座標軸のなかで、自らの世界観を培うのに役立つと思われる事象を各分野から選んで扱いたい。

科目名が示すように、時事解説を聴く講義形式の授業ではない。

受講生は担当教員のアドバイスのもとで、上記のねらいに沿ってテーマを決め、基本的にグループ単位のワークショップを展開する。

具体的には、次のようなワークの流れを想定する。

テーマの決定

事実の調査(分担作業の場合もある)

グループ内の議論

発表資料の作成(同上)

グループ発表(ディベート形式の場合もある)

<自分の見方>をレポートにまとめて提出する。

完成した発表資料をもとに、小冊子を作りあげたい。

テーマによって ~ の比重は異なる。したがって、1つのテーマにかける時数も変わってくる。

第1回目の授業で、このシラバスを理解したうえで自分が取り組んでみたいテーマ(複数可)と理由を全員に発表してもらう。メモ程度の簡単な準備をしてきてください。

「ワークショップ」による協働学習を大切にして、仲間同士で学び合えるような参加型授業をめざす。

評価

調査と発表の内容が6割、レポートが4割。6割以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考文献などは適宜紹介する。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、これまでに培った時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く学ぶ。社会科学系の資格として知られる「ニュース時事能力検定」の公式テキストと問題集に取り組む中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」をさらに豊かにするとともにさらにそれを詳細なレベルにまで高め、具体的には準2級というレベルにまで到達する能力を養うのが目的である。

内容

教員の解説する時事問題に関し、理解を深めるとともに問題集を解いて実践力を養う。

授業の進め方：

- 1．テキストに合わせて1回につき原則1から2テーマの授業を行う。
- 2．テキスト解説後に問題を解き、その解説も行う
- 3．時事問題という性質上、その時期に合ったテーマも適宜取り入れる

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ニュース時事能力検定公式テキストと問題集

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1. (ホームワーク) 調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場(これはそのつど鈴木が指示する)を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料(A4で1枚)を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する(プロジェクターを使ったプレゼン用)。

2. (第一回目授業) プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする(資料を棒読みするのではない)。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する(採点対象)。

3. (第二回目授業) ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4. (第二回目授業) 論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する(採点対象)。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物(50%)およびプレゼンテーション・ディベート(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目はマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った時事問題に関する知識と視点をもとに、日本と世界が直面するさまざまな問題をさらに深く調べるものである。

近年、企業や各種団体の就職/採用試験では、いわゆる時事問題が多く出題され、時事問題をテーマにして行われるグループディスカッションを通して学生の実力を試す傾向が定着している。このため授業では、内外の時事問題とその歴史的背景を解説することに重点を置く。受講生は新聞やテレビの報道や雑誌などで基本的な知識や教養を身につけた上で、自分の意見や考え方をまとめ、プレゼンテーション能力(口頭および文章)を養う。

内容

その時々日本や世界が直面する諸課題を取り上げる。

2011年度後期の授業で取り上げた主なテーマは以下の通りである。

地球温暖化問題(COP17や地球温暖化に優しい原子力発電に連動させて) *地球温暖化で沈む島国を描いたTVドキュメンタリーの視聴も

原子力発電問題(福島第一原発事故やチェルノブイリ原発事故などを踏まえて) *原子力発電所の解体を描いたTVドキュメンタリーの視聴も

日本の国会と憲法の問題(野田内閣の国会運営や野党の対応など、実際の国会の動きに連動させて)

これらの他に、さまざまな時事用語解説など。

評価

適宜行う試験(60点)と受講生の下調べや発表に取り組む姿勢(40点)で評価する。60点以上が合格。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書/参考資料は適宜紹介・配布する。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

これはマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で身につけた知識をもとに、日本と世界が直面するさまざまな課題について、自分の問題意識を出発点に協働学習のなかで事実を深く調べ、分析し、議論し、自分の意見を作り上げていく。併せて、それを発表、発信する能力を養う。言い換えると、高度情報社会においてよく生きる力の源となる、自立した判断力と問題解決能力を習得するのが目的である。

内容

ここで取り上げる時事問題というのは、たんに世間の耳目を集めるような表層的な出来事を意味するものではない。この先の時代を担う若い受講生自身が、時間的・空間的な座標軸のなかで、自らの世界観を培うのに役立つと思われる事象を各分野から選んで扱いたい。

科目名が示すように、時事解説を聴く講義形式の授業ではない。

受講生は担当教員のアドバイスのもとで、上記のねらいに沿ってテーマを決め、基本的にグループ単位のワークショップを展開する。

具体的には、次のようなワークの流れを想定する。

テーマの決定

事実の調査(分担作業の場合もある)

グループ内の議論

発表資料の作成(同上)

グループ発表(ディベート形式の場合もある)

<自分の見方>をレポートにまとめて提出する。

完成した発表資料をもとに、小冊子を作りあげたい。

テーマによって ~ の比重は異なる。したがって、1つのテーマにかける時数も変わってくる。

第1回目の授業で、このシラバスを理解したうえで自分が取り組んでみたいテーマ(複数可)と理由を全員に発表してもらう。メモ程度の簡単な準備をしてきてください。

「ワークショップ」による協働学習を大切にして、仲間同士で学び合えるような参加型授業をめざす。

評価

調査と発表の内容が6割、レポートが4割。6割以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考文献などは適宜紹介する。

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1. (ホームワーク) 調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場(これはそのつど鈴木が指示する)を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料(A4で1枚)を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する(プロジェクターを使ったプレゼン用)。

2. (第一回目授業) プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする(資料を棒読みするのではない)。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する(採点対象)。

3. (第二回目授業) ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4. (第二回目授業) 論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する(採点対象)。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物(50%)およびプレゼンテーション・ディベート(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず

科目名	時事問題ワークショップ		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1. (ホームワーク) 調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場（これはそのつど鈴木が指示する）を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料（A4で1枚）を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する（プロジェクターを使ったプレゼン用）。

2. (第一回目授業) プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする（資料を棒読みするのではない）。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する（採点対象）。

3. (第二回目授業) ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4. (第二回目授業) 論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する（採点対象）。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物（50%）およびプレゼンテーション・ディベート（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず

科目名	トレンド・ウォッチ（前編）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本講義では、既存の社会学や政治学や文化論を批判することによって一九七〇年代以降イギリスで発展してきた「カルチュラル・スタディーズ」の理論と分析の基礎を学びながら、現代文化としてのサブカルチャーについて検討していく。対象とするのは、ヒップホップやR & Bなど（音楽）、ファッション、ライトノベルやウェブ小説など（文学）、お笑いや韓流ドラマなど（テレビ番組）、W杯やオリンピックなど（スポーツ）、携帯電話やSNSなど（インターネット）といったさまざまなサブカルチャー領域であり、これらの具体的な現象を丹念に調査・観察することを通じて、現代社会における文化の機能と役割、私たちの生活において文化が持っている意義などを探っていく。前半は理論について講義と文献輪読をし、後半は、グループに分かれてフィールドワークを行います。

内容

1. サブカルチャー論とはなにか？
2. サブカルチャーを分析するための理論（1）世界のサブカルチャー
3. サブカルチャーを分析するための理論（2）日本のサブカルチャー
4. サブカルチャーを分析するための理論（3）スタイルと実践
5. サブカルチャーを分析するための理論（4）プリコラージュとDIY精神
6. サブカルチャーを分析するための理論（5）人種とジェンダー
7. サブカルチャー調査のための計画を立てる（1）
8. サブカルチャー調査のための計画を立てる（2）
9. サブカルチャーの調査と観察（1）
10. サブカルチャーの調査と観察（2）
11. サブカルチャーの調査と観察（3）
12. サブカルチャーの調査と観察（4）
13. サブカルチャーの調査と観察（5）
14. 合同研究発表会
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

佐藤郁哉・フィールドワーク〔増補版〕・新曜社

その他、必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

科目名	トレンド・ウォッチ（後編）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

時折り見受けられる首都圏在住者の錯覚は、いわゆる全国紙、いわゆるテレビのキー局がメディアの総称と考えがちな点であり、実際の世論形成は、全国にあっては、その地域の有力地方紙、地域民放などの影響力が強く、県民・市民の評価を受けていることが多い。本講義では、この実態を踏まえて、特に、県のメディア企業(埼玉新聞社、テレビ埼玉、FM NACK5、ジェイコムさいたま、共同通信社さいたま支局、NTTドコモ埼玉支店)等の具体的な活動、ビジネスからメディアを見つめ、地域メディアの意義、メジャーマスコミとの違いなどを学ぶ。

内容

1	ガイダンス
2	地元新聞の展開に見るメディア論 1
3	地元新聞の展開に見るメディア論 2
4	地元テレビ局の展開に見るメディア論 1
5	地元テレビ局の展開に見るメディア論 2
6	地元ラジオ局の展開に見るメディア論 1
7	地元ラジオ局の展開に見るメディア論 2
8	地元のニューメディア論 1
9	地元のニューメディア論 2
10	地元のニューメディア論 3
11	活字文化と地域 1
12	活字文化と地域 2
13	地域にメディアは何をもたらしているか(メジャーマスコミと地域)
14	メディアが見つめる地域(メジャーマスコミと地域)
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は、「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度指示。

科目名	時事解説（前編）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

メディアコミュニケーション学科専門科目「メディア社会論」と同時開講

情報を伝える「メディア」の発展が、私たち人間の「社会」をどう変えてきたかを考えます。例えば、今や女子大生なら持っていない人がいないであろう、ケータイ。この新たな情報伝達手段の登場で、「待ち合わせ」とか「約束の時間」という行為や考え方が変化してきたのは、皆さん自身が最もよく知ることでしょう。このように、新たな情報伝達手段の登場が私たちの行動パターンやひいては社会のあり方にまで影響を与えてきたことを歴史的に学んでいくことで、未来の社会の姿のヒントを得ることが狙いです。

内容

1	イントロダクション
2	「メディア・社会・論」って何？
3	「ことば」の誕生 「文字」の発明1
4	「ことば」の誕生 「文字」の発明2
5	「大量印刷」法の発達1
6	「大量印刷」法の発達2
7	「電気通信・電氣的記録機器」の発明1
8	「電気通信・電氣的記録機器」の発明2
9	「コンピュータ」の登場1
10	「コンピュータ」の登場2
11	インターネットの時代1
12	インターネットの時代2
13	現代の社会とメディアの課題
14	現代の社会とメディアの課題
15	まとめ

評価

逐次、小レポートを書いてもらいます（60%）。最後にテストをします（40%）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	時事解説（後編）		
担当教員名	大西 正行、川口 英俊、岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本科目では、ニュースを通してメディアへの理解や時事問題の見方を学ぶ。様々なメディアを理解しながらメディアの特質・影響力を学び、ニュースの見方を学びながら時事問題への理解を深める。同時にその時々々のニュースを取り上げ解説する。

現代のますます複雑化するマスメディアが報道する多量のニュースの中から現代社会で生活する上で真に必要な情報の取捨選択を行い得るメディア・リテラシーを身に付けることを目標とする。

従って、毎日の新聞記事を読み、テレビニュースを視聴することが最も重要である。日常生活を送りながら、国内外で起きる様々なニュース、出来事に関心を持ち、社会や国、世界に広く目を広げる“習慣”をつけてもらいたい。

内容

岡本卓ーテレビのニュース・報道番組と社会

- マスメディアと私たち（マスメディアと世論、マスメディアの影響力etc）
- テレビとインターネット（あなたはテレビ派？ネット派？、尖閣諸島沖衝突事件と映像のネット流出etc）
- テレビと政治（報道の自由と政治（家）の介入、政治家はテレビよりネットが好き？etc）
- テレビと戦争（ベトナム戦争の前と後の戦争報道、“ロボット戦争”とテレビ、テレビは戦争を防げるか/止められるかetc）
- まとめ

大西正行 ? 新聞とニュース-

- 新聞と一般読者（トップニュースは、どうして決まるか。「社会の監視」「特ダネ」「地域主義」の価値感は今...）
- 行政組織と新聞（捜査機関等を含む役所の側の論理、取材の現場と記者クラブ）
- 企業行動と新聞（資本の側の論理）
- 新聞と政治家の間（第4権力の核としての新聞と政治権力）
- 新聞の論調と社会の流れ（戦前との比較も交えた、社説やコラムの世界観）

川口英俊 ? インターネット・新しいメディアとニュース-

- メディア・リテラシー（ニュースの読み方・考え方、インターネットによるニュースの読み方）
- インターネットとニュース（インターネットがニュースに与えた影響 インターネットとテレビ・新聞の「衰退」、政治とニュースとインターネット）
- インターネットによる情報発信（インターネットによる情報発信の可能性と問題点）
- 新しいメディアとニュース（新しいコミュニケーションツール-ブログ・ツイッター、you tube・携帯・メール）
- まとめ

評価

担当者3名がレポート等によりそれぞれ評価をつけ、それを総合して（小テスト3.3割、レポート3.3割、授業を踏まえての提出物3.3割）成績を出す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮文庫

谷岡一郎「社会調査の『ウソ』」文春新書

科目名	時事問題ワークショップ（前編）		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

これはマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で身につけた知識をもとに、日本と世界が直面するさまざまな課題について、自分の問題意識を出発点に協働学習のなかで事実を深く調べ、分析し、議論し、自分の意見を作り上げていく。併せて、それを発表、発信する能力を養う。言い換えると、高度情報社会においてよく生きる力の源となる、自立した判断力と問題解決能力を習得するのが目的である。

内容

ここで取り上げる時事問題というのは、たんに世間の耳目を集めるような表層的な出来事を意味するものではない。この先の時代を担う若い受講生自身が、時間的・空間的な座標軸のなかで、自らの世界観を培うのに役立つと思われる事象を各分野から選んで扱いたい。

科目名が示すように、時事解説を聴く講義形式の授業ではない。

受講生は担当教員のアドバイスのもとで、上記のねらいに沿ってテーマを決め、基本的にグループ単位のワークショップを展開する。

具体的には、次のようなワークの流れを想定する。

テーマの決定

事実の調査（分担作業の場合もある）

グループ内の議論

発表資料の作成（同上）

グループ発表（ディベート形式の場合もある）

<自分の見方>をレポートにまとめて提出する。

完成した発表資料をもとに、小冊子を作りあげたい。

テーマによって ~ の比重は異なる。したがって、1つのテーマにかける時数も変わってくる。

第1回目の授業で、このシラバスを理解したうえで自分が取り組んでみたいテーマ（複数可）と理由を全員に発表してもらう。メモ程度の簡単な準備をしてきてください。

「ワークショップ」による協働学習を大切にして、仲間同士で学び合えるような参加型授業をめざす。

評価

調査と発表の内容が6割、レポートが4割。6割以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考文献などは適宜紹介する。

科目名	時事問題ワークショップ（前編）		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

これまで学んできた時事能力の知識を元に、それをさらに深めるべく社会科学系の資格であるニュース時事能力検定の公式テキストを用いて最新のトピックに触れていく。単に講義を受けるのみならず問題集を解いて実践力も身につける。基本的には「準2級」の資格を得られるようにするのが目標である

内容

1. ニュース時事能力検定公式テキストのトピックを1回につき1～2つ解説し理解する
2. それを元に問題集を解いて知識の定着を確認する。問題の解説も行う
3. 時事問題という性質上、適宜その時期に発生したニュースも取り上げていく予定である

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ニュース時事能力検定公式テキストおよび問題集

科目名	時事問題ワークショップ（前編）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1.（ホームワーク）調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場（これはそのつど鈴木が指示する）を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料（A4で1枚）を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する（プロジェクターを使ったプレゼン用）。

2.（第一回目授業）プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする（資料を棒読みするのではない）。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する（採点対象）。

3.（第二回目授業）ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4.（第二回目授業）論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する（採点対象）。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物（50%）およびプレゼンテーション・ディベート（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず

科目名	時事問題ワークショップ（後編）		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目はマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った時事問題に関する知識と視点をもとに、日本と世界が直面するさまざまな問題をさらに深く調べるものである。

近年、企業や各種団体の就職/採用試験では、いわゆる時事問題が多く出題され、時事問題をテーマにして行われるグループディスカッションを通して学生の実力を試す傾向が定着している。このため授業では、内外の時事問題とその歴史的背景を解説することに重点を置く。受講生は新聞やテレビの報道や雑誌などで基本的な知識や教養を身につけた上で、自分の意見や考え方をまとめ、プレゼンテーション能力（口頭および文章）を養う。

内容

その時々日本や世界が直面する諸課題を取り上げる。

2011年度後期の授業で取り上げた主なテーマは以下の通りである。

地球温暖化問題（COP17や地球温暖化に優しい原子力発電に連動させて） *地球温暖化で沈む島国を描いたTVドキュメンタリーの視聴も

原子力発電問題（福島第一原発事故やチェルノブイリ原発事故などを踏まえて） *原子力発電所の解体を描いたTVドキュメンタリーの視聴も

日本の国会と憲法の問題（野田内閣の国会運営や野党の対応など、実際の国会の動きに連動させて）

これらの他に、さまざまな時事用語解説など。

評価

適宜行う試験（60点）と受講生の下調べや発表に取り組む姿勢（40点）で評価する。60点以上が合格。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書/参考資料は適宜紹介・配布する。

科目名	時事問題ワークショップ（後編）		
担当教員名	佐藤 公正		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

これはマスメディアコース3年次の必修科目である。1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で身につけた知識をもとに、日本と世界が直面するさまざまな課題について、自分の問題意識を出発点に協働学習のなかで事実を深く調べ、分析し、議論し、自分の意見を作り上げていく。併せて、それを発表、発信する能力を養う。言い換えると、高度情報社会においてよく生きる力の源となる、自立した判断力と問題解決能力を習得するのが目的である。

内容

ここで取り上げる時事問題というのは、たんに世間の耳目を集めるような表層的な出来事を意味するものではない。この先の時代を担う若い受講生自身が、時間的・空間的な座標軸のなかで、自らの世界観を培うのに役立つと思われる事象を各分野から選んで扱いたい。

科目名が示すように、時事解説を聴く講義形式の授業ではない。

受講生は担当教員のアドバイスのもとで、上記のねらいに沿ってテーマを決め、基本的にグループ単位のワークショップを展開する。

具体的には、次のようなワークの流れを想定する。

テーマの決定

事実の調査（分担作業の場合もある）

グループ内の議論

発表資料の作成（同上）

グループ発表（ディベート形式の場合もある）

<自分の見方>をレポートにまとめて提出する。

完成した発表資料をもとに、小冊子を作りあげたい。

テーマによって ~ の比重は異なる。したがって、1つのテーマにかける時数も変わってくる。

第1回目の授業で、このシラバスを理解したうえで自分が取り組んでみたいテーマ（複数可）と理由を全員に発表してもらう。メモ程度の簡単な準備をしてきてください。

「ワークショップ」による協働学習を大切にして、仲間同士で学び合えるような参加型授業をめざす。

評価

調査と発表の内容が6割、レポートが4割。6割以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考文献などは適宜紹介する。

科目名	時事問題ワークショップ（後編）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1.（ホームワーク）調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場（これはそのつど鈴木が指示する）を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料（A4で1枚）を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する（プロジェクターを使ったプレゼン用）。

2.（第一回目授業）プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする（資料を棒読みするのではない）。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する（採点対象）。

3.（第二回目授業）ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4.（第二回目授業）論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する（採点対象）。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物（50%）およびプレゼンテーション・ディベート（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず

科目名	時事問題ワークショップ（後編）		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、マスメディアコース3年生の必修科目で、1年次の「トレンド・ウォッチ」、2年次の「時事解説」で養った、時事問題に関する背景知識と視点を元に、現代社会のさまざまな問題を自ら深く調べ、議論する。こうした行為を繰り返していく中で、これまで得た、時事問題に関する「知識」を元に、それに対する自分の「意見」を形成し、さらにそれをプレゼンテーションする能力を養うのが目的である。

内容

教員の指示する時事問題に関し、プレゼンテーション、ディベートおよび小論文作成を行う。

授業の進め方：

一つのテーマにつき、原則2回の授業を行う。

1.（ホームワーク）調査+プレゼン資料作成

教員が決定したテーマについて、二つのチームに別れ、それぞれ異なる立場（これはそのつど鈴木が指示する）を正当化するための資料を集め、それらを吟味したプレゼン資料（A4で1枚）を全員がワードかパワーポイントで作成し、1部プリントアウトして持ってくるとともに、USBメモリーに入れて持参する（プロジェクターを使ったプレゼン用）。

2.（第一回目授業）プレゼン

プレゼンテーションは、各チーム数名を鈴木が指名するので、調べてきたことを「みんなに分かり易く」プレゼンする（資料を棒読みするのではない）。プレゼンターは質問にも応答する。プレゼン資料は、全員が最後に提出する（採点対象）。

3.（第二回目授業）ディベート

各チームの立場からのプレゼンを聞き、各チームで自分たちの主張をより強化する論理と、相手の主張を突き崩す論理を考える。ディベーターを各チーム2-3人、鈴木が指名するので、反論、質問などの討論を行う。

4.（第二回目授業）論述

ディベート終了後、自分のチームではなく、自分「個人の」意見を、「説得的に」論述し、提出する（採点対象）。このため、各自400字詰め原稿用紙を持参すること。

評価

提出物（50%）およびプレゼンテーション・ディベート（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず

科目名	コンピュータプレゼンテーション技法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

内容

- ・『PowerPoint』の基本操作
- ・プレゼンテーションのプランニングと構成
- ・スライドの作成
- ・人前で話すための基本姿勢
- ・プレゼンテーション演習

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーションの技法1
8	ビジュアルプレゼンテーションの技法2
9	プレゼンテーション企画
10	プレゼンテーション制作1
11	プレゼンテーション制作2
12	グループプレゼンテーション発表(グループ)

13	グループプレゼンテーション発表（全体）
14	グループプレゼンテーション反省
15	まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。

毎回授業後48時間以内に、まとめ&感想（質問含む）と Self-evaluationをメールで送信
（提出 基礎点... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント）

レポート・課題...3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す）

最終課題...5~10ポイント

合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：

山崎紅，説得できるプレゼンの鉄則（PowerPoint上級極意編），日経BP

中澤務・森貴史・本村康哲編，『知のナビゲーター』，くろしお出版（入門ゼミナールと同じ）

科目名	コンピュータプレゼンテーション技法		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

・学科基礎専門科目での位置づけの通り、学科全員にデジタルデバイスを用いた効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Pointを使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCoolなプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。

・授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Pointの実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる

内容

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーションの技法1
8	ビジュアルプレゼンテーションの技法2
9	プレゼンテーション企画
10	プレゼンテーション制作1
11	プレゼンテーション制作2
12	グループプレゼンテーション発表(グループ)
13	グループプレゼンテーション発表(全体)
14	グループプレゼンテーション反省
15	まとめ

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書:

山崎紅, 説得できるプレゼンの鉄則(PowerPoint上級極意編), 日経BP

中澤務・森貴史・本村康哲編, 『知のナビゲーター』, くるしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	DTP演習		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年以上経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家でなくとも編集レイアウトが出来て、基本ルールを覚えれば、さらに美しく日本語を組むことが出来るようになりました。この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、DTPや組版の基礎から応用を学んでいきます。「コンピュータによるマガジン制作演習」を受講された方は、ステップアップ編として位置付けることができます。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・プリプレス基礎知識
- ・DTP 基礎知識
- ・組版基礎
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	ウェブ・デザイン		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

Webサイトのデザインを通して、情報をデザインする方法を学ぶ。

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。受講者には1年次の情報処理演習・で基礎スキルを身につけ、自ら発信したいコンテンツを持っている人であることが望ましい。デジタル環境下でのデザイン能力には、現実世界のアナログ情報とネット上のデジタル情報を収集・編集・統合し、自分のコンセプトや知見を具現化した新しいデジタルコンテンツとして再構築するスキルが求められる。各自の研究テーマに関連する知識リソースを収集し、それらを各自の視点に基づいて再編集した後、Web上での知識アーカイブとして発信するまでの、実践的デザイン能力を身に付けることを目指す。Webサイト作成の実習は授業だけでなく自習での作業が必須となる。

したがって、多少、ハードな課題が多くなることが考えられる。

内容

- 第1回 基本スキルチェック、Webと情報デザイン
- 第2回 Webサイト研究 マーケティング・コミュニケーション
- 第3回 デザインとディレクション
- 第4回 各自プロジェクトの発表
- 第5回 HTML・XHTML
- 第6回 インターフェイスとユーザビリティ
- 第7回 アクセシビリティとSEO
- 第8回 レイアウトとCSS、Flash
- 第9回 Webページのコーディング
- 第10回 コーディング演習1
- 第11回 コーディング演習2
- 第12回 プレゼンテーション
- 第13回 ~第15回 Webサイトの構築演習1~3

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール...1~7ポイント(提出【基礎点】...1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題...3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験...5~10ポイント 合計ポイントと評価...D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化~データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット~第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング~簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化~データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット~第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング~簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~ステップ入力~キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)~スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽(音声)コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase(キューベース)ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM(デスクトップ・ミュージック)=コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージックではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)~ステップ入力~スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)~ステップ入力~キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)~リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)~ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)~ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)~スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)~スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材~オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)~創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)~創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)~創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase (キューベース) ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) の世界を体験的に学習します。

科目の概要

1.DTM (デスクトップ・ミュージック) すなわちコンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。(原則的に) で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。

2.このコンピュータミュージック では、既製の音源を編集したり画像との組み合わせなどを実習する。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力・オーディオループ素材の活用などの、より高度な音楽制作の実習
- 2.著作権フリーの映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGMを作る(マルチメディア制作)

内容

第1回 ガイダンス

第2回 演習課題(1)-1

第3回 演習課題(1)-2～継続的に課題演習

第4回 演習課題(1)-3～継続的に課題演習

第5回 演習課題(1)-4～継続的に課題演習

第6回 演習課題(1)-5～継続的に課題演習

第7回 演習課題(1)-6～継続的に課題演習

第8回 オーディオデータの編集

第9回 CDから楽曲を取り込む

第10回 演習課題(2)-1～既製曲と自作曲を組み合わせる

第11回 演習課題(2)-2～継続的に課題演習

第12回 演習課題(2)-3～継続的に課題演習

第13回 演習課題(2)-4～継続的に課題演習

第14回 スライドショーを作り、楽曲と組み合わせる

第15回 最終回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.コンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。原則的に で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。
- 2.このコンピュータミュージック ではボーカロイド（2011年1月現在では予定）によるヴォーカルトラックの作成、映像と音楽を合わせたマルチメディア作品制作、ナレーションの録音、編集を含むポッドキャスト番組の制作とインターネット配信の実習などを予定している。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力、ボーカロイドを使ったより高度な音楽制作の実習
- 2.エフェクトを多用したより高度なオーディオミックスダウンの実習
- 3.映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGM制作（マルチメディア制作）
- 4.ナレーションの録音、編集とオーディオループ素材によるBGMを合成しポッドキャスト番組を制作。mp3に変換（エンコード）してインターネット配信を試みる。

内容

- 第1回 ガイダンス、演習課題(1)-1
- 第2回 演習課題(1)-2～E-MU Proteus VXの使用法(随時)
- 第3回 演習課題(1)-3～継続的に課題演習
- 第4回 演習課題(1)-4～継続的に課題演習
- 第5回 演習課題(1)-5～ボーカロイドの使用法
- 第6回 演習課題(1)-6～データの完成。オーディオの書き出し ミックスダウン
- 第7回 映像に音楽をつける(1)～YouTubeから動画ファイルをキャプチャする
(またはこちらで用意した動画素材を使う) 動画のイメージに沿って音楽を作る
(音楽はオーディオループ素材を中心に一部MIDIも併用)
- 第8回 映像に音楽をつける(2)～継続的に課題演習
- 第9回 映像に音楽をつける(3)～データの完成 試聴
- 第10回 ポッドキャストを作る(1)～ナレーションのレコーディングと編集
- 第11回 ポッドキャストを作る(2)～継続的に課題演習
- 第12回 ポッドキャストを作る(3)～BGM作成
- 第13回 ポッドキャストを作る(4)～継続的に課題演習
- 第14回 ポッドキャストを作る(5)～mp3エンコード(圧縮ファイルの作成) ブログで配信
- 第15回 最終回 まとめ ポッドキャスト番組の試聴会

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	サウンド処理演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルをさらに発展させることを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習I,IIの単位を修得していることが必要である。

科目の概要 サウンドについて、心理学的な考察、物理学的な考察、数学的な考察、生活学的な考察を行う。それらを踏まえた上で、サウンドだけに限定せず、写真、アニメーションまで含めたデータベースを構築する。特に、教育的な目的をもったデータベースを構築する。

学修目標 アナウンスなどの音声、効果音、雑音、音楽などの収録、切り貼り、編集、サウンドのデータベース構築等を通して、スキルを発展してもらう。

内容

1	オリエンテーション
2	心理学的な考察(1) サウンドについて聴覚心理学的な考察を行う。
3	心理学的な考察(2) サウンドについて、視聴覚の相互作用の面から考察を行う。
4	物理学的な考察 サウンドを扱うために、物理学的な知識が必要であるので、その初歩を学ぶ。
5	数学的な考察 サウンドを扱うためには、フーリエ解析等の知識が必要である。その初歩を学ぶ。
6	サウンドの処理の位置付け(1) サウンドの分類、サウンドファイルの特徴について学ぶ。
7	サウンドの処理の位置付け(2) コンピュータを用いたサウンド処理の位置付けを行う。
8	データベース インターネット上のサウンドデータベースの比較を行う。
9	サウンドのレコーディング ICレコーダ等を用いて、取り込む方法について学ぶ。
10	サウンドの編集 音声の子音部だけを除去し実際にどのように変化するかなど、学ぶ。
11	動画におけるサウンドの扱い 動画ファイルからサウンドを取り出すなど、学ぶ。
12	日常生活における重要性の考察 日常生活におけるサウンドの重要性について考察する。
13	データベース構築(1) ホームページ用等に有効なサウンドのデータベースを試作する。
14	データベース構築(2) ホームページ用等に有効なサウンドのデータベースを構築する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品(15点)を、150点満点(15X10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要な場合にはプリントを配布する。

科目名	コンピュータグラフィック		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

Photoshop(ペイント系)やIllustrator(ドロー系)を使用して、コンピュータグラフィックの基本を学びます。絵を描く技術は特に必要ありません。

図形や画像は、相手の理解を深めるための視覚資料としても利用されます。正確に図形を描くためのツールや、既存の図形や画像を加工する方法を習得しておくことは、社会に出てからも役に立ちます。自分の作品として残ることも、グラフィックソフトを使う大きな楽しみ。演習は楽しく、作品は美しく、操作は正しく覚えましょう。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

ドロー系グラフィックス

1. ペイント系とドロー系の違い
2. 図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
3. 描画ツール
4. ベジェ曲線

ペイント系グラフィックス

5. 図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
6. 描画ツール
7. 色調補正
8. 画像の切り抜き
9. 画像の合成

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	コンピュータグラフィック		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルを発展させ、表現について考察することを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の単位を修得していることが必要である。

科目の概要 絵、写真、動画、サウンド、あらゆるものを含み、総合的な作品を創作する過程で、スキル等を発展してもらう。表現について改めて考えるきっかけとして欲しい。

学修目標 わかりやすく表現する難しさを理解する。表現しやすい題材と表現しにくい題材が存在すること、その特徴について理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	童話(著作権に問題がないと考えられるもの、以下同様)の映像化(起の部分)
3	童話の映像化(承の部分)
4	童話の映像化(転の部分)
5	童話の映像化(結の部分)
6	物語の映像化(起の部分)
7	物語の映像化(承の部分)
8	物語の映像化(転の部分)
9	物語の映像化(結の部分)
10	オリジナルシナリオの創作
11	オリジナルシナリオの映像化(起の部分)
12	オリジナルシナリオの映像化(承の部分)
13	オリジナルシナリオの映像化(転の部分)
14	オリジナルシナリオの映像化(結の部分)
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品(15点)を、150点満点(15x10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない。プリント配布。

【参考図書】教室で紹介する

科目名	コンピュータアニメーション		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルをさらに発展させることを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習I,IIの単位を修得していることが必要である。

科目の概要 まず、アニメーションに対して、心理学的な考察、物理学的な考察、数学的な考察を行う。それらを踏まえた上で、サウンド、写真などを盛り込んだ、アニメーションを作成する。特に、折り紙の折り方を教える、手話を教えるなど教育的な目的をもったアニメーションを作成する。

学修目標 わかりやすく表現する方法としてのアニメーションの特性を理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	人間に連続的に見えるアニメーションの原理について、視覚心理学的な考察を行う。
3	アニメーションにおいて欠かせないサウンドについて、聴覚心理学的な考察を行う。
4	アニメーションの技法において重要な、視聴覚の相互作用について考察を行う。
5	物理学的な考察 色、音を扱うために、その初歩を学ぶ。
6	数学的な考察 3次元空間に関する「感覚」が必要である。その感覚を養う。
7	教育学的な考察 アニメーションを作成するために、教育的に適切な分野は何か考察する。
8	ペイント系ソフトウェアの基本的な学習
9	ドロー系ソフトウェアの基本的な学習
10	映像系ソフトウェアの基本的な学習
11	映像系ソフトウェアの応用的な学習 特に画像系ソフトウェアとの関係からの学習
12	音声系ソフトウェアの基本的な学習
13	音楽系ソフトウェアの基本的な学習
14	アニメーションの作成 教育的な目標を設定し、簡単なアニメーションを作成する。
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品(15点)を、150点満点(15x10点満点)で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

プリントを配布

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化～データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット～第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング～簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～キーエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～リアルタイム入力
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～ドラム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～スコア課題
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化～データのオーディオ化 ミックス オーディオファイルの書き出し
- 第10回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第11回 オーディオエディット～第9回、第10回で作った曲をメドレーにする
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 ミックスダウン CDライティング～簡易マスタリング オーディオの書き出し Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して

参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～ステップ入力～キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)～スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（基礎）		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。

近年、自宅あるいはオフィスで音楽（音声）コンテンツを作り、発信するということがもはや決して特別なことではなくなり、それらのコンテンツや音楽ファイルの適切な取扱いができることは社会人として重要なスキルのひとつとなっています。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.DTM（デスクトップ・ミュージック）＝コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。
- 2.このコンピュータミュージック ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。

MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 オーディオCD制作
という手順でDTMの基礎を身につける。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習
- 2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
- 3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
- 4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品の制作

内容

- 第1回 ガイダンス、スタートアップ
- 第2回 MIDI レコーディングとエディット(1)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第3回 MIDI レコーディングとエディット(2)～ステップ入力～スコアエディタ
- 第4回 MIDI レコーディングとエディット(3)～ステップ入力～キーエディタ
- 第5回 MIDI レコーディングとエディット(4)～リアルタイム入力
- 第6回 MIDI レコーディングとエディット(5)～ドラム入力
- 第7回 MIDI レコーディングとエディット(6)～ドラム入力
- 第8回 MIDI レコーディングとエディット(7)～スコア課題
- 第9回 MIDI レコーディングとエディット(8)～スコア課題
- 第10回 ミックスダウン MIDIデータのオーディオ化
- 第11回 オーディオループ素材～オーディオループ素材を使って楽曲を作る
- 第12回 創作演習(1)～創作を含むより高度な演習課題
- 第13回 創作演習(2)～創作を含むより高度な演習課題
- 第14回 創作演習(3)～創作を含むより高度な演習課題 ミックスダウン
- 第15回 Windows Media Playerを使ったCDライティング

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージック は基礎編に当たるため初心者（過去にコンピュータミュージック を履修していない者）のみを対象とします。

発展的内容の履修希望者は後期に開講されるコンピュータミュージック を履修してください。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（発展）		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

1.DTM（デスクトップ・ミュージック）すなわちコンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。（原則的に）で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。

2.このコンピュータミュージック では、既製の音源を編集したり画像との組み合わせなどを実習する。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力・オーディオループ素材の活用などの、より高度な音楽制作の実習
- 2.著作権フリーの映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGMを作る（マルチメディア制作）

内容

第1回 ガイダンス

第2回 演習課題(1)-1

第3回 演習課題(1)-2～継続的に課題演習

第4回 演習課題(1)-3～継続的に課題演習

第5回 演習課題(1)-4～継続的に課題演習

第6回 演習課題(1)-5～継続的に課題演習

第7回 演習課題(1)-6～継続的に課題演習

第8回 オーディオデータの編集

第9回 CDから楽曲を取り込む

第10回 演習課題(2)-1～既製曲と自作曲を組み合わせる

第11回 演習課題(2)-2～継続的に課題演習

第12回 演習課題(2)-3～継続的に課題演習

第13回 演習課題(2)-4～継続的に課題演習

第14回 スライドショーを作り、楽曲と組み合わせる

第15回 最終回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD "CUBASE 4"」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータミュージック（発展）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格...音楽の制作、音声の録音、編集などは重要なコンピュータ・スキルのひとつです。

このクラスではDTMソフトの定番、Cubase（キューベース）ファミリーの入門版であるCubaseAI 4を導入し、最新のDAW（デジタル・オーディオ・ワークステーション）の世界を体験的に学習します。

科目の概要

- 1.コンピュータを使用した音楽制作。音声の録音、編集などを実習的に学ぶ。原則的に で学んだことを踏まえてやや発展的な内容を扱う。
- 2.このコンピュータミュージック ではボーカロイド（2011年1月現在では予定）によるヴォーカルトラックの作成、映像と音楽を合わせたマルチメディア作品制作、ナレーションの録音、編集を含むポッドキャスト番組の制作とインターネット配信の実習などを予定している。

学修目標

- 1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力、ボーカロイドを使ったより高度な音楽制作の実習
- 2.エフェクトを多用したより高度なオーディオミックスダウンの実習
- 3.映像素材に対してオーディオループ素材の組み合わせと編集によりBGM制作（マルチメディア制作）
- 4.ナレーションの録音、編集とオーディオループ素材によるBGMを合成しポッドキャスト番組を制作。mp3に変換（エンコード）してインターネット配信を試みる。

内容

- 第1回 ガイダンス、演習課題(1)-1
- 第2回 演習課題(1)-2～E-MU Proteus VXの使用法(随時)
- 第3回 演習課題(1)-3～継続的に課題演習
- 第4回 演習課題(1)-4～継続的に課題演習
- 第5回 演習課題(1)-5～ボーカロイドの使用法
- 第6回 演習課題(1)-6～データの完成。オーディオの書き出し ミックスダウン
- 第7回 映像に音楽をつける(1)～YouTubeから動画ファイルをキャプチャする
(またはこちらで用意した動画素材を使う) 動画のイメージに沿って音楽を作る
(音楽はオーディオループ素材を中心に一部MIDIも併用)
- 第8回 映像に音楽をつける(2)～継続的に課題演習
- 第9回 映像に音楽をつける(3)～データの完成 試聴
- 第10回 ポッドキャストを作る(1)～ナレーションのレコーディングと編集
- 第11回 ポッドキャストを作る(2)～継続的に課題演習
- 第12回 ポッドキャストを作る(3)～BGM作成
- 第13回 ポッドキャストを作る(4)～継続的に課題演習
- 第14回 ポッドキャストを作る(5)～mp3エンコード(圧縮ファイルの作成) ブログで配信
- 第15回 最終回 まとめ ポッドキャスト番組の試聴会

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンその他の演奏経験は不要です。

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

原則としてコンピュータミュージック を履修済みであることが望ましいが、初心者も受け入れ可能。その場合は別途コンピュータミュージック に相当する内容を学ぶことになる。 の内容についてはコンピュータミュージック のシラバスに準ずる。ただし、受講制限の必要が生じた場合には従来のガイドラインに加えて からの継続履修希望者を優先とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・書籍（ガイドブック）

Cubase Seires 徹底操作ガイド...株式会社 リットーミュージック

・DVD

Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座...株式会社 ウォンツ

ミュージック・マスターガイドDVD “CUBASE 4” ...株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータグラフィック（基礎）		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

Photoshop（ペイント系）やIllustrator（ドロー系）を使用して、コンピュータグラフィックの基本を学びます。絵を描く技術は特に必要ありません。

図形や画像は、相手の理解を深めるための視覚資料としても利用されます。正確に図形を描くためのツールや、既存の図形や画像を加工する方法を習得しておくことは、社会に出てからも役に立ちます。自分の作品として残ることも、グラフィックソフトを使う大きな楽しみ。演習は楽しく、作品は美しく、操作は正しく覚えましょう。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

ドロー系グラフィックス

- 1．ペイント系とドロー系の違い
- 2．図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
- 3．描画ツール
- 4．ベジェ曲線

ペイント系グラフィックス

- 5．図形選択。選択範囲の移動、複製、追加、削除など。
- 6．描画ツール
- 7．色調補正
- 8．画像の切り抜き
- 9．画像の合成

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	コンピュータグラフィック（発展）		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

ねらい

科目の性格 1年次の情報処理演習を踏まえて、そこで習得したコンピュータのスキルを発展させ、表現について考察することを狙う。それゆえに、1年次の情報処理演習の単位を修得していることが必要である。

科目の概要 絵、写真、動画、サウンド、あらゆるものを含み、総合的な作品を創作する過程で、スキル等を発展してもらう。表現について改めて考えるきっかけとして欲しい。

学修目標 わかりやすく表現する難しさを理解する。表現しやすい題材と表現しにくい題材が存在すること、その特徴について理解する。

内容

1	オリエンテーション
2	童話（著作権に問題がないと考えられるもの、以下同様）の映像化（起の部分）
3	童話の映像化（承の部分）
4	童話の映像化（転の部分）
5	童話の映像化（結の部分）
6	物語の映像化（起の部分）
7	物語の映像化（承の部分）
8	物語の映像化（転の部分）
9	物語の映像化（結の部分）
10	オリジナルシナリオの創作
11	オリジナルシナリオの映像化（起の部分）
12	オリジナルシナリオの映像化（承の部分）
13	オリジナルシナリオの映像化（転の部分）
14	オリジナルシナリオの映像化（結の部分）
15	まとめ

評価

提出してもらったレポート、作品（15点）を、150点満点（15×10点満点）で計算し、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】使用しない。プリント配布。

【参考図書】教室で紹介する

科目名	マガジン制作ワークショップ		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターネットなどの電子メディアが勢いを増しつつある今日、紙媒体のメディアである「雑誌」と雑誌が形成する文化は衰退の危機にあるとも言われている。本講義では、衰退しつつある雑誌文化が、現在、電子メディアに対抗(ないしはそれと共存)するためにどのような手法を用いているのか、という視点から、現在までの雑誌文化の歴史とその役割について学習し、グループワークを通じて紙の雑誌と電子媒体による雑誌、それぞれの特徴について検証し、電子媒体による新しい形態の雑誌のあり方も含めた今後の雑誌文化のありかたについて考察していく。実際に、編集や出版に携わっている特別講師を招いて、雑誌文化の現状について具体的に講義をしてもらう予定である。

内容

1. 雑誌とその周辺の文化に関する基礎講座
2. 雑誌文化の歴史(1) 戦前編
3. 雑誌文化の歴史(2) 戦後編
4. 雑誌文化の現状 特別講師による講義
5. 雑誌文化の研究(1) [女性誌編]
6. 雑誌文化の研究(2) [女性誌編]
7. 雑誌文化の研究(3) [男性誌編]
8. 雑誌文化の研究(4) [男性誌編]
9. 雑誌文化の研究(5) [文化系編]
10. 雑誌文化の研究(6) [情報誌編]
11. 雑誌文化の研究(7) [文芸誌編]
12. 雑誌文化の研究(8) [電子メディア編]
13. 雑誌文化の研究(9) 比較と検討
14. 今後、雑誌文化はどのように展開していくのか?
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

* 必要に応じて、授業内で紹介し、プリントなどを配布します。

科目名	マガジン制作ワークショップ		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「新人物往来社」による「『彩の国』を抱きしめて」

江戸・東京に近かったため強烈な地元意識が育たなかったといわれる埼玉は、実際は、たおやかな自然と歴史と人に恵まれた、文字通り美しい「彩の国」である。

そして今、東日本大震災を機に、この地を終の棲家と定めた新住民も、墳墓の地を愛して生きる人々と「彩の国」の誇りを共有しようとしている。

新しい「ふるさと愛」を育み、東京と違う輝きを放つためにこそ、埼玉の本当の価値を今こそ見直そうという思いを込めながら、女性にも熱い視線を向けた「埼玉学」である。

キーワードは、さきたま古墳群、武蔵武士、荻野吟子、秩父夜祭、そして のぼうの城…。新人物往来社で発刊後、たちまち6刷を記録した『埼玉県謎解き散歩』の共著者らが交代で演壇に立ち、ダサイタマなどおとしめられたマイナスイメージを払い去り、「埼玉」の正しい評価、懐の深さを受講者に語っていただく「学び」を展開する。

最初の講義の様子や、複数の講師にに対する講義終了後のインタビューが「ジェイコムさいたま」(CATV)で放映される予定である。

内容

1	開講にあたって(新人物往来社社長挨拶): 埼玉県の今と昔「『ダサイタマ』から『彩の国へ』
2	さきたま古墳群と国宝「辛亥銘鉄剣」の謎を探る「165文字が語るヤマトと埼玉」
3	埼玉の女性史「源頼朝の乳母・比企禅尼とは、どんな女性だったのか」
4	三富・野火止用水の成り立ちと雑木林「平林寺と三富新田と野火止用水の地を歩く」
5	埼玉の和紙「小川和紙(細川紙)の過去と現在」
6	埼玉の女性史「我が国初の公許女医・荻野吟子の生涯をたどる」
7	鎌倉幕府を支えた武蔵武士たち「畠山重忠、熊谷直実、比企能員らの活躍」
8	埼玉の鉄道「過去に存在した幻の鉄道から現在の鉄道まで 埼玉の交通事情」
9	国指定史跡「吉見百穴」の出現を考える「横穴墓伝来の背景とは?」
10	埼玉の城と合戦「『のぼうの城』だけじゃない埼玉の城と合戦の歴史」
11	母なる川・荒川「荒川の特徴と治水史を通し、埼玉県歩みをたどる」
12	埼玉の文学「小説『天の園』『大地の園』を書いた打木村治の作品と生涯をたどる」
13	埼玉の農業「深谷のネギ、秩父のぶどう、川越のイモ...」
14	埼玉の祭り「それぞれに意味が込められた四季折々の祭り」
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：『埼玉県謎解き散歩』（新人物往来社）

科目名	フォト・ビデオジャーナリズム演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

新聞・雑誌などの活字メディアを飾る「写真」も、映画・テレビの「動画」も、撮る(撮影)という作業ぬきには成り立ちません。

デジタルカメラによる静止画撮影とビデオカメラによる動画の撮影を実習して、撮ること(映像表現)について理解を深めます。

また、撮影を実践する中からジャーナリズムの中の写真の役割やビデオ映像の役割について考えます。

ビデオについては、撮影したものを編集する際 映像編集演習 が関係します。

科目の概要

どのような点に注意すると、第三者に理解され、支持されるような作品になるかについて考えます。

その際、自分自身の納得はもちろん、多くの視聴者の共感を呼ぶようなものになっているかどうかということに主眼を置きます。

学修目標 以下の4点を目標とします。

- 1、写真の撮影について理解し、撮影技能の向上をはかる
- 2、写真(静止画)とビデオ(動画)について、その違いを理解する。
- 3、ビデオ撮影を実践することにより、その映像表現について理解し、撮影技能の向上をはかる。
- 4、ビデオ映像は、編集を前提として撮影されていることを理解する。

内容

1	何を、どんなカメラで撮るのか
2	写真1 まず撮ってみよう
3	写真2 シャッターチャンス、フォーカス、絞り、ポジション
4	写真3 画角(写角)、構図、光の質と方向
5	写真4 テーマを決めて撮る
6	写真5 デジタルで保存する
7	写真の良さ。ビデオの良さ。
8	ビデオ撮影1 ビデオカメラのしくみを理解する
9	ビデオ撮影2 長さ(時間)の要素
10	ビデオ撮影3 音を効果的に使う
11	ビデオ撮影4 アングルを変え、サイズを変え、多角的に
12	ビデオ撮影5 被写体が動く。カメラとVTRが動く
13	編集の役割
14	レポートについて
15	まとめ

評価

実習による評価40点、作品の提出30点、レポート30点の合計で評価し、60点以上を合格とします。
三分の二以上出席することで、評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布します。

科目名	フォト・ビデオジャーナリズム演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

新聞・雑誌などの活字メディアを飾る「写真」も、映画・テレビの「動画」も、撮る（撮影）という作業ぬきには成り立ちません。

デジタルカメラによる静止画撮影とビデオカメラによる動画の撮影を実習して、撮ること（映像表現）について理解を深めます。

また、撮影を実践する中からジャーナリズムの中の写真の役割やビデオ映像の役割について考えます。

ビデオについては、撮影したものを編集する際 映像編集演習 が関係します。

科目の概要

どのような点に注意すると、第三者に理解され、支持されるような作品になるかについて考えます。

その際、自分自身の納得はもちろん、多くの視聴者の共感を呼ぶようなものになっているかどうかということに主眼を置きます。

学修目標 以下の4点を目標とします。

- 1、写真の撮影について理解し、撮影技能の向上をはかる
- 2、写真（静止画）とビデオ（動画）について、その違いを理解する。
- 3、ビデオ撮影を実践することにより、その映像表現について理解し、撮影技能の向上をはかる。
- 4、ビデオ映像は、編集を前提として撮影されていることを理解する。

内容

1	何を、どんなカメラで撮るのか
2	写真1 まず撮ってみよう
3	写真2 シャッターチャンス、フォーカス、絞り、ポジション
4	写真3 画角（写角）、構図、光の質と方向
5	写真4 テーマを決めて撮る
6	写真5 デジタルで保存する
7	写真の良さ。ビデオの良さ。
8	ビデオ撮影1 ビデオカメラのしくみを理解する
9	ビデオ撮影2 長さ（時間）の要素
10	ビデオ撮影3 音を効果的に使う
11	ビデオ撮影4 アングルを変え、サイズを変え、多角的に
12	ビデオ撮影5 被写体が動く。カメラとVTRが動く
13	編集の役割
14	レポートについて
15	まとめ

評価

実習による評価40点、作品の提出30点、レポート30点の合計で評価し、60点以上を合格とします。
三分の二以上出席することで、評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布します。

科目名	フォト・ビデオジャーナリズム演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

新聞・雑誌などの活字メディアを飾る「写真」も、映画・テレビの「動画」も、撮る（撮影）という作業ぬきには成り立ちません。

デジタルカメラによる静止画撮影とビデオカメラによる動画の撮影を実習して、撮ること（映像表現）について理解を深めます。

また、撮影を実践する中からジャーナリズムの中の写真の役割やビデオ映像の役割について考えます。

ビデオについては、撮影したものを編集する際 映像編集演習 が関係します。

科目の概要

どのような点に注意すると、第三者に理解され、支持されるような作品になるかについて考えます。

その際、自分自身の納得はもちろん、多くの視聴者の共感を呼ぶようなものになっているかどうかということに主眼を置きます。

学修目標 以下の4点を目標とします。

- 1、写真の撮影について理解し、撮影技能の向上をはかる
- 2、写真（静止画）とビデオ（動画）について、その違いを理解する。
- 3、ビデオ撮影を実践することにより、その映像表現について理解し、撮影技能の向上をはかる。
- 4、ビデオ映像は、編集を前提として撮影されていることを理解する。

内容

1	何を、どんなカメラで撮るのか
2	写真1 まず撮ってみよう
3	写真2 シャッターチャンス、フォーカス、絞り、ポジション
4	写真3 画角（写角）、構図、光の質と方向
5	写真4 テーマを決めて撮る
6	写真5 デジタルで保存する
7	写真の良さ。ビデオの良さ。
8	ビデオ撮影1 ビデオカメラのしくみを理解する
9	ビデオ撮影2 長さ（時間）の要素
10	ビデオ撮影3 音を効果的に使う
11	ビデオ撮影4 アングルを変え、サイズを変え、多角的に
12	ビデオ撮影5 被写体が動く。カメラとVTRが動く
13	編集の役割
14	レポートについて
15	まとめ

評価

実習による評価40点、作品の提出30点、レポート30点の合計で評価し、60点以上を合格とします。
三分の二以上出席することで、評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布します。

科目名	ラジオ番組制作演習		
担当教員名	勝田 裕之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

(科目の性格) コミュニケーション学科の一環として、ラジオの特性と利点を理解し制作者の立場に立つことによって、その作業過程を通して表現とは何かを体験的に学ぶ。

(科目の概要) この授業では、企画(提案)・制作・評価という一つの流れを重視して授業を進めていく。具体的には「提案」をどのように作品化するかというプロセスの中で、番組制作の理論と実技を身につける。

(学修目標) 1. ラジオの特性(想像力を刺激するメディア、災害報道に強いメディアである)を認識する。2. ラジオ番組制作の実体験から、コミュニケーションの意味、特にメディアコミュニケーションとは何かを理解する。3. 制作者の立場を経験することによって、逆に、日頃、メディアが発信しているコンテンツを客観的に、批判的に受けとめる能力を身につける。

内容

1	ラジオの特性と利点(講義) 機材説明
2	インタビュー番組を作る グループ分け 役割分担 打ち合わせ
3	" グループで内容検討 提案書を書き、口頭で発表する
4	" インタビュー部分を小型録音機に収録
5	" インタビュー部分を小型録音機に収録
6	" 番組全体のコメントや音楽を準備
7	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
8	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
9	" 収録作品の試聴・合評
10	ディスクジョッキー番組を作る グループ分け 役割分担 打ち合わせ
11	" 各グループ内容検討 音楽準備
12	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
13	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
14	" 試聴・評価
15	" 試聴・評価 授業全体のまとめ

評価

期末提出レポート(50点) 各完成番組作品(50点)により評価し、合計60点以上を合格とする。

なお3分の2以上出席することで、評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書 「ラジオは脳にきく」 和歌山県立医大教授 板倉徹 東洋経済新報社

科目名	ラジオ番組制作演習		
担当教員名	勝田 裕之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

(科目の性格) コミュニケーション学科の一環として、ラジオの特性と利点を理解し制作者の立場にたつことによって、その作業過程を通して表現とは何かを体験的に学ぶ。

(科目の概要) この授業では、企画(提案)・制作・評価という一つの流れを重視して授業を進めていく。具体的には「提案」をどのように作品化するかというプロセスの中で、番組制作の理論と実技を身につける。

(学修目標) 1. ラジオの特性(想像力を刺激するメディア、災害報道に強いメディアである)を認識する。2. ラジオ番組制作の実体験から、コミュニケーションの意味、特にメディアコミュニケーションとは何かを理解する。3. 制作者の立場を経験することによって、逆に、日頃、メディアが発信しているコンテンツを客観的に、批判的に受けとめる能力を身につける。

内容

1	ラジオの特性と利点(講義) 機材説明
2	インタビュー番組を作る グループ分け 役割分担 打ち合わせ
3	" グループで内容を検討 提案書を書き、口頭で発表する
4	" インタビュー部分を小型録音機に収録
5	" インタビュー部分を小型録音機に収録
6	" 番組全体のコメントや音楽を準備
7	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
8	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
9	" 収録作品の試聴・合評
10	ディスクジョッキー番組を作る グループ分け 役割分担 打ち合わせ
11	各グループ内容検討 音楽準備
12	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
13	" 1本の番組に収録(完成品を作る パッケージする)
14	" 試聴・合評
15	" 試聴・合評 授業全体のまとめ

評価

期末レポート(50点) 各完成番組作品(50点)により評価し、合計60点以上を合格とする。

なお3分の2以上出席することで、評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書 「ラジオは脳にきく」 和歌山県立医大教授 板倉徹 東洋経済新報社

科目名	映像編集演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、ビデオ撮影された映像素材を、構成にしたがって「ねらい」を絞って、カットして、「よく分かるように」つなぎます。

編集に使用する映像素材は、ビデオの撮影がしっかりとできていることが前提となります。

従って、撮影実習のある フォト・ビデオジャーナリズム演習 と関係があります。

講義では、コンピューターを使って映像編集を行う ノンリニア編集機 を使用します。

構成を考えて、ピンウインドウから映像素材を選びます。プレビューウインドウで絵と音を確認して適当な長さにカットします。カットしたものをタイムラインにならべます。

その際、「ねらい」がはっきりしていて、分かりやすい構成になっているかどうか重要なポイントになります。

文字を入れ、コメントを入れ、必要に応じて音楽やエフェクトも入れて作品を完成させます。

映像素材を生かすも殺すも編集次第です。

学修目標は、次の3点です。

ノンリニア編集のしくみを理解し、ノンリニア編集機を使いこなせるようにする。

構成で「ねらい」を絞り、「よく分かる」ように映像編集する。

映像編集技能の向上をはかる。

内容

1	ノンリニア編集について
2	ノンリニア編集で使用する機材について
3	編集の約束事(方向性、目線、時間と空間のとばし方、サイズ、長さ、イマジナリーライン)
4	誰に何をどう見せたいのか。「ねらい」は何か。
5	構成を考える。編集のための素材を集める。ノンリニア編集機に取り込む(キャプチャーする)
6	ビデオ編集用のソフトウェアについて
7	編集開始。どのような順番でカットをならべるか。どこを切り取るべきか。
8	素材の音を生かそう
9	エフェクトについて考えよう
10	文字を入れよう
11	コメントを書く。選曲する。
12	ナレーション入れ。音入れ(音楽、効果音)。
13	必要に応じて手直し
14	視聴、検討
15	まとめ

評価

実習 50 点及び作品 50 点の合計で評価し、60 点以上を合格とします。

三分の二以上出席することで評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布します。

科目名	映像編集演習		
担当教員名	岡崎 正義		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、ビデオ撮影された映像素材を、構成にしたがって「ねらい」を絞って、カットして、「よく分かるように」つなぎます。

編集に使用する映像素材は、ビデオの撮影がしっかりとできていることが前提となります。

従って、撮影実習のある フォト・ビデオジャーナリズム演習 と関係があります。

講義では、コンピューターを使って映像編集を行う ノンリニア編集機 を使用します。

構成を考えて、ピンウインドウから映像素材を選びます。プレビューウインドウで絵と音を確認して適当な長さにカットします。カットしたものをタイムラインにならべます。

その際、「ねらい」がはっきりしていて、分かりやすい構成になっているかどうか重要なポイントになります。

文字を入れ、コメントを入れ、必要に応じて音楽やエフェクトも入れて作品を完成させます。

映像素材を生かすも殺すも編集次第です。

学修目標は、次の3点です。

ノンリニア編集のしくみを理解し、ノンリニア編集機を使いこなせるようにする。

構成で「ねらい」を絞り、「よく分かる」ように映像編集する。

映像編集技能の向上をはかる。

内容

1	ノンリニア編集について
2	ノンリニア編集で使用する機材について
3	編集の約束事(方向性、目線、時間と空間のとばし方、サイズ、長さ、イマジナリーライン)
4	誰に何をどう見せたいのか。「ねらい」は何か。
5	構成を考える。編集のための素材を集める。ノンリニア編集機に取り込む(キャプチャーする)
6	ビデオ編集用のソフトウェアについて
7	編集開始。どのような順番でカットをならべるか。どこを切り取るべきか。
8	素材の音を生かそう
9	エフェクトについて考えよう
10	文字を入れよう
11	コメントを書く。選曲する。
12	ナレーション入れ。音入れ(音楽、効果音)。
13	必要に応じて手直し
14	視聴、検討
15	まとめ

評価

実習 50 点及び作品 50 点の合計で評価し、60 点以上を合格とします。

三分の二以上出席することで評価を受けることができます。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材は、その都度、資料として配布します。

科目名	イベント・CM制作演習		
担当教員名	小西 真理		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目では、イベント・CMを音楽の面から制作していきます。

単に鑑賞するための音楽ではなく、特定の商品を告知・宣伝するための音楽を制作することにより、広告の意味や影響を考察し、それにおける音楽の果たす役割を実践を通して学んでいきます。従って、既製の楽曲でなく、各々のアイデアに基づいたオリジナル楽曲の制作が中心になります。

学修目標は、

- 音楽ソフトCubase AI4を自在に操作できるようにする
- 映像に沿った音楽の制作
- 広告としての効果の検証

内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 Cubase操作の確認を兼ねた演習課題
- 第3回 Cubase操作の確認を兼ねた演習課題
- 第4回 既製CM音楽についての研究
- 第5回 作曲について
- 第6回 音声の録音・ラジオCMの制作
- 第7回 ラジオCMの制作
- 第8回 動画に音楽をつける
- 第9回 動画に音楽をつける
- 第10回 イベント用の楽曲編集の実践
- 第11回 イベント用の楽曲編集の実践
- 第12回 自作CM音楽の制作
- 第13回 自作CM音楽の制作
- 第14回 自作CM音楽の制作
- 第15回 まとめ

評価

平常点60% 提出物40%

受講資格について

コンピュータミュージックI、IIを履修済であることが望ましい。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

原則、プリントを配布します。

以下すべて推薦図書（必須ではない）

・ 書籍（ガイドブック）

「Cubase Series 徹底操作ガイド」 株式会社 リットーミュージック

・ DVD

「Cubase AI4(LE対応)使い方DVD講座」 株式会社 ウォンツ

「ミュージック・マスターガイドDVD " CUBASE 4 " 」 株式会社 ミュージックマスター

科目名	コンピュータによるマガジン制作演習		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年以上経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家でなくとも編集レイアウトが出来て、ちょっとしたコツを覚えれば、誰でもページを美しく仕上げる事が出来るようになりました。

この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、編集に慣れていなくても、ひとまずコンピュータでマガジン制作してみたい人に体験いただける内容です。

「マガジン制作ワークショップ」を受講された方はステップアップ編として位置付けることができます。また「DTP 演習」を受講される方は、その前の受講をお勧めします。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・DTP 基礎知識
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	コンピュータによるマガジン制作演習		
担当教員名	大西 由華		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本の出版物がコンピュータで編集されるようになって20年以上経ちました。アプリケーションソフトも成熟し、専門家でなくとも編集レイアウトが出来て、ちょっとしたコツを覚えれば、誰でもページを美しく仕上げる事が出来るようになりました。

この授業では、レイアウトソフト『Adobe InDesign』を使って、編集に慣れていなくても、ひとまずコンピュータでマガジン制作してみたい人に体験いただける内容です。

「マガジン制作ワークショップ」を受講された方はステップアップ編として位置付けることができます。また「DTP 演習」を受講される方は、その前の受講をお勧めします。

コンピュータ操作が中心となるため、履修人数を制限することがあります。

内容

- ・オリエンテーション
- ・DTP 基礎知識
- ・イラストや画像
- ・ツールの基本操作
- ・マスターページ
- ・ページレイアウト
- ・印刷

評価

授業態度40点、課題制作60点により評価を行い、60点以上を合格とします。試験は行いません。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

自主プリントを中心に使用し、必要に応じて随時紹介します。

科目名	マガジン制作ワークショップ（基礎）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

インターネットなどの電子メディアが勢いを増しつつある今日、紙媒体のメディアである「雑誌」と雑誌が形成する文化は衰退の危機にあるとも言われている。本講義では、衰退しつつある雑誌文化が、現在、電子メディアに対抗（ないしはそれと共存）するためにどのような手法を用いているのか、という視点から、現在までの雑誌文化の歴史とその役割について学習し、グループワークを通じて紙の雑誌と電子媒体による雑誌、それぞれの特徴について検証し、電子媒体による新しい形態の雑誌のあり方も含めた今後の雑誌文化のありかたについて考察していく。実際に、編集や出版に携わっている特別講師を招いて、雑誌文化の現状について具体的に講義をしてもらう予定である。

内容

1. 雑誌とその周辺の文化に関する基礎講座
2. 雑誌文化の歴史（1）戦前編
3. 雑誌文化の歴史（2）戦後編
4. 雑誌文化の現状 特別講師による講義
5. 雑誌文化の研究（1）〔女性誌編〕
6. 雑誌文化の研究（2）〔女性誌編〕
7. 雑誌文化の研究（3）〔男性誌編〕
8. 雑誌文化の研究（4）〔男性誌編〕
9. 雑誌文化の研究（5）〔文化系編〕
10. 雑誌文化の研究（6）〔情報誌編〕
11. 雑誌文化の研究（7）〔文芸誌編〕
12. 雑誌文化の研究（8）〔電子メディア編〕
13. 雑誌文化の研究（9）比較と検討
14. 今後、雑誌文化はどのように展開していくのか？
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

* 必要に応じて、授業内で紹介し、プリントなどを配布します。

科目名	マガジン制作ワークショップ（発展）		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「新人物往来社」による「『彩の国』を抱きしめて」

江戸・東京に近かったため強烈な地元意識が育たなかったといわれる埼玉は、実際は、たおやかな自然と歴史と人に恵まれた、文字通り美しい「彩の国」である。

そして今、東日本大震災を機に、この地を終の棲家と定めた新住民も、墳墓の地を愛して生きる人々と「彩の国」の誇りを共有しようとしている。

新しい「ふるさと愛」を育み、東京と違う輝きを放つためにこそ、埼玉の本当の価値を今こそ見直そうという思いを込めながら、女性にも熱い視線を向けた「埼玉学」である。

キーワードは、さきたま古墳群、武蔵武士、荻野吟子、秩父夜祭、そして のぼうの城…。新人物往来社で発刊後、たちまち6刷を記録した『埼玉県謎解き散歩』の共著者らが交代で演壇に立ち、ダサイタマなどおとしめられたマイナスイメージを払い去り、「埼玉」の正しい評価、懐の深さを受講者に語っていただく「学び」を展開する。

最初の講義の様子や、複数の講師にに対する講義終了後のインタビューが「ジェイコムさいたま」(CATV)で放映される予定である。

内容

1	開講にあたって(新人物往来社社長挨拶): 埼玉県のと昔「『ダサイタマ』から『彩の国へ』
2	さきたま古墳群と国宝「辛亥銘鉄剣」の謎を探る「165文字が語るヤマトと埼玉」
3	埼玉の女性史「源頼朝の乳母・比企禅尼とは、どんな女性だったのか」
4	三富・野火止用水の成り立ちと雑木林「平林寺と三富新田と野火止用水の地を歩く」
5	埼玉の和紙「小川和紙(細川紙)の過去と現在」
6	埼玉の女性史「我が国初の公許女医・荻野吟子の生涯をたどる」
7	鎌倉幕府を支えた武蔵武士たち「畠山重忠、熊谷直実、比企能員らの活躍」
8	埼玉の鉄道「過去に存在した幻の鉄道から現在の鉄道まで 埼玉の交通事情」
9	国指定史跡「吉見百穴」の出現を考える「横穴墓伝来の背景とは?」
10	埼玉の城と合戦「『のぼうの城』だけじゃない埼玉の城と合戦の歴史」
11	母なる川・荒川「荒川の特徴と治水史を通し、埼玉県歩みをたどる」
12	埼玉の文学「小説『天の園』『大地の園』を書いた打木村治の作品と生涯をたどる」
13	埼玉の農業「深谷のネギ、秩父のぶどう、川越のイモ…」
14	埼玉の祭り「それぞれに意味が込められた四季折々の祭り」
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：『埼玉県謎解き散歩』（新人物往来社）

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人々の関心はマスコミ4媒体(新聞、雑誌、ラジオ、テレビ)から驚異的な普及でその影響力を伸ばすインターネットに移り、仕事や研究、私生活を取り巻くメディア環境は一変した。

しかし「情報」の重要度が高まっているにもかかわらず、個々の情報を見てみると、まさに玉石混交である。そうした現代を生きる我々は混沌とした情報社会の中で真に必要な情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、メディア企業だけでなく、我々個人にも情報発信が可能になった現実を踏まえ、情報の発信から受信と(再)利用の過程で、企業も個人も守り、気をつけなければならないルール=情報倫理について考える。

内容

授業計画

- 1) 現代社会と情報
- 2) 情報社会の特徴と情報の信ぴょう性
- 3) 情報公開と個人情報の保護
- 4) 監視カメラと人権/プライバシー *番組視聴
- 5) インターネットと人権
- 6) 表現の自由と制約
- 7) 名誉毀損/プライバシーの侵害と保護
- 8) テレビ番組基準
- 9) 報道被害と救済
- 10) 報道番組とネット *番組視聴
- 11) 匿名発表&匿名報道と無責任社会
- 12) 少年犯罪&精神障害者事件と報道
- 13) 情報源の秘匿
- 14) 編集権と期待権
- 15) まとめ

評価

期末レポート60点+ミニレポート40点=100点 60点以上が合格

*ミニレポートとは、毎回の授業終了前の約10分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクションペーパーである。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

関連資料は毎回の授業時に配布する。参考図書は随時紹介する。

科目名	漫画論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

戦後日本の代表的なポピュラー文化として、マンガとアニメーションは相互に影響を与え合いながら発展してきました。その結果、マンガやアニメは、「ソフト・パワー」として現在日本の産業を支える重要なコンテンツになっています。日本ではどうして、こんなにもマンガとアニメが普及したのでしょうか？ その歴史的な文脈を探りながら、わたしたちの社会や文化、日常生活の中でマンガとアニメが果たしてきた役割を、文化社会学的な視点から考察します。そのために、広く社会学、歴史学、文化研究、メディア論、表象論、文学理論など、分析のために役立つ理論や方法論を毎週の講義を通じて紹介していきます。最終的には、受講者が実際にレポートなどを作成する際に使えるような知識を学んでもらうことが本講義の目的となります。また、製作現場が実際にはどのように展開されているかを学んでもらうために、実際にマンガやアニメーションの製作に関わっている特別講師の方を招いて特別講義をしてもらうことになっています。

内容

1. ポピュラー文化としてマンガとアニメをどう考察するか
2. 戦後マンガの歴史(1) 手塚治虫が開いた世界
3. 戦後マンガの歴史(2) 少年マンガの世界
4. 戦後マンガの歴史(3) 少女マンガの世界
5. マンガと表象(1) ジェンダーの視点から
6. マンガと表象(2) 恋愛の視点から
7. マンガとその製作現場 特別講師の授業
8. 戦後アニメの歴史(1) テレビアニメの世界
9. 戦後アニメの歴史(2) SFアニメの世界
10. 戦後アニメの歴史(3) アニメ映画の世界
11. アニメと表象(1) ハイブリディティの視点から
12. アニメと表象(2) テクノロジーの視点から
13. アニメとその製作現場 特別講師の授業
14. 「クール・ジャパン」現象を再検討する
15. まとめ

特別講師の講義日程によって、順番については多少の変更があります。

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

津堅信之・アニメーション学入門・平凡社新書

推薦書

大塚英志 + ササキバラゴウ・教養としての まんが・アニメ

米沢嘉博・戦後少女マンガ史 ・ちくま文庫

その他、必要に応じて、授業の中でテキストを指示し、プリントを配布します。

科目名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目分類 マスメディアコースメディア理論群選択必修

概要: 「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないのでしょうか。また、今や日本のマンガやアニメは世界中で人気があるのはよくご存じだと思います。グローバル化の進展に伴い、こうした国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集团的帰属意識などです。後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

目標: 現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

内容

1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか
7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

評価

中間テスト（４０％）および期末レポート（６０％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】ジョン・トムリンソン『文化帝国主義』青土社 361.6/T

田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』龍星出版、1996年

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

科目名	グローバルジャーナリズム		
担当教員名	鈴木 弘貴、込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格:コミュニケーション学科の学科専門科目で、マスメディアコースの「メディア理論群」の中の選択必修科目

科目の概要:「グローバル化」は、社会のあらゆる面において、現に進行している現象であるが、本講義ではその中でも特に、経済とメディア(ニュース)の二つの側面にポイントを絞って授業を進めていく。「経済面」は「グローバル化」と呼ばれる現象が最も早く現われ、また、その他の分野の「グローバル化」にも大きな影響を及ぼしている分野である。具体的には、自由貿易協定、多国籍企業、金融の国際化などに表れている。このような具体例を挙げながら、グローバル化がもたらす功罪について学んでいくことにする。「メディア(ニュース)」の「グローバル化」、すなわち「グローバル・ジャーナリズム」は、経済のみならず、文化・社会のグローバル化の動きと密接にかかわる現象である。このため、「グローバル・ジャーナリズム」の現状について学び、考えることは、「グローバル化と社会」を総合的にとらえる視点を得ることになる。具体的には、CNNインターナショナルやBBCワールドニュースなどの事例から、グローバルなニュースとは何か、それは必要なのか、その問題点は何か、などを学んでいく。

学修目標:1.「グローバル化」の意味と、それが現代社会でなぜ進行しているのか、そしてそのインパクトは何かを理解する。2.「経済におけるグローバル化」を巡る諸問題を理解する。3.「社会におけるグローバル化」の一例としての「グローバル・ジャーナリズム」を巡る諸問題を理解する。

内容

1	グローバル化とは何か
2	グローバル化がもたらす経済への影響
3	インターネットとグローバル化
4	グローバルな経済危機
5	グローバルと通貨危機
6	経済危機と経済政策
7	グローバル危機と国際協調
8	中間まとめ
9	ジャーナリズムと市民社会
10	グローバルなニュースの収集
11	グローバルなニュースの伝達
12	グローバルなニュースの選択と解釈
13	グローバル・ジャーナリズムの現状
14	グローバル・ジャーナリズムの問題点と可能性
15	まとめ

評価

中間レポートあるいはテスト（50%）および期末レポートあるいはテスト（50%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）

科目名	放送ジャーナリズム		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

テレビやラジオの放送制度や放送番組を中心に研究する。具体的には実際の政治や事件、戦争などがどのように報道されているかを検証する。この意味で「時事問題を扱う他の科目と合わせて履修することを薦める。3年、4年次の卒論執筆の基礎にもなる。

マスメディアは世界、国家、社会を映す鏡である。しかし、鏡が曇っていてはそれらを正しく映し出すことはできない。特にテレビは今や、人々の生活や仕事と切っても切り離せない社会装置でありながら、「やらせ」や「捏造」、「政治(家)との関係」など様々な課題を抱えている。真に役に立ち、必要とされるテレビとはどのようなテレビなのか、という視点でテレビを考える科目である。

ただ漫然とテレビを見るのではなく、「考えながら見る」「見た後で考える」ことが重要である。とにかく人気のある番組、質の高い番組をたくさん見てほしい。そして、「もし自分がディレクターだったら」「もし、レポーターだったら」どうしよう!と考えると、もっとテレビが身近になり、テレビが伝えることをよりよく、より正確に、より楽しく、そして、より批判的にとらえることができるようになる。

内容

- 1) ガイダンス 「放送」とは何?、「(放送)ジャーナリズムって何?」
- 2) 放送にはルールがある タイタニック号遭難の教訓、届かなければ放送じゃない、「あまねく論」
- 3) 放送と通信の融合 MSNBC の衝撃、デジタル技術が可能にしたもの
- 4) テレビの影響力 メディアスクラムと放送被害、BPO
- 5) 放送番組基準 時代/世相とともに変わる番組基準、NHK/民放比較
- 6) 放送と政治 多様性の確保と所有規制問題
- 7) 放送と政治 ケネディ対ニクソンTV討論から“劇場型報道” * 番組視聴
- 8) 放送と政治 ベトナム戦争とテレビ * 番組視聴
- 9) 放送と政治 政治権力/軍上層部と兵士 * 番組視聴
- 10) 戦争報道 ベトナム戦争の前と後
- 11) 戦争報道 BBC戦争報道ガイドライン、米従軍取材ガイドライン、自衛隊取材要綱(イラク)
- 12) 戦争報道 9・11同時多発テロとイラク・アフガン戦争、“ロボット戦争” * 番組視聴
- 13) 災害報道 被害報道から防災報道へ、国境を越える災害と国際放送
- 14) 視聴率問題 視聴率調査、視聴率至上主義の弊害、誰のためのテレビか
- 15) まとめ

評価

ミニレポート = 40点 (授業の理解度、受講生の問題意識、日常のテレビ視聴を通しての疑問点等をみるリアクションペーパー)

期末試験 = 60点

計100点 両方合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使わない。参考図書は授業中に随時紹介する。

科目名	活字ジャーナリズム		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格:

コミュニケーション学科マスメディアコースの専門科目の中のメディア理論群に属する選択必修科目である。

科目の概要: 毎日新聞社の社会部、政治部、生活家庭部、科学環境部、学芸部、情報編成総センター、校閲、デジタルメディア局、英字新聞、事業、書籍編集など様々な部署で活躍している女性記者によるオムニバス講義。異動等により一部変更の可能性がある。

学修目標: 毎日新聞社の様々な分野、領域で活躍する女性記者の日々の体験に基づいた講義を聴いて、新聞社の社会的使命を認識し、学生自身が自分の将来について考え、社会人になるための心構えなどを学ぶ。

内容

全体のテーマ:

マスメディアの担い手: 活躍する女性記者たち

主な内容(異動等により一部変更の可能性あり)

- ・新聞記者の仕事(ガイダンス)(編集委員)
- ・新聞ができるまで(情報編成総センター記者)
- ・東日本大震災の現場取材(社会部記者)
- ・校閲記者の一日(校閲記者)
- ・毎日jpの魅力(デジタルメディア局記者)
- ・女性が働き続けるために(生活家庭部記者)
- ・企業としての新聞と読者(顧客サービス開発本部委員)
- ・民主党政権と社会福祉政策(政治部記者)
- ・学芸記者の仕事(学芸部編集委員)
- ・英文記事の現場(毎日ウイークリー編集長)
- ・夕刊は朝刊より面白い(夕刊編集部デスク)
- ・新聞社の事業とは(事業本部事業部員)
- ・女性カメラマンの日々(写真部女性カメラマン)
- ・書籍編集者の仕事(図書編集部員)
- ・新聞社の有料デジタル戦略(新メディア編集部デスク)
- ・震災と原発(科学環境部記者)

評価

レポート 80%、各回のリアクションペーパー・ワークシートの内容20%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜提示する

科目名	エンターテイメント映像論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、グローバル化が進むにつれて世界中で視聴されるようになったハリウッド映画のいくつかの作品を視聴し、その面白さの根源がどこにあるのか、また世界中で見られる映像としてそこで描かれている事物がどのような意味を持ちうるのか、といった点についてグループワークを中心に分析していく。授業で扱うのは、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』、『スター・ウォーズ』、『タイタニック』、『ターミネーター2』など、誰もが一度は見たことがある(だろう)作品である。授業内では、実際に映画を視聴し、映画理論に関する論文を輪読し、「ハリウッド脚本術」と呼ばれるその独特の脚本構成の分析や映像表現技術の検討を通じて、エンターテイメント性とはなにか、またその概念が孕む問題点について考えていく。

内容

1. エンターテイメントメディアとは何か?
2. エンターテイメントメディアの構造(1)ストーリーと脚本
3. エンターテイメントメディアの構造(2)キャラクター
4. エンターテイメントメディアの構造(3)フレームと編集
5. エンターテイメントメディアの構造(4)イデオロギー
6. エンターテイメントメディアの分析(1)
7. エンターテイメントメディアの分析(2)
8. エンターテイメントメディアの分析(3)
9. エンターテイメントメディアの分析(4)
10. エンターテイメントメディアの分析(5)
11. エンターテイメントメディアの分析(6)
12. エンターテイメントメディアと映画理論(1)
13. エンターテイメントメディアと映画理論(2)
14. エンターテイメントメディアと映画理論(3)
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%で総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

藤井仁子『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院

ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー1』フィルムアート社

ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー2』フィルムアート社

純丘曜彰『エンターテイメント映画の文法：ヒットを約束する脚本からカメラワークまで』フィルムアート社

ニール・D.ヒックス『ハリウッド脚本術：プロになるためのワークショップ101』 フィルムアート社

*必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	サイバージャーナリズム		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。高度情報社会といわれる現代社会では、インターネットに関する正しい知識と社会における役割を理解することが重要とされており、それに対応した科目である。

科目の概要

大きな柱として、次の2つの内容で構成する。

- ・インターネットの概要と仕組の理解

インターネットに関する技術的な基本となる知識・理解を中心に構成する。インターネット検定 .com Master BASIC 相当の内容とする。

- ・インターネットが社会に与える影響

インターネットを取り巻く社会環境の変化や新しい技術が世の中に展開していく上での、社会的諸問題についても議論及び考察を行い、我々が認識すべき課題について明らかにする。

学修目標

- ・インターネットの概要と仕組み、利活用方法について理解する。
- ・インターネットのコンテンツやサービスの正しい知識を身につけ、社会との関わりを考察できる。
- ・高度情報社会での変容に的確に対応できる能力を身につける。

内容

1	オリエンテーション
2	インターネットの概要と歴史
3	インターネットの構成
4	情報機器の活用とインターネットへの接続
5	インターネットの活用
6	インターネット社会の安全性・モラル
7	データで見るインターネット
8	情報行動の意味と捉え方
9	情報行動と情報社会とのつながり
10	インターネットや携帯電話の利用と効果
11	SNSとオンラインコミュニティーの生成
12	インターネットに見る事件
13	情報倫理の金本
14	インターネット社会と流動性
15	まとめ

評価

レポート50%、試験50%により評価をおこない、60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指定する。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーション学科の専門選択科目として、人間のコミュニケーション行動に興味をもつ学生を対象とする。コミュニケーション行動を科学的に理解する基礎を身につける。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

1. コミュニケーション行動と心理学
2. 対人コミュニケーションの成立
3. 対人コミュニケーションの特徴
4. 言語とコミュニケーション
5. 言語コミュニケーションの特質
6. 非言語メディアによるコミュニケーション
7. 自己開示の概念と領域
8. 自己開示が果たす機能
9. 自己開示を規定する要因
10. 自己呈示と社会的スキル
11. 防衛的自己呈示と主張的自己提示
12. 他者を動かすコミュニケーション(要請承諾・説得)
13. 説得的コミュニケーションと態度変容
14. 要請技法と心理的效果
15. まとめ

評価

授業内の小課題20点、期末テスト80点、の計100点満点により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	マス・コミュニケーションの社会心理学		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この講義は、私たちのコミュニケーションを操る脳についてのものです。私たちが誰かに自分の気持ちを伝えるとき、相手に「伝える内容」ばかりを考えますが、本当に何が伝わっているのか不明な部分が多いのです。つまり、(1) 言葉に込められた私たちの感情の情報でしょうか。(2) それとも発話方法が伝える感情でしょうか。(3) さらにには私たちの顔に現れた感情でしょうか。(2)(3)は私たちが意図しないでも伝わってしまう情報です。

私たちが、何かを想像し、行動し、結果を得るとき、いったい脳の中で何が起きているのでしょうか。言語だけではなく、視覚、聴覚、触覚など様々な角度から脳をとらえて行こうと思う。なるべく平易な授業を心がけますが、しっかり聴いて下さい。

内容

前半は脳とコミュニケーションの基本的な知識。、後半はその応用例をみていく。

1. 脳にとってコミュニケーションとは何か 導入
2. 脳と心はどう進化し、成長するか
3. 視覚と聴覚の心理
4. 脳と味覚、嗅覚、触覚とは何か
5. 脳の可逆性と成長
- 6.感情はどう生まれるか
7. 言語はどう組み込まれるか
8. 脳はどこまで騙せるか(微表情の分析)
9. 脳と性格：人によって判断が違うのはなぜか。
- 10.脳と世界：広告や記事
- 11.脳に男女の脳の差はあるのか
- 12.知能と記憶と先入観
- 13.「私」はどこにいるのか。
14. 複雑な社会をメディアはいかに映し出すか？
- 15.まとめ

評価

リアクションペーパーと課題レポート

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：森田勝之 『0歳からそだてる脳と心』創元社

科目名	メディア文化研究		
担当教員名	加藤 徹郎		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

テレビドラマを対象に文学理論や映像論を応用したサブカルチャー研究

本講義ではテレビドラマを題材にし、映像の表現様式を、その物語構造を読み解くことで学んでいきます。映画やテレビドラマというのは、語り手が物語を語ると同時に、それを映像によって示すことで成立しているといえます。したがって講義では先ず、文学理論を参照しながら物語の構造を学び、次にそうした物語構造を効果的に映し出す映像手法を学みます。そして最後に、これらのビジュアル・コンテンツが、私達の社会/文化的な規範と、どのように影響しあっているのかについて考えていきます。

社会学あるいはメディア論的知見から、映像作品を批判的に読み解けるようになること。

内容

毎回、映像資料を使用するので、1単元を2回に分けて講義していきます。

分析事例は身近な素材なだけに親しみやすいと思いますが、実際の分析における方法論や概念は難解なものが多いです。しっかり復習するよう心がけてください。

予定は変更する場合があります。

1	第1回 オリエンテーション
2	第2回 テレビ・テキストの進行 統辞構造
3	第3回 テレビ・テキストの進行 統辞構造
4	第4回 テレビ・テキストの登場人物 範列構造
5	第5回 テレビ・テキストの登場人物 範列構造
6	第6回 テレビ・テキストの映像表現
7	第7回 テレビ・テキストの映像表現
8	第8回 テレビ・テキストにおける語りと視点
9	第9回 テレビ・テキストにおける語りと視点
10	第10回 テレビ・テキストの時間構造
11	第11回 テレビ・テキストの時間構造
12	第12回 相互テキスト性
13	第13回 テキストの責任/視聴者の責任 相互テキスト性
14	第14回 期末試験
15	第15回 まとめ / フィードバック

評価

【レポート40% , 期末テスト50% , 出席点10% 60%以上の得点取得で単位認定】

レポートは、第5回までの講義で学んだ分析手法で課題を作成してもらいます(1800~2000字程度)。また期末試験の範囲は、第2回から第13回までの講義内容とします。

【注意事項】

・映像資料をもとに講義を進めていく関係上、遅刻・私語は厳禁とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 藤田真文 『ギフト、再配達 テレビ・テキスト分析入門』 せりか書房 2006

【参考書】 藤田真文・岡井崇之 編 『プロセスの見えるメディア分析入門』 世界思想社 2009

科目名	ドキュメンタリー映像論		
担当教員名	小河原 正己		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

20世紀は、「映像の世紀」と言われている。その前半世紀は「映画」が大きな柱となり、後半世紀は「テレビ」がその中核となった。そして、そのいずれの時代において、多くの先駆者たちが、ドキュメンタリー的な映像表現の手法を駆使し、数々のすぐれた記録や作品を残してきた。

そこで、この科目では、これら過去の名作を視聴しながら、ドキュメンタリーとは何か 映像を通してものを見るときはということか ドキュメンタリーをどう読みとるか、という3つの切り口から、ドキュメンタリーにおける映像表現とは何かを考察する。

学習目標は、次の3点だが、何より大事なことは「見る」ことであり、これらの作品から、君たちが「何を見てとるか」である。

100年を越えるドキュメンタリーの歩みをたどり、その先駆者たちの映像表現の思想と手法を理解する。

講師が制作に関わっている番組を例に、映像表現や番組制作の体験的、実践的な方法論を理解する。

ドキュメンタリーにおける演出やメディア・リテラシーについて理解を深めるとともに、ドキュメンタリーの今後の可能性について理解する。

内容

1	「映像の世紀」・映画の登場～シネマの発明・リュミエール兄弟(フランス)
2	ドキュメンタリー映画制作の先駆者(1)～ドキュメンタリーの父・フラハティ(アメリカ)
3	ドキュメンタリー映画制作の先駆者(2)～近代映画の父・D.W.グリフィス(アメリカ)
4	ドキュメンタリー映画手法の確立(1)～モンタージュ理論・エイゼンシュテイン(ロシア)
5	ドキュメンタリー映画手法の確立(2)～映像美の追及者・リーフェンシュタール(ドイツ)
6	ドキュメンタリー映画理論の確立～社会派映像論・J.グリアソンとP.ローサ(イギリス)
7	ドキュメンタリー映画日本の先駆者～戦う映画監督・亀井文夫
8	「映像の世紀」・テレビの登場～テレビ最初期のフィルム・ドキュメンタリー
9	ドキュメンタリーは、「音」をどう取り込んできたか～フィルムからビデオへ
10	ビデオは、テレビ・ドキュメンタリーをどう変えたか(1)～凝視するカメラ
11	テレビは、「ヒロシマ」をどう記録したか(1)～空白の記録
12	テレビは、「ヒロシマ」をどう記録したか(2)～爆心地の記録
13	ビデオは、テレビ・ドキュメンタリーをどう変えたか(2)～時代と格闘するカメラ
14	デジタル・メディア時代、ドキュメンタリーをどう見るか
15	デジタル・メディア時代、ドキュメンタリーはどうなるか

評価

各回の小レポート(60%)、期末のレポート(40%)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】

ポール・ローサ著「ドキュメンタリー映画」（1936年）、エリック・バーナウ著「世界ドキュメンタリー史」（1974年）

【推薦書】

吉田直哉著「映像とは何だろうか～テレビ制作者の挑戦」（岩波新書、2003年刊、699/Y）NHK出版編「ヒロシマはどう記録されたか」（NHK出版、2003年刊、210.75/H）、今野勉他著「お前はただの現在にすぎない」（朝日文庫、2008年刊）

科目名	メディア広告論		
担当教員名	木村 政司		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業イメージ、ブランドイメージ、メディア戦略を、益々変容する広告表現とその手法に学ぶことで、これからの人や社会に対してどんな価値を提供でき、影響を与えることができるのかを学ぶ。また、ここでは特にデザインのチカラが発想と思考、ライフコンセプトを他領域の知とセンスよく融合することによって提案できる可能性を掴む。

今までの常識が覆される新しい時代の広告の役割、メディアの種類、マーケティングコミュニケーションの基本戦略を理解し、広告表現とデザインの具体的な手法を視覚的に体験してみる。

毎回配布される画像資料や解説シートを確認しながら講義を進行し、ノートを取り、リテラシーを深める。出題された課題を次の講義までに仕上げ、学習効果を確認していく。

1. 自らを知るためのデザインを体験する。
2. 広告の基礎と役割を理解する。
3. 表現手法としてのコミュニケーションデザインを理解する。
4. 知的、グッドセンス、お洒落をデザインすることで影響を与える。
5. 自分を戦略的にデザインする。

内容

- 01 セルフプロモーション&プレゼンテーション 自分の未来をデザインする
- 02 広告にとってデザインは如何に機能しているのか? 私の好きな広告デザイン
- 03 広告の役割と種類を理解する 広告を分類する
- 04 広告表現のための仕掛け 広告表現に基準と常識は存在しない!
- 05 コミュニケーション戦略からデザイン表現戦略へ いい広告、わるい広告、つながる広告
- 06 メディアの特性を考える デザインの発想がメディアの役割を変える
- 07 販売促進のためのデザイン ヒットをつくるためのデザイン戦略を立案する
- 08 言葉とヴィジュアルの出会い 言葉のチカラを掴む
- 09 ブランディング ブランドそのものの広告力から文化を創造する
- 10 売るためのデザインから考え方に変化をもたらすデザイン ネット社会の未来を創造する
- 11 私を表現するためにデザインする マイ・アドを制作し自らのブレイクスルーを試みる
- 12 キャッチコピーとボディ コピー、写真を撮る
- 13 広告の未来 デザインが広告の未来をどう変えるのか?
- 14 マイ・アドのプレゼンテーション マイ・アドの鑑賞・批評会
- 15 まとめ

評価

各回の課題レポート(50%) 広告表現課題提出と質(40%) レポート(10%)により評価し、60点以上を合格とす

る。また、三分の二以上の出席をすることで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しない（配布するプリントのみ使用）

科目名	メディア産業論		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディア4媒体と新領域メディアに至るメディアビジネスを概観し、コンテンツの重要性を押さえながら、今後を展望する。

科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境さとともに、インターネット、電子書籍、携帯電話等の展開を学ぶ。

学修の目標

- 1 日々、現代人が水のように接するメディアのビジネス構造を理解し、ビジネス面からメディアリテラシーを高める。
- 2 メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を志向する学生のモチベーションをアップさせる。

内容

1	ガイダンス(ネット社会における新聞の明日から説き起こす)
2	総論 メディアの変貌の中のロマンとソロバン
3	全国紙ビジネスの今
4	通信社と地方紙
5	編集者と出版界
6	電子書籍と紙の本
7	本ができるまでと本の出版
8	テレビ概論
9	テレビの番組制作とビジネス
10	ラジオのラジコという試み
11	業界専門紙の生き方
12	広告ビジネス概観
13	広告代理店の今
14	インターネットビジネス
15	まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で、60点以上を合格とします。合格点に満たない場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	映像女性論（基礎）		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

本講義では、イギリスおよびその関連諸地域で製作されたいくつかの映画を視聴し、映像を通じた文化の表現とその広がりについて分析していく。だれもが見て楽しむことのできる映画には、実は、社会問題や文化と政治に関係するトピックスがたくさん隠されている。特に、イギリスとその関連諸地域で製作された映画には、「ジェンダー/セクシュアリティ」、「ファッションと音楽」、「階級と教育」、「帝国主義と人種、ナショナリズム」、「食文化とライフスタイル」、などの様々な論点を読み取ることができる。個々のテーマが映像の中でどのように表現され、視聴する私たちにどのような知識や争点を与えてくれるか、という点に着目しながら、具体的に映像を分析・理解していく。

内容

1. イギリス映画の歴史とその特徴
2. 階級と教育（1）
3. 階級と教育（2）
4. ファッションと音楽（1）
5. ファッションと音楽（2）
6. ジェンダー/セクシュアリティ（1）
7. ジェンダー/セクシュアリティ（2）
8. ジェンダー/セクシュアリティ（3）
9. 食文化とライフスタイル（1）
10. 食文化とライフスタイル（2）
11. 帝国主義と人種、ナショナリズム（1）
12. 帝国主義と人種、ナショナリズム（2）
13. 帝国主義と人種、ナショナリズム（3）
14. 映像文化とイデオロギー
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子 『映画でわかるイギリス文化入門』 松柏社

狩野良規 『スクリーンの中に英国が見える』 国書刊行会

吉田徹夫、村里好俊、高瀬文広 『映画で楽しむイギリスの歴史』 金星堂

* 必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	演劇論A		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では、能や狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃などの伝統芸能を取り上げ、現代の演劇にどう継承されているかを明らかにし、外国の演劇との比較により日本の演劇の独自性についても検証します。

特に注目するのは歌舞伎です。現代のメディアと同様に社会現象を敏感に反映し、小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎の検証は、大衆演劇の意義や鑑賞者が演劇に求めた要素の解明の手がかりになります。また神の祭りを起源とするため、信仰と演劇という不可分の問題も検討できると考えます。

科目の概要

主に歌舞伎を取り上げ能や人形浄瑠璃、海外の演劇との比較を交え本質を明らかにします。宝塚やミュージカル、アニメーションにも対象を広げエンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標

- (1)日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2)絵画資料を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け絵画の造詣も深めます。
- (3)ビデオ観賞を通じて、役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

内容

文献、脚本研究のほか、ビデオ観賞、絵画資料からの検証をまじえ視覚的に演劇をとらえて学びます。絵画資料については、主に浮世絵を取り上げます。2008年には浮世絵の検証をもとに元禄時代の上方の舞台復元(プロジェクトには藤澤も参加)が行われ、また歌舞伎の衣装の考証にも用いられるなど浮世絵は資料的な価値が高く、歌舞伎研究には不可欠な資料です。

以下のスケジュールで授業を進めます。

ガイダンス・日本の伝統芸能の流れ

能・狂言の歴史と魅力

歌舞伎の舞台構造を知る～能舞台の模倣時代から現代のコクーン歌舞伎まで

歌舞伎を創る 元禄上方和事復活上演までの軌跡・衣装と浮世絵

市川團十郎と江戸の信仰

歌舞伎と人形浄瑠璃 「義経千本桜」の狐忠信

歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語

歌舞伎と広告 「外郎売」など

浮世絵に見る歌舞伎 歌舞伎役者の人気を知る

歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演

歌舞伎と海外の演劇(1)京劇(中国)・パンソリ(韓国)等アジアの芸能

歌舞伎と海外の演劇（２）シェイクスピアと蜷川幸雄

海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」

現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台

現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」と日本文化

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。【参考書】開講後に指示。

授業時には毎回プリントを配布します。

科目名	演劇論 B		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース表現文化群のうち、選択必修科目である。本科目では、現代のアメリカを中心とした演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがる舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 舞台芸術という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げた演劇(舞台芸術)の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中での芸術のあり方を多角的に考察する。

内容

1	Introduction
2	アメリカ演劇のキャノン Tennessee Williams (1)
3	アメリカ演劇のキャノン Tennessee Williams (2)
4	アメリカ演劇のキャノン Arthur Miller (1)
5	アメリカ演劇のキャノン Arthur Miller (2)
6	キャノンへの挑戦 (1)
7	キャノンへの挑戦 (2)
8	キャノンへの挑戦 (3)
9	みんなのためのパフォーマンス:Circus Amok (1)
10	みんなのためのパフォーマンス:Circus Amok (2)
11	バレエとモダンダンス (1)
12	バレエとモダンダンス (2)
13	パフォーマンス・アート (1)
14	パフォーマンス・アート (2)
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	民俗歌謡の世界		
担当教員名	平野 多恵		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

仏教はインドから中国を経て日本に伝わった。仏教は日本に根付き、日本の文化や文学と深く影響を与えている。本授業では、仏教思想の基本を学んだ上で、仏教の影響を受けた日本の文学や歌謡を読み解いていく。これによって、日本の文学や歌謡における仏教の影響を具体的に学び、日本における仏教文学・仏教歌謡について理解を深める。

内容

- 1 仏教とは？
- 2 日常語でたどる仏教。仏教の伝播
- 3 仏教の伝播
- 4 釈尊の教え
- 5 釈尊の教え 、インド仏教の展開
- 6 インド仏教の展開 、仏像でたどる釈尊の一生
- 6 日本文学で読む釈尊の伝記 『三国伝記』『今昔物語集』
- 7 日本文学で読む釈尊の伝記 釈迦八相...降兜率、託胎
- 8 日本文学で読む釈尊の伝記 『梁塵秘抄』の仏伝歌謡、託胎、出胎
- 9 日本文学で読む釈尊の伝記 出家1(四門出遊)
- 10 日本文学で読む釈尊の伝記 出家2
- 11 日本語における表記・文体の変遷(今昔物語集の文体)
- 12 日本文学で読む釈尊の伝記 降魔
- 13 日本文学で読む釈尊の伝記 初転法輪、涅槃
- 14 映画『釈迦』鑑賞
- 15 まとめ

評価

平常の受講態度(10点)、授業中に提出するリアクションペーパー(40点)、学期末試験(50点)により評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜プリントを用意します。

科目名	日本語学		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で? どうして? を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション(授業の方法と評価の仕方)
- 第2回 言語とは何?
- 第3回 日本語っていつからはじまったの?
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語(音声記号を書けるようにしよう!)
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む(古今集の恋の歌を読む)
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	日本語学		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング(学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」)による参加型授業です。母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で? どうして? を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション(授業の方法と評価の仕方)
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します

科目名	ことばの心的メカニズム A		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「ことばの心的メカニズムC」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべてを履修してください。

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学びます。

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得(英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得(英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得(形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 期末試験: 70%
- (2) 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います): 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』, 郡司隆男・西垣内泰介編, 研究社, 2800円. 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムB		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース表現文化群Iの専門科目で、選択必修科目。なお、「ことばの心的メカニズムD」では、より時間の長い発音(音連続・リズム・イントネーション)に注目して、英語での朗読やナレーションへと応用します。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B・D」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

母語の個々の音(母音・子音・半母音)の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語を中心として、日本語との比較により発音のしくみを客観的に分析し、個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、必要に応じて、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

日本人にとって混同しやすい英語の発音(rとlなど)の聞き分けができ、また、自分でも発音し分けられるようになるには、ネイティブスピーカーの発音をただ単に聞き流すだけでは不十分な場合が多いのです。まず口の各部分の動きなどを頭で理解してから、自分で聞き分けができなくても発音の区別をつけて練習していくと、だんだんと聞き分けられるようになります。発音分析には頭の体操の要素もありますが、実際に声を出して実技に取り組んでください。

1	I. 現代英語の標準発音 II. 音声器官と音の分類 IX. 綴り字と発音
2	III. 母音-短母音 その1 (母音の3つの特徴とKIT, DRESS, FOOT)
3	III. 母音-短母音 その2 (TRAP, LOTの米音, STRUTの3母音間の区別)
4	III. 母音-長母音 その1 (FLEECE, GOOSEと短母音との音色の区別)
5	III. 母音-長母音 その2 (PALM, THOUGHT, NURSE, BATHの英米音, CLOTHの英米音)
6	III. 母音-二重母音 (FACE, PRICE, CHOICE, MOUTH, GOATなど)
7	III. 母音-二重母音 (rの二重母音), 三重母音, 弱母音
8	IV. 子音-閉鎖音(有気音と、閉鎖音の前にsがある場合の無気音)
9	IV. 子音-摩擦音 その1 (唇歯音と歯音と歯茎音)
10	IV. 子音-摩擦音 その2 (硬口蓋歯茎音と声門音)
11	IV. 子音-破擦音と鼻音
12	IV. 子音-流音と半母音
13	発音記号に親しむ(1) 英文の発音表記練習
14	発音記号に親しむ(2) 英文朗読への応用
15	まとめ

評価

期末試験（聞き分けテストや発音記号の理解を含む）を60点、平常点（課題提出、小テスト等）を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 竹林滋 / 斎藤弘子著（2008）、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。

科目名	ことばの心的メカニズムC		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語学の関連分野については「ことばの心的メカニズムA」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修してください。

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論(英語の単語の構造)、統語論(英語の文の構造)、意味論(意味の構造)を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学びます。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたいと考えています。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii)言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行います。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストがあります。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則(偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則(少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則(規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を実施します。

(1) 期末試験: 70%

(2) 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストをします): 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムD		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語)/中学校教諭一種免許状(英語)/マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース表現文化群Iの専門科目で、選択必修科目。この科目には、「ことばの心的メカニズムB(音声学基礎)」で扱う英語の個々の音(母音・子音・半母音)に関する知識が役に立ちますが、これは前提条件ではありません。個々の音の集まりを長い朗読やナレーション活動に発展させます。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B(音声学基礎)・D(音声学発展)」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

一般に、幼い子どもが言語を習得する際は、個々の音の正確な発音よりも、複数の音にわたって起こるリズムとイントネーション(韻律)の方を先に習得するといえます。しかし、外国語として英語を学ぶ者が、そのイントネーションを自然なものに近付けるには、いきなり勘にたよって「リズムよく真似」するよりは、英語のリズム・イントネーションの構造・体系・法則性のある程度頭で理解したうえで練習した方が効率がよいので、その手順で練習します。

内容

まず、プリントの会話練習を通して、教科書前半(第I - IV, IX章)の内容(母音・子音)の全体像をつかむようにする。その後、教科書後半(第V章以降)を扱う。

第2週には、英語の歌詞の中から、各自好きなものを選んで強弱に注意してジャズチャントの様に朗読して録音物を提出する。第14週には、説明的な文章または演説から好きな1節を選んで、英語らしいイントネーションで朗読して提出する。

1	【実践練習】: 母音と子音の違いが重要な道案内会話
2	【実践練習】: 歌詞などのジャズチャント風朗読(録音)
3	V. 音の連続 その1(音節)
4	【実践練習】: 音節のリズム(長短・強弱)と高低
5	V. 音の連続 その2(/str-/などの同一音節内の子音連続)
6	V. 音の連続 その3(単語間のリエゾンなど、音連続について)
7	V. 音の連続 その4(音脱落)
8	V. 音の連続 その5(同化などの音変化)
9	VI. アクセント その1(語、句、文のアクセント)
10	VI. アクセント その2(文の中の弱音節などについて)
11	VI. イントネーション その1(音調群と核音節)
12	VI. イントネーション その2(イントネーションの意味について)
13	VI. イントネーション その3(注意すべき英語イントネーションのパターン)
14	【実践練習】: 演説や散文の朗読(録音)
15	まとめ

評価

第2週の提出物を10点、第14週の提出物を20点、期末試験(音調群の核の聞きとりなどを含む)を35点、平常の授業参加点を35点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】竹林滋 / 斎藤弘子著 (2008)、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。（「英語音声学」でも教科書として使用します。）

【推薦書】Judy B. Gilbert著、_Clear Speech Student's Book with

Audio CD: Pronunciation and Listening Comprehension in

American English [Student Edition]3版 (2004)、Cambridge University Press . ISBN-13: 978-0521543545

科目名	英米文学史		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

内容

《英文学》

- (1) 英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- (2) 欽定英訳聖書と英文学
- (3) エリザベス朝演劇とシェイクスピア(人間の発見)
- (4) 18世紀・・・小説の始まり(写実と諷刺の精神)
- (5) ゴシックロマンスとジェーン・オースティン(非日常と日常)
- (6) ローマン派詩人(感情の解放)
- (7) ヴィクトリア朝の小説(ディケンズとブロンテ姉妹)
- (8) イギリス児童文学(ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター)
- (9) 世紀末文学(審美主義)
- (10) 20世紀「意識の流れ」の小説(ジョイスとウルフ)
- (11) 生命の哲学(ロレンスとフォースター)

《米文学》

- (12) 19世紀のピューリタニズムと小説(ホーソンとメルヴィル)
- (13) 20世紀初頭の自然主義文学(アメリカの悲劇)
- (14) 20年代の「失われた世代」(虚無と退廃の戦後文学)
- (15) 30年代の社会主義文学とその後(現代文明批判)

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	イギリス文学		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

近代英米小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代の新しいタイプの間像を今日的な観点から検討する。

内容

19、20世紀の英米小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる他の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな生き様、有りようを、時代背景と照らし合わせながら、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性に焦点をしばって、具体的な場面設定の中で捉える。その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日に生きる英知をさぐる。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回： シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回： ウィリアム・メークピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第5回： チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- 第6回： ナサニエル・ホーソーン『緋文字』
- 第7回： ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回： ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』
- 第9回： トマス・ハーディ『テス』
- 第10回： E・M・フォースター『ハワーズ・エンド』
- 第11回： D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回： D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回： ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回： マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』
- 第15回： マーガレット・ドラブル『礪臼』

評価

課題レポート60点、授業への参加状況40点の割合で評価をし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	アメリカ文学		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、マスメディアコース表現文化群 のなかの選択必修科目で、植民地時代から現代に至るまでのアメリカ文学の流れを、歴史的・社会的背景を踏まえつつ概観する。

この科目では、「小説」を中心に扱う。時代別に、主要な作家・作品を紹介しつつ、作品の今日的解釈に有効な批評理論(ジェンダー批評)なども適宜紹介していく。

文学は、現代社会の様々な問題を読み解く批評的なツールとなり得る。自分自身の関心や問題意識を持って授業に参加してほしい。学修目標は次の3点である。

1. アメリカ文学の概要(作家・作品)を理解する。
2. アメリカ文学史を、歴史的・社会的な文脈の中で意識する。
3. 様々な資料から、アメリカ文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	イントロダクション
2	植民地文学
3	アメリカ小説の誕生(1)
4	アメリカ小説の誕生(2)
5	アメリカ小説の誕生(3)
6	リアリズム文学の形成
7	女性作家の活躍
8	自然主義文学の時代
9	モダニズムの文学
10	ロスト・ジェネレーション (1)
11	ロスト・ジェネレーション (2)
12	現代のアメリカ文学 (1)
13	現代のアメリカ文学 (2)
14	現代のアメリカ文学 (3)
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	感性文化表現 A (手話)		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちはいろいろな方法で他者とコミュニケーションを取っていますが、聴覚に障害を持つ人たちは聴覚を利用したコミュニケーション手段が使えず、その方法は視覚を利用したものになります。この科目ではそれら視覚的なコミュニケーション手段について学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外の筆談、読唇、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などさまざまなコミュニケーション手段を体験的に学びます。

学修目標

手話技術に関してはNP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

またそれ以外のコミュニケーションについても、そのもの持つ特徴や利便性を考え、聴覚のみに限定しない、より豊かなコミュニケーション能力を身につけます。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字(ア行~サ行)
5	名前の表現
6	指文字(タ行~ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字(マ~ワ行)
9	写像的な表現
10	空間を利用した表現
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/J

科目名	感性文化表現 A (手話)		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちはいろいろな方法で他者とコミュニケーションを取っていますが、聴覚に障害を持つ人たちは聴覚を利用したコミュニケーション手段が使えず、その方法は視覚を利用したものになります。この科目ではそれら視覚的なコミュニケーション手段について学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外の筆談、読唇、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などさまざまなコミュニケーション手段を体験的に学びます。

学修目標

手話技術に関してはNP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

またそれ以外のコミュニケーションについても、そのもの持つ特徴や利便性を考え、聴覚のみに限定しない、より豊かなコミュニケーション能力を身につけます。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字(ア行~サ行)
5	名前の表現
6	指文字(タ行~ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字(マ~ワ行)
9	写像的な表現
10	空間を利用した表現
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/J

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。また、コミュニティダンス（地域の人々が健康のために行っているダンス）を広め、指導にあたるインストラクター（ダンスムーブメント（ダンス的運動）インストラクターライセンスの受験資格）を目指す人のための授業内容をおりこむ。継続により、さらに能力を高めることができることや、さまざまなジャンルに渡り、新たな成果を得ることから、繰り返し可能科目となっている。

科目の概要：この授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解するとともに、ジャンルにこだわらない実践を通してリズム感や体力向上を目指し、身体を感じ、心から楽しみ、実感を持って自分の感性につなげていくことをねらいとする。始めて受講する学生は、基礎的な部分から動けるようにし、回数を重ねて受講する学生は、前学期よりも更に高度な技術や発想に挑戦することができる。

学修目標：

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を実感する。
2. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
3. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション（様々なステップ）

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2 週目? 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 6? 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

評価

平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、

総合的に評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス(地域の人々が健康のために行っているダンス)を広め、指導にあたるインストラクター(ダンスムーブメント(ダンス的運動)インストラクターライセンスの受験資格)を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション(様々なステップ) ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2? 3 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 4? 6 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 7? 9 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

6) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

評価

評価 平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。忘れものは減点とする。

見学者は授業内容等（指定用紙）を記入し、毎時提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	教育とメディアA		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、コミュニケーション学科専門選択科目である。教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

科目の概要

学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば、インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い、メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

学修目標

- ・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴が理解できる。
- ・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深めることができる。
- ・教材の開発を通して、ICTを活用した教育の理解を深める。

内容

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア(1)
6	子どもと情報メディア(2)
7	情報教育とメディアリテラシ(1)
8	情報教育とメディアリテラシ(2)
9	メディアを活用した新しい学習(1)
10	メディアを活用した新しい学習(2)
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発(1)
13	メディアを活用した教材の開発(2)
14	教材の評価
15	まとめ

評価

各テーマ毎にレポート課題（3～4）を合計60%と、教材開発40%で評価をおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	教育とメディアB		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

幼児教育を目的としたマルチメディアによるオリジナル作品を制作します。

幼児教育とメディアに関する文献的研究、日本や欧米の幼児番組を見ての作品研究を経て、既成の絵本などを素材に音楽とナレーション、動画などによるマルチメディア作品を制作し、最終的に作品発表会というかたちでプレゼンテーションを行います。

また、作品の制作過程では音楽編集ソフト、映像編集ソフトなどの扱いも学ぶことになります。

なお、ピアノが弾ける、楽譜が読めるなどの音楽経験の有無は問いません。

内容

1	ガイダンス / ・コースの内容・このコースを受講してできるようになること・ルール
2	文献研究 / 幼児教育とメディア 小レポート提出
3	作品研究 / 日本やアメリカなどの幼児番組を見る 小レポート提出
4	素材選び、構成 / 絵本などの素材を選び、完成までのスケジュールを作成 提出
5	映像素材制作(1)
6	映像素材制作(2)
7	音楽制作(1)
8	音楽制作(2)
9	音楽制作(3)
10	ナレーション録音
11	マルチメディア編集(1)
12	マルチメディア編集(2)
13	マルチメディア編集(3)
14	プレゼンテーション(1)
15	プレゼンテーション(2)

評価

授業への参加度...60% 作品、レポート...40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書; 幼児音楽教育ハンドブック / 全国大学音楽教育学会

科目名	演劇論A（基礎）		
担当教員名	藤澤 茜		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人々を魅了する演劇はどのように誕生し、継承されてきたのでしょうか。この問題を解明することは、日本の文化、風土、宗教観、国民性などを理解し、私たちのルーツを探ることにもなります。この授業では、能や狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃などの伝統芸能を取り上げ、現代の演劇にどう継承されているかを明らかにし、外国の演劇との比較により日本の演劇の独自性についても検証します。

特に注目するのは歌舞伎です。現代のメディアと同様に社会現象を敏感に反映し、小説や浮世絵、落語等に影響を与えた歌舞伎の検証は、大衆演劇の意義や鑑賞者が演劇に求めた要素の解明の手がかりになります。また神の祭りを起源とするため、信仰と演劇という不可分の問題も検討できると考えます。

科目の概要

主に歌舞伎を取り上げ能や人形浄瑠璃、海外の演劇との比較を交え本質を明らかにします。宝塚やミュージカル、アニメーションにも対象を広げエンターテインメントとしての演劇のあり方を検証します。

学修目標

- (1)日本の伝統芸能や演劇、世界の演劇についての基礎知識を学びます。文献調査などのレクチャーを経て、特に興味を持った演劇については各自が検証し、レポートとして提出します。
- (2)絵画資料を通じて歌舞伎の本質を探ります。浮世絵を持参する機会を設け絵画の造詣も深めます。
- (3)ビデオ観賞を通じて、役者の演技、演出、舞台装置等の細かな部分に関しても理解を深めます。

内容

文献、脚本研究のほか、ビデオ観賞、絵画資料からの検証をまじえ視覚的に演劇をとらえて学びます。絵画資料については、主に浮世絵を取り上げます。2008年には浮世絵の検証をもとに元禄時代の上方の舞台復元（プロジェクトには藤澤も参加）が行われ、また歌舞伎の衣装の考証にも用いられるなど浮世絵は資料的な価値が高く、歌舞伎研究には不可欠な資料です。

以下のスケジュールで授業を進めます。

ガイダンス・日本の伝統芸能の流れ

能・狂言の歴史と魅力

歌舞伎の舞台構造を知る～能舞台の模倣時代から現代のコクーン歌舞伎まで

歌舞伎を創る 元禄上方和事復活上演までの軌跡・衣裳と浮世絵

市川團十郎と江戸の信仰

歌舞伎と人形浄瑠璃 「義経千本桜」の狐忠信

歌舞伎と話芸 「仮名手本忠臣蔵」と落語

歌舞伎と広告 「外郎売」など

浮世絵に見る歌舞伎 歌舞伎役者の人気を知る

歌舞伎の海外公演 パリオペラ座公演・平成中村座ニューヨーク公演

歌舞伎と海外の演劇（1）京劇（中国）・パンソリ（韓国）等アジアの芸能

歌舞伎と海外の演劇（２）シェイクスピアと蜷川幸雄

海外の演劇 「ロミオとジュリエット」・ミュージカル「ウエストサイド物語」

現代の演劇 宝塚「ベルサイユのばら」に見る華麗な舞台

現代のアニメーション 「千と千尋の神隠し」と日本文化

評価

毎時間の授業に関するコメント提出と、学期末にレポート提出を課します。配点の比率は、授業時のコメント30%、レポート70%とし、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。【参考書】開講後に指示。

授業時には毎回プリントを配布します。

科目名	演劇論B（発展）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、マスメディアコース表現文化群のうち、選択必修科目である。本科目では、現代のアメリカを中心とした演劇および舞台芸術について、歴史的背景や社会的文脈に位置付けつつ概観する。

ジャンル、規模において多様にひろがる舞台芸術の中から、現代社会の諸問題を読み解く視点を与えてくれる作家、作品を取り上げる。

学修目標は以下の3点とする。

1. 舞台芸術という媒体の特徴を理解する。
2. 授業で取り上げた演劇（舞台芸術）の概要を、歴史的・文化的諸条件の中で理解する。
3. 様々な資料から、現代社会の中での芸術のあり方を多角的に考察する。

内容

1	Introduction
2	アメリカ演劇のキャノン Tennessee Williams (1)
3	アメリカ演劇のキャノン Tennessee Williams (2)
4	アメリカ演劇のキャノン Arthur Miller (1)
5	アメリカ演劇のキャノン Arthur Miller (2)
6	キャノンへの挑戦 (1)
7	キャノンへの挑戦 (2)
8	キャノンへの挑戦 (3)
9	みんなのためのパフォーマンス:Circus Amok (1)
10	みんなのためのパフォーマンス:Circus Amok (2)
11	バレエとモダンダンス (1)
12	バレエとモダンダンス (2)
13	パフォーマンス・アート (1)
14	パフォーマンス・アート (2)
15	まとめ

評価

期末テスト（60％）、授業態度（10％）、提出物（30％）で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書等】授業で適宜紹介する。

科目名	日本語学（基礎）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。

母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？ を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。

単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。

大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 言語とは何？
- 第3回 日本語っていつからはじまったの？
- 第4回 言語とコミュニケーション
- 第5回 音声言語としての日本語（音声記号を書けるようにしよう！）
- 第6回 日本語音声の特徴
- 第7回 日本語方言の音声
- 第8回 音響分析と日本語
- 第9回 アクセントとイントネーション
- 第10回 方言とアクセント
- 第11回 文字の歴史
- 第12回 変体仮名を読む（古今集の恋の歌を読む）
- 第13回 表記のゆれと変化
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D < 60 C < 70 B < 80 A < 90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	日本語学（発展）		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

日本語の面白さを知る！

この授業は、アクティブラーニング（学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」）による参加型授業です。母国語として特に気づくこともなく使っている日本語を、何で？ どうして？を大切に言語研究でわかってきたさまざまな成果を元に考察していきます。単なる知識の伝授だけでなく、考えるプロセスも訓練しましょう。また、ことばや文化との関わりについて考えながら、情報の目利きとして生きることの楽しさについても考えていきましょう。みなさんの様々なアイデア・思考を期待します。大学での学び・気づきのきっかけになると嬉しいです。

内容

- 第1回 インストラクション（授業の方法と評価の仕方）
- 第2回 流行語・ことばの変化
- 第3回 正しいことば・間違ったことば
- 第4回 語彙1
- 第5回 語彙2
- 第6回 敬語・待遇表現
- 第7回 ことばのスタイル
- 第8回 ことばを調べる1
- 第9回 ことばを調べる2
- 第10回 ことばを調べる3
- 第11回 ワークセッション1
- 第12回 ワークセッション2
- 第13回 外国語と日本語
- 第14回 日本語を考える
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想（質問を含む） Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ（具体的な修正アイデア）」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント（提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント） レポート・課題・・・3~8ポイント（6回以上[授業2回につき1つ程度]課す） 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S（4回以上の欠席は受講放棄とみなします）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	ことばの心的メカニズム A (言語学 基礎)		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「ことばの心的メカニズムC」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべてを履修してください。

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学びます。

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得(英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得(英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得(形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は再試験を実施します。

- (1) 期末試験: 70%
- (2) 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います): 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』, 郡司隆男・西垣内泰介編, 研究社, 2800円. 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムB（音声学 基礎）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

マスメディアコース表現文化群Iの専門科目で、選択必修科目。なお、「ことばの心的メカニズムD(音声学 発展)」では、この科目よりも時間の長い発音（音連続・リズム・イントネーション）に注目して、英語での朗読やナレーションへと応用します。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B（音声学 基礎）・D（音声学 発展）」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

母語の個々の音（母音・子音・半母音）の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語を中心として、日本語との比較により発音のしくみを客観的に分析し、個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、必要に応じて、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

日本人にとって混同しやすい英語の発音（rとlなど）の聞き分けができ、また、自分でも発音し分けられるようになるには、ネイティブスピーカーの発音をただ単に聞き流すだけでは不十分な場合が多いのです。まず口の各部分の動きなどを頭で理解してから、自分で聞き分けができなくても発音の区別をつけて練習していくと、だんだんと聞き分けられるようになります。発音分析には頭の体操の要素もありますが、実際に声を出して実技に取り組んでください。

1	I. 現代英語の標準発音 II. 音声器官と音の分類 IX. 綴り字と発音
2	III. 母音-短母音 その1（母音の3つの特徴とKIT, DRESS, FOOT）
3	III. 母音-短母音 その2（TRAP, LOTの米音, STRUTの3母音間の区別）
4	III. 母音-長母音 その1（FLEECE, GOOSEと短母音との音色の区別）
5	III. 母音-長母音 その2（PALM, THOUGHT, NURSE, BATHの英米音, CLOTHの英米音）
6	III. 母音-二重母音（FACE, PRICE, CHOICE, MOUTH, GOATなど）
7	III. 母音-二重母音（rの二重母音）、三重母音、弱母音
8	IV. 子音-閉鎖音（帯気とsの影響）
9	IV. 子音-摩擦音 その1（唇歯音と歯音と歯茎音）
10	IV. 子音-摩擦音 その2（硬口蓋歯茎音と声門音）
11	IV. 子音-破擦音と鼻音
12	IV. 子音-流音と半母音
13	発音記号に親しむ（1） 英文の発音表記練習
14	発音記号に親しむ（2） 英文朗読への応用

評価

期末試験（聞き分けテストや発音記号の理解を含む）を60点、平常点（課題提出、小テスト等）を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 竹林滋 / 斎藤弘子著（2008）、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。

科目名	ことばの心的メカニズムC (言語学 発展)		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

言語学の関連分野については「ことばの心的メカニズムA」で、音声学・音韻論の分野については「ことばの心的メカニズムB・D」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となります。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修してください。

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論(英語の単語の構造)、統語論(英語の文の構造)、意味論(意味の構造)を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学びます。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたいと考えています。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、(ii)言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行います。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストがあります。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論(1): 形態論のめざすもの
3	形態論(2): 語の内部構造、形態素
4	形態論(3): 形態素分析
5	形態論(4): 語形成規則(偶発的な語形成規則)
6	形態論(5): 語形成規則(少し規則的な語形成規則)
7	形態論(6): 語形成規則(規則的な語形成規則)
8	統語論(1): 統語論のめざすもの
9	統語論(2): 句・文の内部構造
10	統語論(3): 句構造規則
11	統語論(4): 変形規則
12	意味論(1): 意味論のめざすもの
13	意味論(2): 語や文の意味の記述
14	語用論: 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を実施します。

(1) 期末試験: 70%

(2) 小テスト(毎回授業のはじめに前回授業の復習テストをします): 30%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布します。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	ことばの心的メカニズムD（音声学 発展）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語） / マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

マスメディアコース表現文化群Ⅰの専門科目で、選択必修科目。この科目には、「ことばの心的メカニズムB(音声学基礎)」で扱う英語の個々の音（母音・子音・半母音）に関する知識が役に立ちますが、これは前提条件ではありません。個々の音の集まりを長い朗読やナレーション活動に発展させます。「ことばの心的メカニズムA・C」と「B（音声学基礎）・D（音声学 発展）」を合わせれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことができるので、英語の教職課程を履修している学生はできる限り4科目すべての履修をお勧めします。

一般に、幼い子どもが言語を習得する際は、個々の音の正確な発音よりも、複数の音にわたって起こるリズムとイントネーション（韻律）の方を先に習得するといえます。しかし、外国語として英語を学ぶ者が、そのイントネーションを自然なものに近付けるには、いきなり勘にたよって「リズムよく真似」するよりは、英語のリズム・イントネーションの構造・体系・法則性のある程度頭で理解したうえで練習した方が効率がよいので、その手順で練習します。

内容

まず、プリントの会話練習を通して、教科書前半（第Ⅰ - Ⅳ, Ⅸ章）の内容（母音・子音）の全体像をつかむようにする。その後、教科書後半（第Ⅴ章以降）を扱う。

第2週には、英語の歌詞の中から、各自好きなものを選んで強弱に注意してジャズチャントの様に朗読して録音物を提出する。第14週には、説明的な文章または演説から好きな1節を選んで、英語らしいイントネーションで朗読して提出する。

1	【実践練習】： 母音と子音の違いが重要な道案内会話
2	【実践練習】： 歌詞などのジャズチャント風朗読（録音）
3	V. 音の連続 その1（音節）
4	【実践練習】： 音節のリズム（長短・強弱）と高低
5	V. 音の連続 その2（/str-/などの同一音節内の子音連続）
6	V. 音の連続 その3（単語間のリエゾンなど、音連続について）
7	V. 音の連続 その4（音脱落）
8	V. 音の連続 その5（同化などの音変化）
9	VI. アクセント その1（語、句、文のアクセント）
10	VI. アクセント その2（文の中の弱音節などについて）
11	VI. イントネーション その1（音調群と核音節）
12	VI. イントネーション その2（イントネーションの意味について）
13	VI. イントネーション その3（注意すべき英語イントネーションのパターン）
14	【実践練習】： 演説や散文の朗読（録音）
15	まとめ

評価

第2週の提出物を10点、第14週の提出物を20点、期末試験（音調群の核の聞きとりなどを含む）を35点、平常の授業参加点を35点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】竹林滋 / 斎藤弘子著 (2008)、新装版『英語音声学入門』（音声CD付）、大修館書店。（「英語音声学」でも教科書として使用します。）

【推薦書】Judy B. Gilbert著、_Clear Speech Student's Book with

Audio CD: Pronunciation and Listening Comprehension in

American English [Student Edition]3版 (2004)、Cambridge University Press . ISBN-13: 978-0521543545

科目名	ダンスパフォーマンス（基礎）		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

コミュニケーション学科の科目である。ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス（地域の人々が健康のために行っているダンス）を広め、指導にあたるインストラクター（ダンスムーブメント（ダンス的運動）インストラクターライセンスの受験資格）を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

この授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解するとともに、ジャンルにこだわらない実践を通してリズム感や体力向上を目指し、身体を感じ、心から楽しみ、実感を持って自分の感性につなげていくことをねらいとする。

学修目標

1. 「身体を動かすことの楽しさ」を実感する。
2. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
3. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。

内容

1) 1 週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション（様々なステップ）

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2 週目? 5 週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 6? 9 週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 10? 13 週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 14? 15 週目 作品として、仕上げ、発表

技術や鑑賞能力を高める。

評価

平常点（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	ダンスパフォーマンス（発展）		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ジャンルにとらわれない、楽しむダンスをめざす。

また、コミュニティダンス（地域の人々が健康のために行っているダンス）を広め、指導にあたるインストラクター（ダンスムーブメント（ダンス的運動）インストラクターライセンスの受験資格）を目指す人のための授業内容をおりこむ。

科目の概要

発展系であるこの授業では様々なダンスの特性や文化的背景を理解し、ジャンルにこだわらない実践を通すと同時に、自ら工夫し、新たな創作につなげることをねらいとする。

学修目標

1. からだのすみずみまで感じながら踊ることにより、感性を磨き、音楽のフィーリングを感じ取り、自ら工夫できるようにする。
2. ダンスが不得意な人も、リズムを感じて動くことにより、リズム感を養う。からだがかたい人も、動いたことのない動作をすることによって、動かしたことのない関節や筋肉を柔軟にするように心がける。
3. ダンスが得意な人も、苦手な人も、工夫や創作に挑戦し、新たな自分の可能性を探る。

内容

1) 1週目 授業内容についてオリエンテーション

毎回

W-up リズムに乗ったエクササイズ

移動でロコモーション（様々なステップ） ここで、工夫のトレーニングも行う。

その日の作品、部分練習

C-dn ストレッチまたはマッサージ

を行う。

2) 2? 3週目 リズムエクササイズ

基本の練習、リズムに乗って動きを楽しむ。体力を高める。

3) 4? 6週目 リズムムーブメント

動きのバリエーションを広げる

4) 7? 9週目 ダンスムーブメント

フィーリングを感じながら

5) 10? 13週目 ダンスムーブメント

創作に挑戦

6) 14? 15週目 作品として、仕上げ、発表

技術や評価・鑑賞能力を高める。

評価

評価 出席状況（授業時の課題に対する意欲、関心、態度、毎回のまとめを含める）80%、作品の発表および鑑賞20%等から、総合的に評価。忘れものは減点とする。

見学者は授業内容等（指定用紙）を記入し、毎時提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	教育とメディアA（基礎）		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、コミュニケーション学科専門選択科目である。教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

科目の概要

学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば、インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い、メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

学修目標

- ・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴が理解できる。
- ・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深めることができる。
- ・教材の開発を通して、ICTを活用した教育の理解を深める。

内容

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア（1）
6	子どもと情報メディア（2）
7	情報教育とメディアリテラシ（1）
8	情報教育とメディアリテラシ（2）
9	メディアを活用した新しい学習（1）
10	メディアを活用した新しい学習（2）
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発（1）
13	メディアを活用した教材の開発（2）
14	教材の評価
15	まとめ

評価

各テーマ毎にレポート課題（3～4）を合計60%と、教材開発40%で評価をおこなう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	教育とメディアB（発展）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

幼児教育を目的としたマルチメディアによるオリジナル作品を制作します。

幼児教育とメディアに関する文献的研究、日本や欧米の幼児番組を見ての作品研究を経て、既成の絵本などを素材に音楽とナレーション、動画などによるマルチメディア作品を制作し、最終的に作品発表会というかたちでプレゼンテーションを行います。

また、作品の制作過程では音楽編集ソフト、映像編集ソフトなどの扱いも学ぶことになります。

なお、ピアノが弾ける、楽譜が読めるなどの音楽経験の有無は問いません。

内容

1	ガイダンス / ・コースの内容・このコースを受講してできるようになること・ルール
2	文献研究 / 幼児教育とメディア 小レポート提出
3	作品研究 / 日本やアメリカなどの幼児番組を見る 小レポート提出
4	素材選び、構成 / 絵本などの素材を選び、完成までのスケジュールを作成 提出
5	映像素材制作（1）
6	映像素材制作（2）
7	音楽制作（1）
8	音楽制作（2）
9	音楽制作（3）
10	ナレーション録音
11	マルチメディア編集（1）
12	マルチメディア編集（2）
13	マルチメディア編集（3）
14	プレゼンテーション（1）
15	プレゼンテーション（2）

評価

授業への参加度...60% 作品、レポート...40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書；幼児音楽教育ハンドブック / 全国大学音楽教育学会

科目名	児童文学論A（日本文学 基礎）		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

魔術のような、現実世界ではありえないような論理が通用し、想像上の生物が活躍するファンタジー文学は、児童文学と深い関わりを持ってきました。この授業では、ファンタジー文学とは何かということを考え、日本におけるファンタジー文学の系譜を辿ったうえで、それが児童文学とどのように関わるのかを考えたいと思います。そのうえで、具体的に日本のファンタジー文学作品を取り上げて読み解きます。関連した児童文学作品や神話・昔話・伝説などや、参考文献を授業時間以外に読む意欲を持って受講してください。

内容

- (1) イントロダクション
- (2) ファンタジー文学とは何か
- (3) 児童文学とファンタジー文学
- (4) 日本のファンタジー文学の系譜（その一）
- (5) 日本のファンタジー文学の系譜（その二）
- (6) 角野栄子「魔女の宅急便」（その一）
- (7) 角野栄子「魔女の宅急便」（その二）
- (8) 上橋菜穂子「狐笛のかなた」（その一）
- (9) 上橋菜穂子「狐笛のかなた」（その二）
- (10) 上橋菜穂子「精霊の守り人」（その一）
- (11) 上橋菜穂子「精霊の守り人」（その二）
- (12) 荻原規子「空色勾玉」（その一）
- (13) 荻原規子「空色勾玉」（その二）
- (14) アニメとファンタジー文学
- (15) まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

評価

レポート60%、授業時の小レポートなど平常点30%、授業への参加度10%の配分で評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキストは開講時に指示します。参考文献は授業中必要に応じて紹介します。取り上げる予定の作品はできるだけ事前に読んでおいてください。

科目名	児童文学論C（欧米文学 基礎）		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は、科目分類マスメディアコース表現文化群 中の選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、アメリカ及びイギリスを中心とした児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要（作家・作品）を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	イントロダクション
2	19世紀イギリス ルイス・キャロル "Alice's Adventures in Wonderland" 他
3	19世紀アメリカ(1) ルイザ・メイ・オルコット "Little Women" 他
4	19世紀アメリカ(2) マーク・トウェイン "The Adventures of Tom Sawyer" 他
5	20世紀イギリス(1) ビアトリクス・ポター "The Tale of Peter Rabbit" 他
6	20世紀イギリス(2) J.R.R.トールキン "The Hobbit; or, There and Back Again" 他
7	20世紀アメリカ(1) ライマン・フランク・ボーム "The Wonderful Wizard of Oz" 他
8	20世紀アメリカ(2) フランシス・ホジソン・パーネット "The Secret Garden" 他
9	20世紀アメリカ(3) ローラ・インガルス・ワイルダー "Little House on the Praire" 他
10	20世紀イギリス(3) C.S.ルイス "The Lion, the Witch and the Wardrobe"他
11	20世紀イギリス(4) メアリー・ノートン "The Borrowers" 他
12	20世紀イギリス(5) フィリパ・ピアス "Tom's Midnight Garden" 他
13	20世紀アメリカ (4) E.B.ホワイト "Charlotte's Web" 他
14	20世紀アメリカ (5) モーリス・センダック "Where the Wild Things Are" 他
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宿子・牟田おりえ 編著 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年
その他、授業で適宜紹介する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日・70時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9 - 10月に開催される報告会で報告というすべての過程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部メディアコミュニケーション学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込 : 「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導 : 「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

担当教員 : 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート(40点)、受け入れ先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)の計100点で

総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日・70時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9 - 10月に開催される報告会で報告というすべての過程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部メディアコミュニケーション学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込 : 「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導 : 「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

担当教員 : 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を行う。

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

学生：実習・研修の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受け入れ先：受け入れ先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を提出してもらう。

巡回指導：実施期間中に教員が受け入れ先を訪問する巡回指導を行い、実施状況を確認する。

評価は学生のレポート(40点)、受け入れ先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)の計100点で

総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	角田 真二、橋本 ヒロ子、高橋 京子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアーすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

小テスト(50点)、期末試験(50点)等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	泉 直子、亀田 温子、阿部 史、角田 真二 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 現在活躍している社会人から話を聴き交流することで、仕事をする女性たちの生き方を学ぶ。同時に、4回のワークショップを通して学生自身がキャリアプランをつくる学習支援を行う授業である。

2、さまざまな分野で活躍するキャリアモデルとなる女性たちの実例に触れながら、仕事をするとはどのようなことなのか、社会とのかかわることの意味や自分の成長や生き方について学ぶ。大学卒業後、スムーズに職業生活をスタートさせるための基盤をつくる。

まず、1・2回はワークショップ形式でキャリア形成の基本となる考え方(興味、能力、価値観にそった仕事選びが充実した職業人生につながる)と各自が抱えている仕事に対するイメージを整理する。

次いで10名の職業人からそれぞれの仕事を持つ魅力について、さらに、自分にとって仕事とは何か、職業観・仕事観についての話を聴く。

最後の13・14回のワークショップでは、社会人講師の話から、職業生活からえられるものは何かを考え、自分自身のキャリアプランにつなげる。最後に、本授業を通じて各自の仕事に対するイメージがどう変化したか確認する。

3・ 社会で活躍する女性の状況をとらえる。

- ・自分自身のキャリアビジョンを描けるようにする

内容

1	ガイダンス、ワークショップ1(仕事に対する自分のイメージを認識する)
2	ワークショップ2(わたしのキャリアの棚御し)
3	野本範子氏(リコージャパン(株))「女性経営職の楽しさと永年勤続の魅力」
4	西井多栄子氏(りそな銀行)
5	畠山一郎氏ほか(広告社)「コミュニケーションをデザインする仕事」
6	好本 恵氏(フリーアナウンサー)「アナウンサーと放送~その仕事の醍醐味」
7	小島直子氏(アパレル関連)
8	菊田あや子氏(フリーアナウンサー)「仕事で人生を切り開く楽しさと充実感教えます」
9	山口美和子氏(プリンスホテル支配人)
10	藤原ゆき氏(富士通、SE)「フィールドSEの日常」
11	山崎菜々美氏(NPOカタリバ)
12	森 美香氏(NPOエンジェル・ケア・ハート)「起業をとおして自己表現」
13	ワークショップ3(自分にとっての仕事について考える)
14	ワークショップ4(仕事についての考え方の変化、キャリアビジョンを描く)
15	まとめ(総括討論)

評価

講師講演ごとに提出するリスト（60点）、ワークショップ4回の課題（30点）、および最終回の全体レポート（10点）の計100点で総合評価する。合わせて60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に随時紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習は、ともテレビについて研究するものである。つまり、各ゼミ生はテレビが抱える様々な課題に対して自分なりの問題意識をもってテレビに向き合う(=テレビを見る)ことから始まる。テレビが伝えるニュースや各種番組の視聴を通して、日本が、世界が、或いは地域社会が抱える様々な問題についても時事性意識をもって考える。

テレビはインターネットに追い上げられながらも、それが持つ影響力は依然として強い。そんな中、人々が真に必要なとする社会装置としての地位を維持し続けているかのは何故か。社会装置としてのテレビは「快適なもの」として受け入れられているか。テレビが提供する情報や番組は視聴者の疑問や批判にきちんと応えているか。テレビの娯楽番組は本当に人々に笑いや楽しみ、癒しをもたらしているか。テレビは豊かな生活に役立っているか。例えば、このような問題意識をもって日々のテレビを見ることが重要である。

各ゼミ生はテレビを通して感知した関心分野からそれぞれ研究テーマを選び出し、自分なりの「テレビ論」「ジャーナリズム論」等にまとめ上げ、最終学年での卒論執筆/制作につなげていく。

ただし、卒業論文、卒業制作は必ずしもテレビや放送、ジャーナリズムに直結したテーマでなくても可とする。テレビ(報道)を通して、世界や日本が抱える様々な問題に関心を持ち、それらを研究テーマとして取り組むことはむしろ歓迎するものである。

内容

とにかくテレビを見る。ただ漫然と見るのではなく、考えながら見る、見た後で考えることが重要である。「もし、自分が番組を作るディレクターだったら」「もし、現場に派遣されたレポーターだったら」どうする!」、という仮説を立ててテレビを見る、そして考える、ということである。

23年度は、南米アマゾンの秘境に住む「ヤノマミ」を取材/制作したドキュメンタリーを視聴して「家族/親子のありよう」を考えたほか、現代で言うところの「やらせ」をテレビ草創期の番組はどのように扱っていたか、残虐な映像を取り込んだ番組、例えば戦争報道番組と放送番組基準との関係等について研究した。

24年度も、これまでと同様にゼミ生の関心分野や卒業後の希望進路等を踏まえてテーマ設定等を考える。

評価

各ゼミ生の取り組み、意見発表、レポートを総合判断して評価する。

取り組み+意見発表=60点、レポート=40点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書は授業中に随時紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年次に専門科目の「ことばの心的メカニズムA(前期)」を履修していない学生は、3年次に履修してください。この演習を通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii)資料を自分で集め、整理、分析できることを目標とします。

内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。

- (1) 期末レポート： 50%
- (2) 授業内での発表： 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問えを含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 90(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は脳と脳内外コミュニケーションの演習です。呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。そんな「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までをゼミでは演習します。

内容

前半は脳の構造と機能、心理についての演習です。後半は脳の役割を学びます。

1. 導入：脳科学と心理学はどこが違うのか
2. 脳はどう進化したか
3. 子供の脳はどう発達するか
4. 大人の脳と老人の脳
5. 感情と脳の関係
6. 理解と脳の関係
7. 判断と脳の関係
8. 前半のまとめ(脳科学を中心に)
9. 脳と童話(脳と絵本、童話創作)
10. 脳と広告(注意)
11. 脳と嘘(錯覚、錯視、虚偽)
12. 脳と音楽(音を音楽にする脳)
13. 脳と絵画(脳が彩色する方法)
14. 脳と運動、社会、数
15. まとめ

評価

各テーマの理解度。

テーマに沿った本の要約レポート

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：『脳のしくみ』(新星出版)、最初の授業で配布します。

科目名	演習		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

内容

もし、言語音声に関連する科目である「ことばの心的メカニズムB, D」をまだ履修していなければ、演習Iと並行して履修してほしい。

本科目と演習IIとを合わせて、4年次の卒業研究へとつなげられるようにしたい。

【3年次前期】： 紙のノート（ルースリーフでないほうが望ましい）でもパソコンのファイルのプリントアウトでも良いので、ゼミ研究日誌をつける。このようなノートは、就職活動でゼミでは何をしているかと聞かれたときに役立つであろう。ゼミ担任と関心が合わない場合は、研究日誌は自分の関心に沿ったことだけを書いてもよろしい。

これまでの演習Iでは日本語音韻に関する本を読んだり、英語の絵本で朗読CDがついているものを使って、英語の学習を兼ねて朗読の練習をしたりした。また、TOEICの問題集にゼミの時間を割いたこともある。就職活動を前に、基礎的な学力の養成にも力を入れたいものである。

なお、設楽ゼミではこれまで懇親会や旅行を催して、協力関係を育てている。

【3年次夏休み】： 次年度の卒業研究のための実験・調査を行うことが望ましい。最低限でも、シラバスで「演習II」の内容を参照のこと。

評価

研究日誌を50点、授業中のゼミへの積極的な参加度を50点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教材】プリントの予定。

【推薦書】川越 いつえ 著(2007)、『英語の音声を科学する』新装版、大修館書店。

窪園 晴夫 著、西光 義弘 編(1998)、『音声学・音韻論(日英語対照による英語学演習シリーズ)』、くろしお出版。

ジョン・カニソン キャットフォード 著、竹林 滋・設楽 優子・内田 洋子 訳 (2006)、『実践
音声学入門』、大修館書店。

科目名	演習		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

優れた小説が面白いのはなぜでしょう。小説は人間を問題にします。ですから、小説を読む面白さとは、人生について、人間についての面白さです。わたしたちは一度の人生しか歩めません。そこでの経験は限られています。小説を読めば、自分以外の、まとまりのある個別的な人生を経験することができます。小説の中の人物の追体験をすることで、彼らと感情を共有し、人間についての知識を蓄え、彼らと同じように喜んだり、哀しんだりしながら、その完結した物語に感動するのです。虚構の世界での経験ではありますが、これが現実のわれわれに影響を与えないわけがありません。一冊の小説がその人の一生を決定づけることだって珍しくはありません。

小説家は社会の制約や既成の道徳にとらわれない、新しい人間像を示そうとします。常に人間の自由、解放を目指すからです。ですから小説は人生の新しい経験をわたしたちに与えてくれます。わたしたちの現実生活の中の不純物を取り除いたかたちで、そのエッセンスだけをわかりやすいかたちで与えてくれます。ところでこうした新しい人間像を示すには、人物造型に新しい描き方、新しい方法が必要になります。作家はこの新しい方法を見つけ出すことに精魂を傾けます。新しい人物像に新しい描き方がぴったり合ったときは、そこに調和のとれた美的世界が出現し、わたしたちは知的充足感とともに美的快感に酔うことができるのです。こうした小説の機能をイギリス小説で検討します。

内容

1. 19世紀以降のイギリス小説の流れを俯瞰します。
2. イギリス文学には優れた女流作家が多いが、男性原理の支配する社会の中で、家庭内を唯一の自己表現の場としていた女性たちが、いかにして自己に目覚め、魂の自由をもとめ、ついには自己実現の達成に至るのかを、オースティン、ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオット等で検証します。
3. 20世紀のE・M・フォースター、D・H・ロレンス、ヴァージニア・ウルフ等とモダニズムの関係をとらえつつ、これらの作家によっていかなる新しい人間像が提示されているのかを考えます。
4. これらの作家を中心にその代表作を個別に取り上げ、作家の伝記的事実、作品鑑賞、評価の面から皆で論じ合います。この過程を通して卒業研究へと対象を絞り込むようにします。
5. 論文の書き方については、(1)そもそも論文とはどんなものが、(2)なぜ書くのか、(3)テーマはどうして選ぶのか、(4)作品をどう読むのか、(5)参考資料はどのように集め、利用するのか、(6)論文をどのような手順と形式で書くのか、などの観点から扱います。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

レポート提出：40%、発表：40%、授業への参加状況：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は授業時間に随時指示します。

科目名	演習		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この授業は、社会情報学部コミュニケーション学科マスメディアコースの演習である。

「身体表現」を中心に「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」「身体活動」など様々なキーワードをもとに、「ダンス」から広い意味での「身体表現」までアプローチして行く。

科目の概要

直接身体活動を行ったり、DVDや舞台鑑賞をしたり、関連書籍を読み議論し合い、感性を養って行く。

学修目標

- 1) 卒業研究のための「素材」「種」を見つける
- 2) そのために、様々なアプローチを試みる
- 3) 卒業後の成長も見据え、一歩でも二歩でも今よりステップアップした女性を目指し、そのために何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする能力を育てて行く。

内容

- 1) オリエンテーション(自己紹介、面談等)
- 2) 様々なキーワードをもとに、自らの卒業論文にすべきテーマを探す
- 3) 提示された本の中から、最も他のメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明する。
- 4) それをもとにゼミのメンバーで議論する。新しい考え方や、他者の考え方(場合によっては相容れないこともあること)を受け入れつつ、取捨選択できるようにする。
- 5) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 6) 桐華祭などの発表場面における、身体表現活動の発表を企画段階からプロデュースし、必要な情報や技術、コンテンツを準備する。(実技から裏方の技術まで)
- 7) 本などの依頼により、様々な地域の現場における身体活動の指導者に直接インタビューを行い、記事にまとめる。

評価

平常点60%、準備、調査、発表40%。その他議論の際の発言や、準備・発表に対する姿勢など総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度適宜提示する。

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業研究につながる科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。その準備段階として自分の興味の方向性を定めていくことをこの科目の目的とする。

科目の概要

毎回ひとりの発表を行い、順に発表者を交代していく。テーマは自由に設定し、参考文献も自分で探す。基本的には口頭発表で、発表者以外のひとは質問ができるように要点を押さえながら聞く。

学修目標

1. 自分でテーマを設定し、必要な参考文献を探することができる。
2. 議論に参加できるような聞き方を身につける。
3. 他人が理解できるよう口頭で筋道をたてて話すことができる。

内容

- ・参考文献を読みこなし理解し、それを他人に伝えるプロセスを通じて、より深く理解を進めることができると期待される。
- ・発表後の議論から、新たな知見を得られることが期待される。
- ・テーマを設定できるよう普段からニュースなどに興味をもつ。
- ・図書館等で参考文献を探すことに慣れる。
- ・他人の発表を通して、自分の発表をより良いものにしていく。

評価

発表の状況、議論への参加度で評価する。60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力＝メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

内容

3年生の前半は各人の問題関心に関連する書籍を各人がこちらの指定する図書の中から選び、それを順番に発表してもらいます。

3年生の後半では、「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論＝産業研究、ジャーナリスト研究、送り手研究（メディア組織論）、内容分析（量的・質的）、受け手研究など＝を身につけてもらいます。同時進行で夏合宿で発表した卒論のテーマに関連する資料の発表をしてもらい、卒業論文のテーマを絞っていきます。

ゼミイベント計画

3年春学期：

新歓！

夏合宿（伊豆？）

3年秋学期：

ポーリング大会？

卒研発表会参加＋追い出し！

評価

ゼミでの発表、提出物など。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

- 『メディア用語基本事典』（世界思想社）
- 「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」（共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年）
- 「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）
- 「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）

科目名	演習		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

演習（ゼミ）の主たる目的を、メディアの「命」といってよいリアリズムをゼミ生がどれだけ実感できるかに置く。アカデミズムと現場のリアリズムの融合こそメディア系学科に求められるものと教員の立場で認識しているが、その狙いは、「帰納（具体的な実感を伴う体験） 演繹（普遍的真理の気付き）」のプロセス重視によって具現されると確信する。

本ゼミは、そういう観点からメディアのリアリズムに限りなく近づくメニューを用意して展開する。

内容

演習のツールは「日々発行される全国紙と地方紙等」であり、また本学で学生が中心となって制作している雑誌（冊子）「新座だより」「フリ ペーパー・ナチュラル」等である。

新聞は読み比べることによりメディアリテラシーが具備されと言われるが、そうしたキャンパス内での学びには限界があることも否めない。したがって本ゼミとしては、雑誌「新座だより」「ナチュラル」さらに「埼玉メディアニュース」といった刊行物の出版を評価し、リードすること等も通して、メディアのリアリズムとダイナミズムを理解し、ゼミ生の研鑽研究と就職活動の積極展開を導くこととする。

ゼミ生には、その意味で、「新座だより」「ナチュラル」編集の核となる学生編集部にもできるだけ参画することを望む。

評価

授業への取り組み姿勢を中心に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度指示。

科目名	演習		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本演習では、4年時に卒業研究を書くにあたって必要となる知識を獲得するために、『よくわかる卒論の書き方』を教科書にしながら、

- ・文献の集め方、読み方
- ・テキスト批評の方法
- ・レジュメの作り方、発表のやり方
- ・テキストを中心とした討論の方法

などの技術を身につけることを、第一の目標とする。

続いて、実際に「メディア文化」、「サブカルチャー」、「映画分析」に関する文献を読み進めながら、

- ・レポートや論文の構造と書き方、
- ・調査や分析の方法
- ・論理的な思考の方法
- ・理論的な言語を理解する方法

などについて、具体的に学んでいく。

内容

1～5回 ゼミに必要な様々な知識の習得

6～15回 毎週、論文を1本ずつ読みながら、論理構造や調査・分析の方法について学習し、批判的な思考を鍛える。

評価

授業への参加意欲(発表、討論等)30%、授業ごとに提出するミニレポート20%、学期末レポート50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房

推薦書

クリス・ロジック 『カルチュラル・スタディーズを学ぶ人のために』 世界思想社

アンソニー・ギデンズ 『社会学〔第五版〕』 而立書房

小林義寛他 『それぞれのファン研究』 風塵社

ジョアン・フィンケルシュタイン 『ファッションの文化社会学』 せりか書房

成実弘至 『コスプレする社会』 せりか書房

伊藤公雄編 『マンガのなかの 他者』 臨川書房

* 授業内で輪読する論文については、すべてプリントを配布します。

科目名	演習		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習は、ともテレビについて研究するものである。つまり、各ゼミ生はテレビが抱える様々な課題に対して自分なりの問題意識をもってテレビに向き合う(=テレビを見る)ことから始まる。テレビが伝えるニュースや各種番組の視聴を通して、日本が、世界が、或いは地域社会が抱える様々な問題についても時事性意識をもって考える。

テレビはインターネットに追い上げられながらも、それが持つ影響力は依然として強い。そんな中、人々が真に必要なとする社会装置としての地位を維持し続けているかのは何故か。社会装置としてのテレビは「快適なもの」として受け入れられているか。テレビが提供する情報や番組は視聴者の疑問や批判にきちんと応えているか。テレビの娯楽番組は本当に人々に笑いや楽しみ、癒しをもたらしているか。テレビは豊かな生活に役立っているか。例えば、このような問題意識をもって日々のテレビを見ることが重要である。

各ゼミ生はテレビを通して感知した関心分野からそれぞれ研究テーマを選び出し、自分なりの「テレビ論」「ジャーナリズム論」等にまとめ上げ、最終学年での卒論執筆/制作につなげていく。

ただし、卒業論文、卒業制作は必ずしもテレビや放送、ジャーナリズムに直結したテーマでなくても可とする。テレビ(報道)を通して、世界や日本が抱える様々な問題に関心を持ち、それらを研究テーマとして取り組むことはむしろ歓迎するものである。

内容

とにかくテレビを見る。ただ漫然と見るのではなく、考えながら見る、見た後で考えることが重要である。「もし、自分が番組を作るディレクターだったら」「もし、現場に派遣されたレポーターだったら」どうする!、という仮説を立ててテレビを見る、そして考える、ということである。

23年度は、南米アマゾンの秘境に住む「ヤノマミ」を取材/制作したドキュメンタリーを視聴して、「家族/親子のありよう」を考えたほか、現代で言うところの「やらせ」をテレビ草創期の番組はどのように扱っていたか、残虐な映像を取り込んだ番組、例えば戦争報道番組と放送番組基準との関係等について研究した。

24年度もゼミ生の関心分野や卒業後の希望進路等を踏まえてテーマ設定等を考える。

評価

各ゼミ生の取り組み、意見発表、レポートを総合判断して評価する。

取り組み+意見発表=60点、レポート=40点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書は授業中に随時紹介する。

科目名	演習		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	演習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習Ⅰに引き続き、演習Ⅱを通して各自興味のあるテーマを見つけ、4年次の卒業研究につながるようにします。

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、ことばを科学的に分析する力を養います。

(i)形態論、統語論、意味論、語用論の基本的知識を身につける、(ii)資料を自分で集め、整理、分析できる、(iii)言語学の分野において基本的な論証の仕方を身につけることを目標とします。

内容

基本文献の内容をレポーターが報告し、全員で問題点を検討するという形式で演習を行います。また、コーパスを使った資料の検索の方法、インフォーマントチェックの方法を実際の作業を通して身につけることも行いたいと思います。

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。

- (1) 期末レポート： 50%
- (2) 授業内での発表： 50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業内で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この演習では、日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

方言調査旅行研修や新語流行語の収集分析など実際にフィールドワークを行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)を作ります。Mind-Map思考法、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 言語研究とは何か
- 第3回 プレゼンテーション、レジメ、論文作成法
- 第4回 自己分析の実際
- 第5回 プレゼンテーション1
- 第6回 プレゼンテーション2
- 第7回 フィールドワーク方法論1
- 第8回 フィールドワーク計画
- 第9回 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 第10回 調査データ分析法
- 第11回 目標設定と達成のための方法
- 第12回 研究計画作成1
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成1
- 第14回 研究計画作成2
- 第15回 ライフビジョン・キャリアビジョン作成2

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。
 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A
 (4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中で指示します。

科目名	演習		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習Iで学んだ脳科学の基礎を土台に、自ら選んだテーマを掘り下げる。

内容

各自が卒業研究にむけてテーマを選び、発表、議論をしていきます。これによって、さらにテーマが具体的になる。これを後期にプレ卒業研究として提出します。

これまでのテーマを参考にあげておと、

1. 音楽と脳 癒しのメカニズム
2. くまのプーさんがカワイイわけ カワイイ感覚の脳科学
3. 香と記憶 香が感情に与える影響
4. 「色の心理的効果について」食における色の効果
5. 『脳は味をどう捉えるか』味覚の元を分析する
6. 子供の脳 感情のコントロール
7. 人格の形成 影響と変化
8. 潜在意識と顕在意識 言葉とイメージによる潜在能力の引き出し方
9. 脳と恋愛のメカニズム ---ひとはどう恋に落ちるか
10. 商品のイメージ作りとターゲット層
11. 記憶とは何か ワーキングメモリについて
12. 運動と脳 イメージングが運動に及ぼす影響について
13. 錯覚について
14. 作曲家の脳
15. 偽の記憶と冤罪

評価

テーマの具体性、完成度と研究の進捗状況によって。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自のプリント

科目名	演習		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

言語音声やその習得・パーソナルコミュニケーションに関するについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

研究日誌を付ける習慣をつくる。

内容

もし、言語音声に関連する科目である「ことばの心的メカニズムB, D」をまだ履修していなければ、演習IIと並行して履修してほしい。

本科目の研究内容を4年次の卒業研究へとつなげるために、演習Iに引き続いてゼミ研究日誌をつけ、それを使って学期末のレポートを作成する。

これまでの演習Iでは日本語音韻に関する本を読んだり、英語の絵本で朗読CDがついているものを使って、英語の学習を兼ねて朗読の練習をしたりした。また、TOEICの問題集にゼミの時間を割いたこともある。就職活動を前に、基礎的な学力の養成にも力を入れたいものである。

【3年次夏休み】： 各自、自分の関心を第一に考えて、演習 のレポートのテーマを考え、4年次の卒業研究の一部とするように心がける。自分の好きな事柄でないと卒業論文につながらないので、言語音声に関係ないテーマでもよい。テーマをきめるために、当然この時期の読書や取材・実験・調査も必要である。

【3年次後期】： ゼミ生の関心にできるだけ沿った書籍の一部分や論文を数点読む。ゼミ生はその都度研究日誌に書き足していく。研究日誌を使って、演習 の最終レポートをつくる。これは、卒業研究論文の一部とすることが望ましい。

なお、最近3年次後期にはゼミ旅行は企画しないようにしているが、以前は一泊旅行をしたこともある。つらい就職活動の合間に、簡単な懇親会をして激励しあうのはいいと考える。

評価

最終レポートを60点、研究日誌を40点として、合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】川越 いつえ 著(2007)、『英語の音声科学』新装版、大修館書店

窪園 晴夫 著、西光 義弘 編(1998)、『音声学・音韻論(日英語対照による英語学演習シリーズ)』

』、くろしお出版

ジョン・カニソン キャットフォード 著、竹林 滋・設楽 優子・内田 洋子 訳 (2006)、 『実践
音声学入門 』、大修館書店

科目名	演習		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

優れた小説が面白いのはなぜでしょう。小説は人間を問題にします。ですから、小説を読む面白さとは、人生について、人間についての面白さです。わたしたちは一度の人生しか歩めません。そこでの経験は限られています。小説を読めば、自分以外の、まとまりのある個別的な人生を経験することができます。小説の中の人物の追体験をすることで、彼らと感情を共有し、人間についての知識を蓄え、彼らと同じように喜んだり、哀しんだりしながら、その完結した物語に感動するのです。虚構の世界での経験ではありますが、これが現実のわれわれに影響を与えないわけがありません。一冊の小説がその人の一生を決定づけることだって珍しくはありません。

小説家は社会の制約や既成の道徳にとらわれない、新しい人間像を示そうとします。常に人間の自由、解放を目指すからです。ですから小説は人生の新しい経験をわたしたちに与えてくれます。わたしたちの現実生活の中の不純物を取り除いたかたちで、そのエッセンスだけをわかりやすいかたちで与えてくれます。ところでこうした新しい人間像を示すには、人物造型に新しい描き方、新しい方法が必要になります。作家はこの新しい方法を見つけ出すことに精魂を傾けます。新しい人物像に新しい描き方がぴったり合ったときは、そこに調和のとれた美的世界が出現し、わたしたちは知的充足感とともに美的快感に酔うことができるのです。こうした小説の機能をイギリス小説で検討します。

内容

1. 19世紀以降のイギリス小説の流れを俯瞰します。
2. イギリス文学には優れた女流作家が多いが、男性原理の支配する社会の中で、家庭内を唯一の自己表現の場としていた女性たちが、いかにして自己に目覚め、魂の自由をもとめ、ついには自己実現の達成に至るのかを、オースティン、ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオット等で検証します。
3. 20世紀のE・M・フォースター、D・H・ロレンス、ヴァージニア・ウルフ等とモダニズムの関係をとらえつつ、これらの作家によっていかなる新しい人間像が提示されているのかを考えます。
4. これらの作家を中心にしてその代表作を個別に取り上げ、作家の伝記的事実、作品鑑賞、評価の面から皆で論じ合います。この過程を通して卒業研究へと対象を絞り込むようにします。
5. 論文の書き方については、(1)そもそも論文とはどんなものが、(2)なぜ書くのか、(3)テーマはどうして選ぶのか、(4)作品をどう読むのか、(5)参考資料はどのように集め、利用するのか、(6)論文をどのような手順と形式で書くのか、などの観点から扱います。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

レポート提出：40%、発表：40%、授業への参加状況：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は授業時間に随時指示します。

科目名	演習		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この授業は、社会情報学部コミュニケーション学科マスメディアコースの演習である。

「身体表現」を中心に「からだ」「こころ」「スポーツ」「健康」「表現」「生活」「身体活動」など様々なキーワードをもとに、「ダンス」から広い意味での「身体表現」までアプローチして行く。

科目の概要

直接身体活動を行ったり、DVDや舞台鑑賞をしたり、関連書籍を読み議論し合い、感性を養って行く。

後期の「演習II」となると、動き中心から、ワークショップ形式を多く取り入れ、ゼミ生自身で問題発見、解決を導くような手法をとるようにする。

学修目標

- 1) 卒業研究のための「素材」「種」を見つける
- 2) そのために、様々なアプローチを試みる
- 3) 卒業後の成長も見据え、一歩でも二歩でも今よりステップアップした女性を目指し、そのために何をすべきか、自ら考え、自己をプロデュースする能力を育てて行く

内容

- 1) 様々なキーワードをもとに、自らの卒業論文にすべきテーマを探す
- 2) 提示された本の中から、最も他のメンバーに紹介したい項目を提示し、その理由を説明する。
- 3) それをもとにゼミのメンバーで議論する。新しい考え方や、他者の考え方(場合によっては相容れないこともあること)を受け入れつつ、取捨選択できるようにする。
- 4) 様々なジャンルのダンスに挑戦
- 5) 発表場面における、身体表現活動の発表を企画段階からプロデュースし、必要な情報や技術、コンテンツを準備する。(実技から裏方の技術まで)この部分は少しウエイトが軽くなる。
- 6) 本などの依頼により、様々な地域の現場における身体活動の指導者に直接インタビューを行い、記事にまとめる。

評価

平常点60%、準備、調査、発表40%。その他議論の際の発言や、準備・発表に対する姿勢など総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度適宜提示する。

科目名	演習		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業研究につながる科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。その準備段階として自分の興味の方向性を定めていくことをこの科目の目的とする。

科目の概要

前半で卒業論文作成に向けた論文の書き方について演習する。後半ではテーマ設定、文献の検索を行い、卒業研究に向けておおよその論理的な筋道をたてる。

学修目標

1. 論文の書き方を理解する。
2. 自分でテーマを設定し、必要な参考文献を探することができる。
3. 卒業論文に関しておおよその筋道をたてることができる。

内容

- ・演習問題をこなすことにより、論文の書き方、体裁について学ぶ。
- ・簡単な内容のレポートを作成し、論文の書き方を実践する。
- ・レポートの添削・修正を繰り返し、自分なりの論文のフォーマットを完成させる。
- ・テーマを設定する。
- ・必要な文献、資料を探す。
- ・卒業研究のおおよその筋道をたてる。

評価

作成されたレポートと卒業研究に向けた作業の進行状況について評価する。60%以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

科目名	演習		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース3年の必修科目

担当教員の専門である、国際コミュニケーションやトランスナショナル・ジャーナリズムについて、講義では詳しくできなかった部分を、ビデオ、インターネット、現地で蒐集した資料などを見せながら、より深く学んでいきます。最終的には、マスメディアと社会、文化の関係を理解して、マスメディアと賢く付き合えるための能力=メディア・リテラシーを身につけることができれば、と考えています。

内容

3年生の前半は各人の問題関心に関連する書籍を各人がこちらの指定する図書の中から選び、それを順番に発表してもらいます。

3年生の後半では、「マスメディアやマスコミをどのようにすれば研究できるか」という方法論=産業研究、ジャーナリスト研究、送り手研究(メディア組織論)、内容分析(量的・質的)、受け手研究など=を身につけてもらいます。同時進行で夏合宿で発表した卒論のテーマに関連する資料の発表をしてもらい、卒業論文のテーマを絞っていきます。

ゼミイベント計画

3年春学期：

新歓！

夏合宿(伊豆?)

3年秋学期：

ポーリング大会？

卒研発表会参加+追い出し！

評価

ゼミでの発表、提出物など。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書

『メディア用語基本事典』（世界思想社）

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」（共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年）

「グローバル・ジャーナリズム」（共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年）

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著（新曜社、2008年）

科目名	演習		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習(ゼミ)の主たる目的を、メディアの「命」といってよいリアリズムをゼミ生がどれだけ実感できるかに置く。アカデミズムと現場のリアリズムの融合こそメディア系学科に求められるものと教員の立場で認識しているが、その狙いは、「帰納(具体的な実感を伴う体験) 演繹(普遍的真理の気付き)」のプロセス重視によって具現されると確信する。

本ゼミは、そういう観点からメディアのリアリズムに限りなく近づくメニューを用意して展開する。

内容

演習のツールは「日々発行される全国紙と地方紙等」であり、また本学で学生が中心となって制作している雑誌(冊子)「新座だより」「フリ ペーパー・ナチュライフ」等である。

新聞は読み比べることによりメディアリテラシーが具備されと言われるが、そうしたキャンパス内での学びには限界があることも否めない。したがって本ゼミとしては、雑誌「新座だより」「ナチュライフ」さらに「埼玉メディアニュース」といった刊行物の出版を評価し、リードすること等も通して、メディアのリアリズムとダイナミズムを理解し、ゼミ生の研鑽研究と就職活動の積極展開を導くこととする。

ゼミ生には、その意味で、「新座だより」「ナチュライフ」編集の核となる学生編集部にもできるだけ参画することを望む。

評価

授業への取り組みを中心に評価。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度指示。

科目名	演習		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本演習では、4年時に卒業研究を書くにあたって必要な技術を習得するために、

1) フィールドワークを行う受講生は『フィールドワーク〔増補版〕』を教科書にしながら、

- ・フィールドワークの方法
- ・参与観察の方法
- ・アンケート調査の方法
- ・インタビュー調査の方法
- ・収集したデータのまとめ方

などについて、具体的に学んでいく。

2) 映像分析を行う受講生は、いくつかの論文を読みながら、

- ・映像分析の方法
- ・映像理解の技術

などについて、具体的に学んでいく。

続いて、受講者それぞれの興味・関心に基づいてフィールドワークか映像分析のどちらかを選択し、実際に調査・分析活動を行ってもらう。

最後に、調査・分析活動に基づいて各自が発表を行う予定である。

内容

- 1～7回 調査・分析に必要な技術の習得
- 8～12回 フィールドワーク/映像分析
- 13～15回 成果発表

評価

授業への参加意欲(発表、討論等)30%、授業ごとに提出するミニレポート20%、学期末レポート50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

佐藤郁哉 『フィールドワーク〔増補版〕』 新耀社

推薦書

ドミニク・ストリナチ 『ポピュラー文化論を学ぶ人のために』 世界思想社

村上由見子 『ハリウッド100年のアラブ』 朝日新聞出版

藤井仁子 『入門・現代ハリウッド映画講義』 人文書院

成実弘至 『問いかけるファッション：身体・イメージ・日本』 せりか書房

上野俊哉他 『アニメは越境する』 岩波書店

ジョン・トムリンソン 『文化帝国主義』 青土社

* 授業内で輪読する論文については、すべてプリントを配布します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の演習、 の成果を踏まえて、卒業研究/卒業制作に結実させる。

内容

各自が卒業研究/卒業制作として扱うテーマは、4年次のスタートとともに確定させる。その上で、必要な素材の収集/分析を進め、執筆/制作にあたる。

評価

素材の質と量 = 20点、分析の視点と独自性/創造性 = 40点、論述の構成 = 20点、文章表現力/制作力 = 20点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書/資料等は必要に応じて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ことばの心的メカニズムA」、「演習I・II」の内容が基礎となります。

言語学の研究領域のうち、形態論、統語論、意味論、語用論を中心に、各自が興味を持った分野について、基本的な文献を読むことに加え、資料を集め、整理・分析するといった作業を通して、卒業論文の執筆を始めます。

(i)研究テーマの設定ができる、(ii)先行文献を批判的に読み、研究テーマの方向性を決める、(iii)先行文献の内容をまとめることができることを目標とします。

内容

研究内容にかかわる先行研究を丁寧に読み、まとめるという作業を行ないます。

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とします。

- (1) 先行研究のまとめのレジュメ： 70%
- (2) 平常点(毎授業での発表)： 30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

評価

獲得したポイントにより下記のように評価します。* 毎回授業後48時間以内に まとめ&感想(質問を含む) Self-evaluationクラスの「良い点」「気になる点」「ネクストステップ(具体的な修正アイデア)」をメールで送信。 日常出席まとめ感想メール・・・1~7ポイント(提出【基礎点】... 1ポイント、まとめ&感想...1~3ポイント、Self-evaluation1~3ポイント) レポート・課題・・・3~8ポイント(6回以上[授業2回につき1つ程度]課す) 最終課題or試験・・・5~10ポイント 合計ポイントと評価・・・D<60 C<70 B<80 A<90 S(4回以上の欠席は受講放棄とみなします)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は脳と脳内外コミュニケーションの演習です。呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。そんな「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までを卒業研究ゼミでは演習します。

内容

各自が選んだテーマに沿って論文を書いていく。

1. 導入 (プレ卒業研究反省)
2. 論文の形式
3. 論文内容の検討
4. 引用に就いて
5. 参考文献の取り扱い
6. 他の研究領域との関係
7. インターネットからの引用の注意点
8. 下書き
9. 推敲方法
10. 比較検討
11. 誤字脱字の避け方
12. 論文の仕上げ
13. 首尾一貫性
14. 完成への注意点
15. まとめ

評価

月一度の校正によって判断。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の論文の校正

科目名	卒業研究		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

コミュニケーションについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

情報や考え方の出典の明記に特に注意する。

内容

昨年度の3年次演習I, IIでは、日本語教育や日本語音韻に注目し、日英語の発想の違いや英語や中国語の音韻との比較を行った。ゼミ研究日誌の奨励・チェックがあまりできなかったが、早くゼミレポートを卒業研究日誌へ発展させて、その充実に努めてほしい。

これまでの設楽ゼミ生の卒論の例は次の通り。

- * 海外ドラマ『gossip girl』、『24』の面白さの分析
- * 映画『ハリーポッター』の面白さの分析
- * 日本の戯曲とその英訳の比較
- * 80年代、90年代、2000年代のテレビドラマのせりふに現れる日本語の男女差を終助詞に注目して分析した論文
- * 英語の同音異義語が聞き取り問題に与える影響を実験した論文

このような研究以外にも、『ロミオとジュリエット』『オリバーツイスト』『キングコング』など、リメイク版のある映画作品を使って、新旧の発音が異なっているかどうかを調べるといのは卒論テーマの候補としていかがだろうか。「あまり違わなかった」という結論も一つの研究成果であるが、発音以外の視点で英語を検討したり、演技を比較したりするのもよい。

卒業研究の進捗状況のチェックは次のように行う。

- * 4年次4月～6月： 問題の分析、先行研究の分析、問題の修正、仮説の明確化、観察・実験の計画
- * 4年次7月～10月： 観察・実験・取材
- * 4年次11月～12月初旬： 文章化・添削

卒業論文執筆・就職活動・内定先研修・卒業旅行などの時間配分を計画的に行っていただきたい。他大学で卒業研究が選択制などところも多いため、就職内定企業が卒業論文執筆時期に研修を勧めることがあるので、執筆時間を確保することには特に注意していただきたい。

評価

卒業研究ノートの評価を60点、卒業研究論文（作品制作）（執筆・制作中）の評価を40点とし、計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考書】本年度シラバスの「ことばの心的メカニズムB（音声学基礎）、D（音声学発展）」、「演習I、II」の教科書・推薦書等を参照のこと。

科目名	卒業研究		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米文学、児童文学、欧米文化、英語研究、それぞれの研究テーマを3年次の演習から発展させ、卒業研究としてまとめます。

内容

毎週ゼミでそれぞれの論文の進捗状況を報告し、他学生と意見交換します。必要があれば個別指導を受け、論文の軌道修正をしながら卒業研究の完成を目指します。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

卒業研究の成果：80%、レポート提出、発表：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は随時、個別的に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめる。

内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。前期はそのための知識や情報を収集する期間として、各自の参考文献や共通な文献の読み合い、意見の出し合いなどしながら各自の考え方を固めていくことも同時に行っていく。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成(卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表)
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒研発表ポスターセッションでのプレゼン
5. 身体表現ゼミ卒業研究会における発表 (ゼミ関係2・3年生に呼びかける)

(以下は、平成23年度の卒研課題例)

阿波踊りの認知度と今後の期待～より多くの方に阿波踊りの魅力を伝えるために～

女性らしいダンス? フラダンス・ベリーダンス・フラメンコを比較して?

僕の私のベストテン!? この歌、明日に繋ぐ?

ディズニーキャスト? 彼らの魅力とは?

評価

準備状況等 50% 卒業研究内容 50% その他桐華祭参加状況、その他ゼミイベント参加状況、下級生教育等 総合的に評価する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

科目の概要

卒業論文には提出締切が存在する。年間でスケジュールをたて、目標設定から調査、章立て、執筆と計画的に行う。

学修目標

1. 3年の演習時にたてた筋道に従い、計画的に卒業論文を書き進めることができる。
2. 卒業論文はその体裁に則って作成する。
3. 卒業研究全体の作業の50%には到達していること。

内容

- ・漠然としたテーマでなく、どこまでを明らかにするのか明確な目標を設定する。
- ・できれば仮説をたてる。その仮説に関して調査を進めることが望ましい。
- ・様々な文献を調査して、客観性の高い結論を導く。
- ・論文の体裁を理解して、それに則って書き進める。

評価

卒業論文または卒業制作への取り組みを評価する。60%以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】使用しない

【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容(70%)および討論内容(30%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』(世界思想社)

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」(共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)

「グローバル・ジャーナリズム」(共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年)

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著(新曜社、2008年)

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の演習、 の成果を踏まえて、卒業研究/卒業制作に結実させる。

内容

各自が卒業研究/卒業制作として扱うテーマは、4年次のスタートとともに確定させる。その上で、必要な素材の収集/分析を進め、執筆/制作にあたる。

評価

素材の質と量 = 20点、分析の視点と独自性/創造性 = 40点、論述の構成 = 20点、文章表現力/制作力 = 20点 計100点 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書はない。参考図書/資料等は必要に応じて紹介する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 ユニバーサルデザイン、ヒューマンインタフェースの分野について学ぶ。

科目の概要 コンピュータなどの道具よりも道具を使う人間を中心に考え、人間に優しい道具のデザインを考える。よりわかりやすく言うと、年齢、性別、障害の有無などに関わらず、日常の全ての道具を、使う人間にとって使いやすく、わかりやすい、学びやすい道具のデザインを考える。

学修目標 遊園地にいるかのように、人間が思わず使いたくなる楽しい道具のデザインにすることを狙う。単なる思い付きではなく、人間の心理過程の考察に基づき、道具のデザインについて提案ができることを狙う。

内容

1. 研究

各自が選択した研究テーマについて考察を進め、論文や試作品を作成する。

世の中には、使いにくい道具、わかりにくい表現があふれている。自分の興味のある道具や表現などを一つ選択し、そのテーマについて、人間の心理過程の考察を行ない、道具のデザインについて考える。学習、思考といった高次認知機能だけでなく、視聴覚機能、運動機能、まで含めて総合的な考察を行なう。

例えば、高齢者が情報機器の使い方を学習する場合に生じる問題、がある。

2. コミュニケーション

自分一人で自分の研究テーマについて考察を進めるだけでなく、他の学生の研究テーマの発表を聞いて、積極的にコメント、質問をして欲しい。それによって、他の学生の研究を促進させる、自分の研究を別の角度から考察するきっかけとして欲しい。

評価

提出してもらった論文で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究Iで学んだことを発展させ、各自の選んだテーマに沿った卒業論文の指導を行います。

(i)研究テーマに沿った資料を自分の手で集めることができる、(ii)集めた資料を分析し、自分なりの主張を論じることができることを目標にします。

内容

卒研究に向けて、テーマの立て方、参考資料などの文献検索の方法、卒業論文の書き方などを指導します。卒業研究では、学生各自のテーマを設定し、それに添った形で発表をしてもらいます。毎週、それを添削します。積極的な授業参加が望まれます。

評価

平常点(40%)、卒業論文(60%)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の卒業研究のテーマに合わせて授業内で指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松永 修一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本語の変化やバリエーションなど言語研究を通しての専門的知識獲得と、社会に出てから必要とされる「自ら問題を発見し、解決する能力」を身につけることを目標とします。

卒業論文作成を行いながら自ら発信できるオリジナルコンテンツ(就活での自己PRの内容)の完成を目指します。Mind-Map思考法の発展、プレゼンテーションなどPCを用いた技能も併せて身につけ、言語化、可視化の訓練を行います。自らの変化を希望しそれに向かって努力する学生をサポートし育てます。体験重視型自己成長促進ゼミを目指します。ゴールは「人としての素敵さの獲得!」です。

内容

- 第1回 自己分析と現状分析
- 第2回 論文作成技法
- 第3回 卒論プレゼンテーション1
- 第4回 就活サポート1
- 第5回 卒論プレゼンテーション2
- 第6回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画1
- 第7回 ゼミ共同プロジェクトフィールドワーク計画2
- 第8回 調査データ分析法1
- 第9回 調査データ分析法2
- 第10回 卒論プレゼンテーション3
- 第11回 共同プロジェクト準備1
- 第12回 共同プロジェクト準備2
- 第13回 ライフビジョン・キャリアビジョン完成
- 第14回 PC論文作成サポート
- 第15回 フィードバック

評価

- 卒業研究中間発表提出...50%
- 卒業研究最終提出・発表...50%
- 60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示

科目名	卒業研究		
担当教員名	森田 勝之		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は脳と脳内外コミュニケーションの演習です。呼吸することから始まり食事、運動、考える、話す、芸術活動に至まで私たちは「脳」に依存しています。そんな「脳」の働きは私たちの感情や心理とどのような関係にあるのでしょうか。脳の発達の側面から、多岐にわたる活動までを卒業研究ゼミでは演習します。

内容

各自が選んだテーマに沿って論文を仕上げていく。

1. 前期の論文の検討
2. 論文の形式の検討
3. 論文内容の検討
4. 引用について校閲
5. 参考文献の取り扱い検討
6. 他の研究領域との関係を検討
7. インターネットからの引用の検討
8. 下書きの兼用
9. 推敲方法を検討
10. 比較検討
11. 誤字脱字の検討
12. 論文の完成度の検討
13. 首尾一貫性お検証
14. 完成への注意点
15. まとめ

評価

論文を、語彙の選択、論理性、首尾一貫性、説得力、の点から検討し評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各自の論文の種類によって推薦図書は異なるので指導ごとに推薦する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディアコース専門必修科目。

コミュニケーションについて自分なりの疑問・問題を発見し、仮説をたて、事実を観察したり実験を行ったりし、結論を出し、それを文章で表現することを通して、自分で思考する練習をする。

情報や考え方の出典の明記に特に注意する。

内容

昨年度の3年次演習I, IIでは、日本語教育や日本語音韻に注目し、日英語の発想の違いや英語や中国語の音韻との比較を行った。ゼミ研究日誌の奨励・チェックがあまりできなかったが、早くゼミレポートを卒業研究日誌へ発展させて、その充実に努めてほしい。

これまでの設楽ゼミ生の卒論の例は次の通り。

- * 海外ドラマ『gossip girl』、『24』の面白さの分析
- * 映画『ハリーポッター』の面白さの分析
- * 日本の戯曲とその英訳の比較
- * 80年代、90年代、2000年代のテレビドラマのせりふに現れる日本語の男女差を終助詞に注目して分析した論文
- * 英語の同音異義語が聞き取り問題に与える影響を実験した論文

このような研究以外にも、『ロミオとジュリエット』『オリバーツイスト』『キングコング』など、リメイク版のある映画作品を使って、新旧の発音が異なっているかどうかを調べるといのは卒論テーマの候補としていかがだろうか。「あまり違わなかった」という結論も一つの研究成果であるが、発音以外の視点で英語を検討したり、演技を比較したりするのもよい。

卒業研究の進捗状況のチェックは次のように行う。

- * 4年次7月～10月： 問題の分析、先行研究の分析、問題の修正、仮説の明確化、観察・実験・取材
- * 4年次11月～12月初旬： 文章化・添削

卒業論文執筆・就職活動・内定先研修・卒業旅行などの時間配分を計画的に行っていただきたい。他大学で卒業研究が選択制なところも多いため、就職内定企業が卒業論文執筆時期に研修を勧めることがあるので、執筆時間を確保することには特に注意していただきたい。

評価

卒業研究日誌の評価を40点、卒業研究論文(作品制作)の評価を60点とし、計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

本年度シラバスの「ことばの心的メカニズムB（音声学基礎）、D（音声学発展）」、「演習I、II」の教科書・推薦書等を参照のこと。

科目名	卒業研究		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米文学、児童文学、欧米文化、英語研究、それぞれの研究テーマを3年次の演習から発展させ、卒業研究としてまとめます。

内容

毎週ゼミでそれぞれの論文の進捗状況を報告し、他学生と意見交換します。必要があれば個別指導を受け、論文の軌道修正をしながら卒業研究の完成を目指します。

評価

以下の割合で点数化し、60点以上を合格とします。

卒業研究の成果：80%、レポート提出、発表：20%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じてプリントを配布します。参考図書は随時、個別的に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

身体表現ゼミであるが、ダンスにとらわれず身体活動を通して人間のあらゆる角度から幅広く表現することの意味、実践することの意義に焦点をあて、各人が興味を持って調べ、4年間の集大成として卒業研究をまとめることをねらいとする。

内容

自分の興味のあることを楽しみながら調べ、知識を深めていくことが重要である。

1. 研究テーマの設定
2. 研究計画作成(卒業研究提出日までの内容計画、中間発表、研究発表)
3. テーマに応じ、文献等を活用し取り組む
4. 卒業研究ポスターセッション参加
5. 身体表現ゼミ卒業研究発表会にて発表 (ゼミ関係2・3年生に呼びかける)

その他、『女子体育』に代表されるような外部機関誌における記事執筆や

学童保育における小学生へのダンス指導ボランティアなど、

外部へも、その企画から準備、方法論までを議論しながら積極的に取り組む姿勢を持つ。

評価

準備状況等 50% 卒業研究内容 50% その他ポスター発表参加、卒研発表会参加等 総合的に評価する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜指示する

科目名	卒業研究		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は卒業論文、または卒業制作を行っていく科目である。卒業研究とは、自分でテーマを選んで目標を設定し、その目標に向けて自分で資料を探して読みこなし、目標を達成していくものである。これまでの4年間で学習したことを十分に生かすことが期待される。

科目の概要

卒業論文には提出締切が存在する。年間でスケジュールをたて、目標設定から調査、章立て、執筆と計画的に行う。当然推敲する時間も必要である。

学修目標

1. 形式に則った論文を作成できる。
2. 自分で推敲することができる。
3. 議論を通してより完成度を上げることができる。

内容

- ・自分で推敲することができるよう、余裕をもって卒業論文の作成をする。
推敲には書き上げたのち、少し期間をおいてなるべく客観的に読むことが必要である。
- ・議論を通して、より良いものを目指していく。
- ・締め切りに間に合うよう、計画的に研究を進めていく。

評価

卒業論文または卒業制作への取り組みと、提出された作品を評価する。60%以上で合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【テキスト】使用しない
- 【参考図書】教室で紹介する

科目名	卒業研究		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる中で、自分の企画力、計画性、行動力、構成力、克己心などを向上させます。

内容

各人の研究成果の進捗状況を報告し、指導を受けます。

評価

プレゼン内容(70%)および討論内容(30%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

『メディア用語基本事典』(世界思想社)

「情報化社会をめぐる諸相 - 国境を越えるコミュニケーションのインパクト」(共著、田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』所収、P.216-232龍星出版、1996年)

「グローバル・ジャーナリズム」(共著、田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』所収、p.178-195.世界思想社、2004年)

「“違い”に注目すると見えてくる - 比較研究の必要性と考え方」『テレビニュースの解剖学 - 映像時代のニュース・リテラシー』 p. 40-54. 小玉美意子編著(新曜社、2008年)

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	大西 正行		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「キングレコード」プロデュースによる「音楽文化とビジネスの現場」

女性の感性の大切な部分をしめ、学生の音楽とビジネスへの関心がますます高まる今、キングレコードと関係する企業のトップ、幹部、社員から直接、音楽文化とビジネスの魅力、課題を学ぶ。「メディアの中の音楽」、「音楽トレンドと展望」、「キングレコードの歴史～現在」、「アーティスト、クリエイターの視点」、「CD制作現場とプロセス」「音楽企画作成実習」など幅広い学びと、音楽業界で働くことの楽しさ・厳しさを、講義、企画、実習、見学を通して吸収し、キャリアアップにも資する。(授業項目は見学期日等、一部微調整の可能性ある)

内容

1	オリエンテーション、この講座のねらい
2	音楽業界の現状と問題点
3	音楽パッケージビジネスの基本
4	著作権、権利ビジネスについて
5	音楽配信ビジネスに関して
6	キングレコードの歴史～現在
7	レコード会社の職種と求められる人材
8	CD制作現場～プロセス
9	メディアの中の音楽、音楽番組プロデューサーの視点から
10	アーティスト、クリエイタ の視点から
11	音楽トレンド、今後の展望
12	企画書プレゼンテーション等
13	関口台スタジオ見学等
14	キングレコード現場スタッフと交流等
15	キングレコード社長挨拶：まとめ

評価

授業への取り組み70点、試験30点の計100点で60点以上を合格とする。合格点に満たない場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて紹介する

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ実習」履修の事前授業である(「インターンシップ実習」を履修する場合は必ず履修すること。社会情報学科生およびコミュニケーション学科生も「インターンシップ」を履修する場合は、必ず履修すること。心理学科生で「インターンシップ」を履修する場合は、可能な限り履修すること)。

科目の概要

企業が求めている人材とは、ビジネスマナー、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識とインターンシップの内容、インターンシップをする際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職活動に直結しないが、インターンシップを経験することで充実した就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス(講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員
3	ビジネスマナー講座1 服装、電話の受け方、挨拶、職場での態度など
4	ビジネスマナー講座2 常識
5	企業のインターンシップ1 営業・販売(リコー・丸文堂・丸正飯塚などの担当者+学生)
6	企業のインターンシップ2 外食・食品(ケンタッキー、スカイラーク、佐藤農園など)
7	企業のインターンシップ3 メディア系(トップシーン・つばさエンタテイメント、東急ア)
8	企業のインターンシップ4 情報系(蓼科情報、クレッシェンド、東和エンジニアリングなど)
9	企業のインターンシップ5 出版系(NHK出版、あさ出版・埼玉新聞社などの担当者+学生)
10	企業のインターンシップ6 金融・企画系(りそな銀行・東急不動産などの担当者+学生)
11	自治体のインターンシップ(和光市役所、志木市役所、新座市役所、朝霞等の担当者+学生)
12	グループによる業界研究及び報告1
13	グループによる業界研究及び報告2
14	自分の適性を知り、自己PRを作成する
15	自己PRを1分間で発表、まとめ、授業評価

評価

レポートの内容(60%)、グループワークやその報告の内容(20%)、授業態度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度、提示する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

5日・35時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9-10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。

学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

参加学生は、実習・研修の成果をまとめたレポートを作成しキャリアセンターに提出する。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

報告会への参加：キャリアセンターが実施する報告会で報告

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

評価は可・不可。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が企業等において行う実習・研修という形で就業体験をする制度である。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。インターンシップを履修する学生は、前期に「インターンシップ入門」を履修すること

科目の概要

5日・35時間以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。終了後、9-10月に開催される報告会で報告というすべての課程を終了することで評価の対象になる。

学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。インターンシップに参加した学生の方が内定を早く取れる傾向がみられる。

内容

1. 特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを選んで行う。

学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

2. 実施手順

人間生活学部生活情報学科専門科目「インターンシップ入門」を事前に受講することが望ましい。なお、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員または担任教員に事前に相談すること。

申込：「インターンシップ入門」の授業で受け入れ先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受け入れ先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出する。

事前指導：「インターンシップ入門」で、インターンシップの内容、ビジネスマナー、心構えなどの事前指導を行う。

参加学生は、実習・研修の成果をまとめたレポートを作成しキャリアセンターに提出する。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

報告会への参加：キャリアセンターが実施する報告会で報告

3. 実施例(2011年度)

新座市役所、志木市役所、朝霞市役所、和光市役所、あさ出版、NHK出版、埼玉新聞社、オンワード樫山、クレッシェンド、東和エンジニアリング、蓼科情報、東急アド・コミュニケーションズ、トップシーン、丸正飯塚、リコージャパンなど)

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

評価は可・不可。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

随時紹介する。

科目名	映像女性論		
担当教員名	田中 東子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義では、イギリスおよびその関連諸地域で製作されたいくつかの映画を視聴し、映像を通じた文化の表現とその広がりについて分析していく。だれもが見て楽しむことのできる映画には、実は、社会問題や文化と政治に関係するトピックスがたくさん隠されている。特に、イギリスとその関連諸地域で製作された映画には、「ジェンダー/セクシュアリティ」、「ファッションと音楽」、「階級と教育」、「帝国主義と人種、ナショナリズム」、「食文化とライフスタイル」、などの様々な論点を読み取ることができる。個々のテーマが映像の中でどのように表現され、視聴する私たちにどのような知識や争点を与えてくれるか、という点に着目しながら、具体的に映像を分析・理解していく。

内容

1. イギリス映画の歴史とその特徴
2. 階級と教育(1)
3. 階級と教育(2)
4. ファッションと音楽(1)
5. ファッションと音楽(2)
6. ジェンダー/セクシュアリティ(1)
7. ジェンダー/セクシュアリティ(2)
8. ジェンダー/セクシュアリティ(3)
9. 食文化とライフスタイル(1)
10. 食文化とライフスタイル(2)
11. 帝国主義と人種、ナショナリズム(1)
12. 帝国主義と人種、ナショナリズム(2)
13. 帝国主義と人種、ナショナリズム(3)
14. 映像文化とイデオロギー
15. まとめ

評価

授業への参加意欲25%、授業ごとに提出するミニレポート25%、学期末テスト50%を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書

板倉巖一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子 『映画でわかるイギリス文化入門』 松柏社

狩野良規 『スクリーンの中に英国が見える』 国書刊行会

吉田徹夫、村里好俊、高瀬文広 『映画で楽しむイギリスの歴史』 金星堂

* 必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

科目名	児童文学論 A		
担当教員名	武田 比呂男		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

魔術のような、現実世界ではありえないような論理が通用し、想像上の生物が活躍するファンタジー文学は、児童文学と深い関わりを持ってきました。この授業では、ファンタジー文学とは何かということを考え、日本におけるファンタジー文学の系譜を辿ったうえで、それが児童文学とどのように関わるのかを考えたいと思います。そのうえで、具体的に日本のファンタジー文学作品を取り上げて読み解きます。関連した児童文学作品や神話・昔話・伝説などや、参考文献を授業時間以外に読む意欲を持って受講してください。

内容

- (1) イントロダクション
- (2) ファンタジー文学とは何か
- (3) 児童文学とファンタジー文学
- (4) 日本のファンタジー文学の系譜(その一)
- (5) 日本のファンタジー文学の系譜(その二)
- (6) 角野栄子「魔女の宅急便」(その一)
- (7) 角野栄子「魔女の宅急便」(その二)
- (8) 上橋菜穂子「狐笛のかなた」(その一)
- (9) 上橋菜穂子「狐笛のかなた」(その二)
- (10) 上橋菜穂子「精霊の守り人」(その一)
- (11) 上橋菜穂子「精霊の守り人」(その二)
- (12) 荻原規子「空色勾玉」(その一)
- (13) 荻原規子「空色勾玉」(その二)
- (14) アニメとファンタジー文学
- (15) まとめ

講義内容は必要に応じて変更することがあります。

評価

レポート60%、授業時の小レポートなど平常点30%、授業への参加度10%の配分で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキストは開講時に指示します。参考文献は授業中必要に応じて紹介します。取り上げる予定の作品はできるだけ事前に読んでおいてください。

科目名	児童文学論C		
担当教員名	佐藤 里野		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-マスメディアコース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	マスメディアコース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、科目分類マスメディアコース表現文化群 中の選択科目であり、現代の英語圏児童文学を、歴史的、社会的背景と関連付けつつ概観する。

授業では、アメリカ及びイギリスを中心とした児童文学を、年代順に扱う。主要な作家・作品の紹介だけでなく、歴史的、社会的な位置付け、及び現代社会における受容のあり方にいたるまで、多角的に考察する。

学修目標は以下の3点である。

1. 英語圏の児童文学史の概要(作家・作品)を理解する。
2. 歴史的・社会的諸条件における児童文学の位置付けを理解する。
3. さまざまな資料から、児童文学を多角的に考察する視野を学ぶ。

内容

1	イントロダクション
2	19世紀イギリス ルイス・キャロル "Alice's Adventures in Wonderland" 他
3	19世紀アメリカ(1) ルイザ・メイ・オルコット "Little Women" 他
4	19世紀アメリカ(2) マーク・トウェイン "The Adventures of Tom Sawyer" 他
5	20世紀イギリス(1) ビアトリクス・ポター "The Tale of Peter Rabbit" 他
6	20世紀イギリス(2) J.R.R.トールキン "The Hobbit; or, There and Back Again" 他
7	20世紀アメリカ(1) ライマン・フランク・ボーム "The Wonderful Wizard of Oz" 他
8	20世紀アメリカ(2) フランシス・ホジソン・パーネット "The Secret Garden" 他
9	20世紀アメリカ(3) ローラ・インガルス・ワイルダー "Little House on the Praire" 他
10	20世紀イギリス(3) C.S.ルイス "The Lion, the Witch and the Wardrobe"他
11	20世紀イギリス(4) メアリー・ノートン "The Borrowers" 他
12	20世紀イギリス(5) フィリパ・ピアス "Tom's Midnight Garden" 他
13	20世紀アメリカ (4) E.B.ホワイト "Charlotte's Web" 他
14	20世紀アメリカ (5) モーリス・センダック "Where the Wild Things Are" 他
15	まとめ

評価

期末テスト(60%)、授業態度(10%)、提出物(30%)で評価し、60点以上を合格とする。

試験や課題は、日本語で実施する。また、全授業の2/3以上出席することで評価を受けることができる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】プリントを配布する。

【参考書】桂宿子・牟田おりえ 編著 『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房、2004年
その他、授業で適宜紹介する。